

人間行動の論理構造

Michael Starks

意思決定研究から

	好きになる 傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI **	IA ***	アクシ ョン/ 語
サブリミナル効果	ない	はい/ ない	はい	はい	ない	ない	ない	はい/ ない
連想 (A) ルールベース (RB)	RB	A/RB	A	A	A/RB	RB	RB	RB
状況依存 (CD) 抽象化 (A)	A	CD/A	CD	CD	CD/A	A	CD/A	CD/A
シリアル (S) 平行 (P)	S	S/P	P	P	S/P	S	S	S
ヒューリスティック (H) 分析 (A)	A	H/A	H	H	H/A	A	A	A
アクティブが必要 記憶	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
一般的なインテリ ジェンス依存	はい	ない	ない	ない	はい/ ない	はい	はい	はい
認知的ローディ ング 抑制	はい	はい/ ない	ない	ない	はい	はい	はい	はい
覚醒は 促進 (F) また は抑制 (I)	I	F/I	F	F	I	I	I	I

Reality Press Las Vegas

Copyright ©マイケルスターク (2020)

Isbn : [978-1-951440-61-9](https://www.isbn-international.org/product/978-1-951440-61-9)

初版2月2020

すべての権利予約。本文書のいかなる部分も、作者の明示的な同意なしに複製、頒布、または送信することはできません。
印刷され、アメリカ合衆国でバインド。

「しかし、私はその正しさを満たすことによって世界の私の写真を得ませんでした:また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ:それは私が真と偽を区別する継承された背景です。 ヴィトゲンシュタイン OC 94

「今、それが私たちが関係している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前にあります。 ヴィトゲンシュタイン 「青い書」 p6 (1933年)

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、仮定をしているからです。ここでの説明に頭が悩まされているのなら、最も重要な事実を思い出すことを怠っているのです。 ヴィトゲンシュタイン Z 220

「哲学は単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測もしていません。すべての新しい発見や発明の前に可能な事に「哲学」という名前を付けるかもしれませんが。 ヴィトゲンシュタイン PI 126

「私たちが提供しているのは、好奇心ではなく、人間の自然史に関する本当の発言です。しかし、誰も疑っていない事実に対する観察ではなく、常に目の前にあるため、無言の事実には過ぎないのです。 ヴィトゲンシュタイン RFM I p142

「哲学の目的は、言語が止まるところに壁を建てることです。 ヴィトゲンシュタイン 哲学的機会 p187

「言語の限界は、文を単に繰り返さずに文に対応する事実(翻訳)を記述することは不可能であることによって示されています(これは哲学の問題に対する関天的な解決策と関係があります)。 ヴィトゲンシュタイン CV p10 (1931年)

「ここでの最大の危険は、自分自身を観察したいです。 LWPP1, 459

「機械プロセスは思考プロセスを引き起こす可能性がありますか?答えは:はい。実際、思考プロセスを引き起こすのは機械プロセスのみであり、「計算」はマシンプロセスに名前を付けず、通常はマシンに実装できるプロセスを挙げません。 サール PNC p73

"...計算としてのプロセスの特性は、外部からの物理システムの特性です。そして、計算としてのプロセスの識別は、物理学の本質的な特徴を特定するものではなく、本質的に観察者の相対的特徴である。 サール PNC p95

「中国語の部屋の議論は、セマンティクスが構文に固有ではないことを示し

ました。私は今、構文が物理学に固有ではないことを別々に異なる点にしています。サール PNC p94

「物理学に固有の構文を得る唯一の方法は物理学にホムンクルスを入れるだけなので、再帰分解によるホムンキュラスの誤りを排除する試みは失敗します。サール PNC p97

しかし、型作者や脳などの物理システムは、その計算シミュレーションと共有するパターンを特定することによって説明することはできません。...要するに、構文の帰属はそれ以上の因果関係を特定しないという事実は、プログラムが認知の因果関係の説明を提供するという主張に致命的である。物理的なメカニズム、脳、その記述の様々な実際の物理的および物理的/精神的な因果関係があります。サール PNC p101-103

「要するに、認知科学で使用される『情報処理』の感覚は、本質的な意図的性の具体的な生物学的現実を捉えるには抽象化のレベルが高すぎます。私たちは、「私は私に向かって来る車を見る」という同じ文が視覚の意図的性とビジョンの計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができるという事実によって、この違いに目がくらんでいます。認知科学で使われている「情報」という意味では、脳が情報処理装置であると言うのは単に誤りです。サール PNC p104-105

「理由文で報告された事実の性質と、エージェントの欲望、価値観、態度、およびエージェントとは無関係に合理的なエージェントに拘束力のある行動の理由はありますか？

評価。...伝統的な議論の本当のパラドックスは、ヒュームのギロチン、厳格な事実価値の区別を語彙で提起しようとするということです。サール PNC p165-171

"...すべてのステータス機能、したがって、言語を除くすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持つスピーチ行為によって作成されます。問題のステータス機能の形態は、ほとんど常に脱イオン力の問題です。何かを権利、義務、義務、要件として認識することは、行動の理由を認識することです。これらの脱イオン構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由を作ります。一般的なポイントは非常に明確です:行動のための欲望ベースの理由の一般的な分野の作成は、行動のための欲望に依存しない理由のシステムの受け入れを想定しました。サール PNC p34-49

「意図的性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、即時のフェノメノロジーの現実を持っていないので、フェノメノロジーの手の届かないところにあります。なぜなら、無意味さから意味を作るとは意識的に経験されていないからです。存在しません。これは。。。」「と、表見上の錯覚を見る。サー

「意識は脳のプロセスに対して因果関係を低下させる。そして意識は、基礎となる神経生物学の因果関係に加えて、それ自身の因果関係を持っています。しかし、因果関係の還元性は存在論的還元性につながりません。意識は経験としてのみ存在する。したがって、第三者のオントロジーを持つもの、経験とは独立して存在するものに減らすことはできません。サール PNC 155-6

"...心と世界の基本的な意図的な関係は、満足の条件と関係があります。そして、命題は、世界との意図的な関係に立つことができるものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は、条件を決定するのに十分なものとして定義されます。満足している、すべての意図的な性は命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

序文

「ヒビを理解する者は、ロックよりも形而上学に向かってもっとやるだろう」チャールズ・ダーウィン1838ノートブック M

この本は、人間の行動について (すべての人によるすべての本であるように)、そして、最近の猿の祖先を持つことの限界について (800万年またははるかに少ない視点による) とマニフェストの言葉や行為は、私たちの生来の枠組みの中で志向性の表に示されているような心理学。有名な改革者リチャード・リーキーが言うように、我々は猿から進化したことを念頭に置いておくことが重要です、しかし、すべての重要な方法で、我々は猿です。誰もがこれを本当の理解を与えられた場合 (すなわち、人間の生態学と心理学の実際に与える彼らは自分自身をコントロールする)、多分文明はチャンスを持つだろう。しかし、社会のリーダーは、その構成要素よりも物事を把握していないので、無秩序に崩壊し、独裁政権は避けられない。

高次思考 (マインド、言語、合理性、人格、志向性)、または言語ゲームのウィトゲンシュタインについての記述心理学である高階人間行動の論理構造の概観を提供するために、ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインとジョン・サールの主要な発見のいくつかについての批判的な調査をして、私の出発点としてウィトゲンシュタインの根本的証拠として、すべての真の「哲学的」(すなわち、高次の心理的) 問題が同じであることを、混乱特定の文脈で言語を使用する方法について、そしてすべての解決策は同じである—その真実の条件 (満足または COS) が明確であるように、問題の文脈でどのように言語を使用できるかを見て。基本的な問題は、1つが何かを言うことができますが、1つは、任意の発話と意味が非常に特定の文脈でのみ可能である (状態を明確に COS) ことはできません。私は、志向性の新しいテーブルと新しいデュアルシステムの命名法を採用して、2つの思考のシステムの最近の近代的な視点から分析を行います。

私たちが行うように振る舞う理由を理解することは非常に重要であるので、私は (ウィトゲンシュタイン主張として説明しない) 行動を記述しようとしません。私は、合理性の論理構造の簡単な見直しから始めて、言語 (マインド、合理性、人格) の記述のためのいくつかのヒューリスティックを提供し、これが社会行動の進化にどのように関連するかについていくつかの提案を与えます。これは、私がこの点で最も重要であることを発見した2人の作家を中心に、ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインとジョン・サールは、そのアイデアは、私が組み合わせて、行動の最近の理解と思考と推論の研究で非常に有用であることが実証されているデュアルシステム (思考の2つのシステム) の枠内に拡張します。私が考えているように、哲学とは、学問の規律に関する永続的な問いと、高次の思考 (行動) の記述心理学との間に、本質的に完全に重

なっているという見方があります。言語ゲームがどのように再生されるかという問題だけがあるというウィトゲンシュタインの洞察を把握したら、満足の条件(文を真にするか、納得させるかなど)を決定し、それが議論の終わりです。

哲学の問題は、私たちの生来の心理学の結果である、またはウィトゲンシュタインがそれを置くように、言語の **perspicuity** の欠如のために、彼らは人間の談話や行動を通して実行されるので、哲学的な分析のための無限の必要性があるだけでなく、'人間哲学、社会学、人類学、政治学、心理学、歴史、文学、宗教などの科学、しかし、物理学、数学、生物学の「ハードサイエンス」で。これは、経験的事実が何であるかについて、実際の科学的なものと言語ゲームの質問を混合するために普遍的です。経済学は今まで存在しており、マスターは私たちの前にそれを築いてきました、すなわち、ウィトゲンシュタイン(以下 **W**)は、1930年代初頭に青と茶色の本で始まります。

「哲学者は常に彼らの目の前に科学の方法を見て、たまらなくは科学が行う方法で質問し、答えるために誘惑されています。この傾向は、形而上学の本当の源であり、完全な暗闇に哲学者を導きます。(BBB p18)

それにもかかわらず、ウィトゲンシュタインの仕事を本当に理解し、それ故に私たちの心理学がどのように機能するかということは、特に **P.M.S. ハッカー**(以下 **H**)と **ダニエレ**による21世紀の第2の十年に広がっています。**Moyal-Sharrock**(以下 **DMS**),しかし、他の多くにも、私は記事で言及誰のより目立つのいくつか。

Horwich私は今まで見た中で最も美しい要約を与えますウィトゲンシュタインの理解が私たちを残しています。

「私たちの言語的/概念的な活動 (**PI 126**) を説明する試みが、フレーゲの論理への算術の削減;それに認識論の基礎 (**PI 124**) を与えようとする試みは、事前知識の意味に基づいています。ある意味での理想的な形態 (**PI 130**) の特徴を特徴付ける試みはないロジック **Mackie** の誤り理論のように (**PI 124, 132**) それを改革する試みはありません。ダメットの **intuitionism**;それを合理化する試みはありません (**PI 133**) クワインの存在のアカウントのように;それをより一貫性のあるものにしようとしな (**PI 132**) 嘘つきパラドックスへの測度の応答のように;そして、奇妙な架空の「テレポーテーション」シナリオのための個人的なアイデンティティの質問のセトリングのように、それをより完全にする試みはありません (**PI 133**)。

ウィトゲンシュタインには無数の本や記事がありますが、私の見解ではごく最近のもの (**DMS, H, Coliva**など)彼の完全な感謝の近くに来て、誰もが行動の他の近代的な天才の一つに彼の仕事を関連付けるために真剣な試みをしな

いくださいジョン・サール (以下、S) そして、人から哲学の問題に思考フレームワークの強力な2つのシステムを適用していません進化心理学の視点私はここでこれをしようとします。

私は、志向性 (マインド、言語、行動) の論理構造に関するウィトゲンシュタインとサールの主要な所見のいくつかについて批判的な調査を行い、私の出発点としてウィトゲンシュタインの根本的な発見として、真に「哲学的」な問題をすべては、特定のコンテキストで言語を使用する方法についての混乱であり、すべてのソリューションは同じであり、問題のコンテキストで言語を使用して、その真実の条件 (満足度または COS) が明確になるようにする方法を検討しています。基本的な問題は、1つが言うことができるということです何かしかし、1つは、任意の発話と意味が非常に特定の文脈でのみ可能である (状態を明確にする COS) ことを意味することはできません。志向性の新しいテーブルと新しいデュアルシステムの命名法を採用して、2つの思考システムの観点から様々な著作を分析します。

私は数年前に「確実性について」を読んだとき、私は哲学と心理学の基礎石として、行動を理解するための最も基本的な文書としてのレビューでそれを特徴付け、同じ時間 DMS は、それが千年を解決していたことを指摘記事を書いていた私たちは特定のために何かを知ることができる方法の古い認識論問題。私は W が2つのシステムまたは二重の思考のシステムとして特徴付けられているものを把握する最初の1つであることに気づきました、私は生成デュアルシステム(S1 と S2) の用語は、私は行動を記述する上で非常に強力であることがわかった。私はジョン・サール (以降) が使用していた小さなテーブルを取り、それを大幅に拡張し、それが思考と推論の研究で様々な現在の労働者によって使用されているフレームワークと完全に統合したことを後で発見しました。

彼らは個別に公開されているので、私は本のレビューと記事が可能な限り、自分自身で立つようにしようとしました、そして、このアカウントは様々なセクションの繰り返し、特にテーブルとその説明。私は志向性のテーブルを提示し、その用語と背景を簡単に説明する短い記事から始めます。次に、はるかに長い記事では、W と S の作業の調査を試みているので、それは、理解または説明 (W が主張したように) 行動のテーブルに関連しています。

ここで目立つ特徴を持つ志向性 (合理性、心、思想、言語、人格など) の表は、より正確に、または少なくともヒューリスティックとして機能し、我々が考え、行動する方法であり、そうでないことを包含するという私の主張です単に哲学と心理学だけでなく、他のすべて (歴史、文学、数学、政治など)。特に1としての志向性と合理性 (サール、ウィトゲンシュタインおよび他のものと共に) を見ると、意識的審議システム2と無意識の自動システム1の行動または反射神経の両方が含まれることに注意してください。

抜け目は、私たちが仕事でシステム1を見ることができない理由を疑問に思うかもしれませんが、動物があらゆる行動について考えたり、2度目に推測したりするのは明らかに逆効果であり、いずれにせよ、ゆっくりとした超統合システム2が一定のあけに関与する時間はありません私たちがしなければならない2番目の「決定」の am。W が指摘したように、私たちの「思考」(T1 またはシステム1の「思考」)は、直接行動に導く必要があります。

私たちについてのすべての鍵は生物学であり、それは、オバマ、チョムスキー、クリントン、ローマ法王のようなスマートな教育を受けた人々の何百万人が地球上でまっすぐに地獄に支持自殺ユートピア理想を *obliviousness* に導くことにあります。W が指摘したように、それは見て最も困難である私たちの目の前に常にあるものです。私たちは、意識審議言語システム2の世界に住んでいますが、それは無意識であり、自動再帰システム1そのルール。これは、サルが現象学的錯覚 (TPI) として記述した普遍的な失明の源であり、ブランクスレートとしてピンカー、トゥービー『・コズミデスを標準社会科学モデルとしています。

私が注意しているように、現象学的錯覚 (私たちの自動化されたシステム1に忘却) は普遍的であり、単に哲学を通してではなく、人生を通して拡張します。私は確信していますチョムスキー、オバマ、ザッカーバーグと教皇は、彼らがヘーゲル、フッサールとハイデガーと同じ問題に苦しむことを言われた場合、懐疑的であろう (または彼らは彼らの刺激によって動機づけされている薬物と性中毒者からの程度でのみ異なることを)腹物と核を介してドーパミン (および100他の化学物質) の送達による前頭皮質坐) が、それは明らかに真実です。一方、phenomenologists は多くの人々の時間を浪費しただけで、彼らは地球と子孫の未来を浪費している。

現代の「デジタル妄想」は、システム2の言語ゲームをシステム1の作り出すと混同するので、他の種類の機械 (すなわち、コンピュータ) からの生物学的機械 (すなわち、人々) を区別することができない。「reductionist」という主張は、「より低い」レベルで行動を説明することができるということですが、実際に起こるそれは人間の行動を説明するのではなく、それを「我慢」することです。したがって、サールのデネットの本の古典的なレビューのタイトル (「意識は説明した」)-「意識は離れて説明した」。ほとんどのコンテキスト脳機能、生化学、または物理学へのより高いレベルの創発的行動の「減少」は、一貫性がありません。また、化学や物理の「削減」のために、パスはカオスと不確実性によってブロックされています (そして、カオス理論は、両方が不完全であることが示されていますゲーデルのセンスと決定不能)。どのようなものでも「表現」することができますが、それらが「高次の振る舞い」を表しているときは、「結果」の意味を明確にすることはできません。Reductionist 形而上学は冗談ですが、ほとんどの科学者や哲学はユーモアの適

切な感覚を欠いています。

私は私のコメントを統一された全体に溶接したいと思っていましたが、ウィトゲンシュタインと AI の研究者が行ったように、心 (ウィトゲンシュタインが示した言語とほぼ同じ) は、多くの文脈のために進化した異種の断片のモトリーであり、そのような全体が存在しないことに気づきました。包括的な適合性を除く r 理論, すなわち, 自然淘汰による進化。

最後に、私の90のようにいくつかの記事と9他の本、および50年以上のすべての私の手紙と電子メールや会話では、私は常に「彼女」、「彼女/彼」、または「彼女」または「彼女」のばかげた逆性差別の代わりに、それらを使用している、おそらくこれを行うには、銀河のこの部分で唯一のものである。これらの普遍的に適用された悪質の海賊版使用vocablesもちろん、学術的な哲学、民主主義と産業文明の崩壊を生成する私たちの心理学の欠陥と密接に接続されており、私は読者のための練習として、これらの接続の詳細な説明を残します。

に興味のある方私の他の文章は、ルートヴィヒウィトゲンシュタインとジョンサール3rにおける哲学、心理学、心と言語の論理構造、第二 ed (2019) を話す猿を見ることができます^d(2019)、民主主義による自殺2nded (2019) と自殺ユートピア妄想21st世紀4thed (2019)。

私は私の仕事の多くの欠陥と制限を認識し、継続的にそれを修正しますが、私は12年前の65で哲学を取り上げたので、それは奇跡的であり、System 1 作り出すの力に対する雄弁な証言であり、私は何でもできました。それは絶え間ない闘争の10年だったと私は読者がいくつかの使用のそれを見つけることを願っています。

mstarks3d@yahoo.com

の論理構造人間の行動

「これが私の手であるかどうか疑問に思ったら、「手」という言葉が意味を持つかどうかを疑うのをどのようにして避けることができますか?だから、それは私が知っているように見えるものです, 結局. "ウィトゲンシュタイン「確実に」 p48

「どのような進歩があるのかというと、魅惑の神秘は取り除かれましたが、慰めに plumbed された深さはありません。何も説明したり、発見したり、reconceived たりしていない。どのように飼いならずとパッとが考えるかもしれません。しかし、おそらく、ウィトゲンシュタインが示唆しているように、明快さ、謎解きと真実の美德は十分に満足していることを見つけるべきである "--Horwich ' ウィトゲンシュタインのMetaphilosophy'.

まず、ウィトゲンシュタインの基本的な発見(実験やデータ収集によって解決されないもの)はすべて同じであり、特定の文脈で言語を使用する方法については混乱であることを思い出してください。ソリューションは同じで、問題のコンテキストで言語を使用して、その真実の条件 (S の条件) を見ることができます。atisfaction または COS) は明確です。基本的な問題は、1つが言うことができるということです何かしかし、1つは、任意の発話と意味が非常に特定の文脈でのみ可能である(状態を明確にする COS) ことを意味することはできません。したがって、彼の最後の傑作では、「確実性で」(OC) は、多くの場合、ナレーター、対談とコメンテーターの彼の3典型的な視点から、よく使用を決定するために読者を残して、「知っている」、「疑い」と「特定」の言葉の様々な用途の明快例を見ている(各文脈における文の最も明瞭な COS)。一つは、関連する文の使用を記述することができ、それはその終わりである-隠された深さ、形而上学的洞察力はありません。「意識」、「意志」、「空間」、「時間」などの「問題」はありませんが、これらの言葉の使用(COS)を明確に保つ必要があります。ほとんどの哲学者は、他の行動分野のものや物理学、生物学、数学に注意を向けるのではなく、学術的哲学に特有の言語的混乱に時間を浪費し続けることは本当に悲しい必死に必要です。

Wは本当に何を達成しましたか?ここでは、一流のウィトゲンシュタイン学者が彼の作品を要約した方法です:「ウィトゲンシュタインは、何世紀にもわたって私たちの主題を付きまとった深い問題の多くを解決しました, 時には確かに二千以上のために、言語表現の性質に関する問題, について思想と言語、独我論と理想主義、その他の心の自己知識と知識、そして必要な真理と数学的命題の本質について

の関係。彼は、論理と言語のヨーロッパ哲学の土壌を耕し。彼は私たちに心理学の哲学についての斬新で非常に実りある洞察を与えてくれました。彼は数学と数学的真理の性質について何世紀にもわたるリフレクションを覆すことを試みました。彼は **foundationalist** 認識論を傷つけた。そして、彼は私たちに、人間の知識ではなく、人間の理解に対する貢献としての哲学のビジョンを遺贈しています-私たちの思想の形と、我々が墮落しがちな概念的な混乱の理解を。—ピーター・ハッカー—『ゴードン・ベイカーのウィトゲンシュタインの後期解釈』

高速自動不成立 S1 と遅い反射言語対価 S2-これに私は、W が明確かつ広範囲に思考の2つのシステムを説明する最初のものであったことを追加します。彼は、判断のための公理的基礎であり、疑うか、または裁かれることができない広大な継承された背景でのみ行動が可能であることを説明したので、意志 (選択)、意識、自己、時間と空間は生来真のみの公理です。彼は何千ものページで、私たちの内部の精神的な経験が言語で記述ではない方法の例の数百に注意、これは、公共の言語での行動のためにのみ可能である (プライベート言語の不可能)。彼は、**paraconsistent** ロジックの有用性を予測しました。ちなみに彼は30年によって、ローターを駆動するためにブレード先端ジェットの使用を予測し、遠心流ガスタービンエンジンの種子を持っていたヘリコプターの設計を特許取得し、ハートビートモニターを設計し、設計し、建物を監修モダニズムの家は、その後、他の人が完了し、オイラーの定理の証明をスケッチしました。彼は数学、論理、不完全、無限の心理的な基礎をレイアウトしました。

Horwich最も美しい概括を与えますY私が今まで見たことがあるのは、ウィトゲンシュタインの理解が私たちを去るところ。

「私たちの言語的/概念的な活動 (PI 126) を説明する試みが、フレーゲの論理への算術の削減;それに認識論の基礎 (PI 124) を与えようとする試みは、事前知識の意味に基づいています。センス論理のように、理想化された形式の *it* (PI 130) を特徴付ける試みはありません。Mackie の誤り理論のように (PI 124132) それを改革する試みはありませんダメットの *intuitionism*;それを合理化する試みはありません (PI 133) クワインの存在のアカウントのように;それをより一貫性のあるものにしようとしない (PI 132) 嘘つきパラドックスへの測度の応答のように;そして、奇妙な架空の「テレポーテーション」シナリオのための個人的なアイデンティティの質問のセトリングのように、それをより完全に試みはありません (PI 133)。

彼は常に生来の背景の必要性を説明し、それが行動を生成する方法を実証して以来、彼は、最初の進化心理学者として見ることができます。誰もそれに気づいていないようだが、彼は後になったものの背後にある心理学を説明した十三日テスト-進化心理学で使用される基本的な尺度 (EP) 数十年後。彼は、言語の不確定または考慮の性質と社会的相互作用のゲームのような性質に注意しました。彼は機械と心の計算論としての心の概念を説明し、論破、実用的なコンピュータの前に長い

またはサールの有名な文書。彼は論理と哲学の使用のための真理のテーブルを発明しました。彼は断固として懐疑と形而上学を休ませるために横たわった。彼は、不可解ではなく、心の活動が私たちの前に開かれていることを示しました、いくつかの教訓は、以来学んだ。

ウィトゲンシュタインについて考えるとき、私はしばしばケンブリッジ哲学教授 C.D. (彼を理解していないと彼のような) に起因するコメントを思い出します。「ウィトゲンシュタインに哲学の椅子を提供しないことは、アインシュタインに物理学の椅子を提供していないようになります!私は彼を直感的な心理学のアインシュタインと考えています。10年後に生まれただけでも、彼は同様に現実の本質についての考えを世界のほぼ同時に、そして同じ部分で孵化させました、そして、アインシュタインのように、WW1 でほぼ死にました。アインシュタインは、混乱し、しばしば誤解されたが、世界的に有名になった彼のアイデアの1つの初期バージョンのみを発表した困難な性格を持つ自殺同性愛世捨て人であったと仮定します。完全に彼のアイデアを変更したが、次の30年のために何も公開されていない、と彼の新しい作品の知識は、ほとんど文字化け形式で、時折講義や学生のノートからゆっくりと拡散しました。彼は1951で死亡したことは、多くの場合、前または後の文に明確な関係を持つ文章や短い段落で構成され、ドイツ語で主に手書きの落書きの2万ページの上に残ります。これらは、以前に書かれた他のノートブックから切り取って貼り付けたもので、マージンにメモがあり、underliningsそして、多くの文が複数の変種を持っているように、単語を取り消しました。彼の文学幹部は、彼らが望んでいたものを除外し、宇宙がどのように動作するかを全く斬新な見解を伝えていた文の正しい意味をキャプチャするという巨大なタスクに苦勞して、それらを残して、作品にこの難消化性の塊をカットし、その後、それが何であったかの本当の説明を含まない前れるで (半世紀後に終わっていない) 苦澁の遅さでこの材料を発表しました。彼は、すべての以前の物理学は間違いであってもナンセンスであった多くのステートメントのために有名なように多くの悪名高いとなったこと、そして事実上誰が彼の作品を理解していないこと、何百もの書籍や数万の論文にもかかわらず、それを議論します。多くの物理学者は、彼がこのような中で述べたニュートン物理学の決定的な総和をした彼の初期の仕事だけを知っていた非常に抽象的で凝縮した形で、何が言われているのかを決めるのは難しかった。彼はその後事実上忘れられ、世界の性質と現代物理学の多様なトピックに関するほとんどの書籍や記事が唯一の彼に渡すと、通常は誤った参照を持っていたことを、多くは彼を完全に省略しました。この日に、彼の死後半世紀にわたって、彼がしたことの記念碑的な結果を本当に把握した一握りの人々しかいませんでした。これは、私が主張する、正確にウィトゲンシュタインの状況です。

HdaW彼の80年代に住んでいた彼は直接サールに影響を与えることができただろう (記述心理学の別の近代的な天才),ピンカートゥービー『と・コズミデス、シモンズ、そして無数の他の学生の行動。彼の華麗な友人フランク・ラムジーが彼の若

さで死んでいなかったら、非常に実りあるコラボレーションはほぼ確実に続いたを持っています。彼の学生と同僚アラン・チューリングが彼の恋人になっていた場合、すべての時間の中で最も驚くべきコラボレーションの一つは、おそらく進化しているだろう。いずれにせよ、20世紀の知的景観は異なっていたらうし、すべての3が発生した場合、それはほぼ確実に非常に異なっていた。その代わりに、彼は相対的な知的孤立に住んでいました、ほとんど彼をよく知っていたか、彼が住んでいる間、彼のアイデアのうすうすを持っていた、そしてほんの一握りは、今日でも彼の仕事を本当に把握しています彼はエンジニア、数学者、心理学者、生理学者(彼はそれで戦時中の研究をした)、ミュージシャン(彼は楽器を演奏し、口笛のための有名な才能を持っていた)、建築家(彼はまだ彼の妹のために設計され、建設家)として磨いを持つことができた)、または起業家(彼は世界で最大の運命の一つを受け継いだ、それをすべて捨てた)。それは彼が塹壕と刑務所のキャンプを生き延び、繰り返した奇跡ですLy最も危険な任務のためのボランティア(論理WW1では、自殺性のくぼみの多くの年(彼らに屈し3兄弟)は、オーストリアに閉じ込められ、ナチスによって処刑されることを避けた(彼は部分的にユダヤ人であり、おそらく唯一の彼らのお金に手を置くためにナチスの欲望は、家族を救った)、彼は迫害されません彼の同性愛のために、彼の友人チューリングのような自殺に駆動。彼は自分がしていることを誰も理解していないことに気づいたないかもしれませんが(驚くべきことではない彼は半世紀-またはあなたの視点に応じて、全体の世紀であった-心理学と哲学の先に、唯一の最近、私たちの脳は私たちの心のような進化した臓器であることを受け入れ始めています。

まず、サール、ウィトゲンシュタイン、ハッカー(H)らの作品で例示したように、哲学と現代心理学研究との関係について、いくつかのコメントを提供します。それは、TLPの私のレビューを見るのに役立ちます、BbbPI、WによるOC、PNC(新しい世紀の哲学)、社会の世界(STATA)、サールの哲学、中国哲学(SPCP)、ジョンRを見ることサール-現実世界(TARW)、およびこれらの天才についての他の本を考えると、より高次の行動の明確な記述を提供し、私はWSフレームワークとして参照することを、心理学の本では見つかりません。私はWとSからいくつかの貫通引用符で始まります。

「心理学の混乱と不毛は、それを「若い科学」と呼ぶことによって説明されるべきではありません。その状態は、例えば、その始まりに、物理学のそれと同等ではありません。(むしろ数学の特定の枝のそれと。セット理論。心理学では、実験的な方法と概念的な混乱があります。(他の場合と同様に、概念上の混乱と証拠の方法)。実験法の存在によって、問題を解決する手段があると考えています。しかし、問題とメソッドは互いに渡しています。ウィトゲンシュタイン(PI p. 232)

「哲学者は常に彼らの目の前に科学の方法を見て、たまらなくは科学が行う方法で質問し、答えるために誘惑されています。この傾向は、形而上学の本当の源であり、完全な暗闇に哲学者を導きます。(BBB p18)。

「しかし、私はその正しさの自分自身を満足させることによって、世界の私の写真を取得しませんでした: また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。いいえ: これは、私が真と偽を区別するための継承された背景です。ウィトゲンシュタイン OC 94

「哲学の目的は、とにかく言語が止まるところで壁を建てること。ウィトゲンシュタイン哲学的行事 p187

「言語の限界は、文を単に繰り返すことなく、文の翻訳であるという事実を記述することが不可能であることによって示されています...」ウィトゲンシュタイン CV p10

「この意味では、多くの言葉は、厳密な意味を持っていません。しかし、これは欠陥ではありません。それは私の読書灯の光は、それが鋭い境界を持っていないので、まったく実際の光ではないことを言うようなものであると考えることです。BBB p27

「すべての標識は解釈しかし、その意味は解釈できない。それは最後の解釈です "BBB p34

「常に探している (そして見つける) 一般的な思考の病気がある私たちのすべての行為は、貯水池からのように、春の精神状態と呼ばれます。BBB p143

そして、我々がここで、そして千の似たようなケースの中にある過ちは「作るために」という言葉によってラベル付けされています "それは我々が行うようにルールを使用する洞察力の行為ではありません" という文でそれを使用しているように "というのは、「何かが私たちにしなければならない」という考えがあるからです。そして、これが原因と理由の混同に再び加わります。その規則に従う理由がない理由の連鎖は終わりを持っています。BBB p143

「もし正しいとしても、その物体との類似性がない絵の可能性を念頭に置いておけば、文と現実の間の影の補間はすべての点を失います。今のところ、文自体は、そのような影として機能することができます。文はちょうどそのような絵であり、それが表すものとわずかに類似していません。

BBBp37

「したがって、我々は、彼らが明らかに単語「証拠」の多くの異なる用法を認識していないことをいくつかの哲学的数学者の言うかもしれません。そして、彼らは言葉の使用の違いについて明確ではないということ "種類", 彼らは数字の種類の話をするとき, 証拠の種類, ここでは、「種類」という言葉は、文脈「リンゴの種類

」と同じことを意味したかのように、または、我々は1つのケースでは、ペンタゴンの建設の発見と南極の発見の他のケースで話をするとき、彼らは単語「発見」の異なる意味を認識していないと言うかもしれません。BBB p29

「志向性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、彼らがすぐに現象学的な現実を持っていないので、現象論の範囲を超えています...無意味さから有意味性の創造は意識的に経験していないので...それは存在しません...これは。。。現象論的錯覚。サール PNC p115-117

"...心と世界との基本的な意図的關係は、満足の状態を伴っている。そして、命題は、世界との意図的な關係に立つことができるすべてのものであり、それらの意図的な關係は常に満足の状態を決定し、命題は何かとして定義されているからである十分満足の状態を決定するために、すべての志向性が命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

「意図的な状態は満足の状態を表しています...人々は誤ってすべての精神的な表現が意識的に考えなければならないと仮定します...しかし、私がそれを使用しているような表現の概念は、機能的であり、存在論的の概念ではありません。志向性の特徴である方法で成功または失敗することができる満足の状態を持つものは何でも、定義により満足の状態の表現...社会現象の志向性の構造を、その満足度を分析することで分析することができます。サール MSW p28-32

「迷信は因果關係における信念である。TLP 5.1361

「今、それは我々が懸念している因果關係ではない場合、その後、心の活動は私たちの前に開いています。BBB p6

「科学的な疑問がすべて答えられたとしても、人生の問題は完全にはそのまま残っていると感じています。もちろん、質問は残っておらず、これ自体が答えです。
。TLP 6.52

「ナンセンス、ナンセンス、あなたは単に記述するのではなく、前提を作っているので。あなたの頭がここで説明に悩まされている場合、あなたは最も重要な事実を思い出すことを怠っています。Z 220

「哲学は、単に私たちの前にすべてを置くし、何も説明も推測...一つは、すべての新しい発見や発明の前に可能なものに「哲学」という名前を与えるかもしれません。PI 126

「我々が実際の言語をより狭く調べるほど、それと我々の要求との間の対立が鋭

くなります。(論理の結晶純度のために、もちろん、調査の結果ではありませんでした:それは要件でした。PI 107

「この中で私が反対したいと思う間違っ概念コネクションは次のようなもので、まったく新しいものを発見することができます。それは間違いだ。問題の真実は、我々はすでにすべてを持っている、と我々はそれを持っているということです。実際に存在する;私たちは何を待つ必要はありません。私たちは、私たちの通常の言語の文法の領域で私たちの動きを行い、この文法はすでにそこにあります。したがって、我々はすでにすべてを持っており、将来を待つ必要はありません。(1930 で述べた)ヴァイスマン「ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインとウィーン・サークル (1979) p183

「ここでは、哲学的調査において顕著で特徴的な現象について考えます: 困難---私が言うかもしれません---は解を求めるのではなく、それを s として認識することではなく、から成るソリューションに見える何かそれが唯一の予備だった場合。我々はすでにすべてを言っている。---これに続くものではなく、これ自体が解決策ではありません! 我々はそれを私たちの考慮事項に適切な場所を与える場合、難易度の解決策は、説明である一方で、これは、私は間違っ説明を期待して、接続されています。私たちはそれにこだわると、それを超えて取得しようとしな

いでください。Zettelp312-314

「私たちの方法は純粹に記述的であり、我々が与える記述は説明のヒントではありません。BBB p125

これらの引用符はランダムに選択されていませんが、(私のレビューで他の人と一緒に) 私たちの最大の記述心理学者の2からの行動 (人間の性質) の概要です。これらの問題を考えるにあたっては、哲学 (ここで考える厳格な意味で) は、完全に見落とされている明白な事実のもう一つである高次思考 (HOT) の記述心理学であることを念頭に置いておく必要があります-すなわち、私はそれをはっきりと見たことがありませんどこでも述べた。彼らがやっていることが記述心理学であることを明確にしないことに加えて、哲学者は、彼らが行動の他の学生 (すなわち、科学) がそうではないというこのトピックに貢献することを期待していることを正確に指定することはめったにありません。科学の羨望についての発言は、私はそれに良いスタートを与えるハッカーから再び引用します。

「伝統的な epistemologists は、知識が真の信念であり、さらなる条件であるかを知りたい、または知識が信念を暗示していないかどうか...私たちは、知識がいつ、それが正当化を必要としないときに知りたい。彼が何かを知っていると言われたとき、人に何が帰されるかを明確にする必要がある。それは独特の精神状態、達成、パフォーマンス、気質または能力ですか?知っているか、 p が脳の状態と同一であることを信じることができますか?なぜなら、「彼は p を信じているが、 s

は p' という場合ではなく、一方1つは、「私は p を信じているが、それはそうではない p」と言うことはできませんか?知識を達成し、達成し、または受けるための方法、方法、手段があるのに、(信仰とは対照的に) 信念ではないのはなぜでしょうか。なぜ、誰が、何を、いつ、どのように、どのように知っているのか、信じていないのですか?なぜ、心を込めて、情熱的に、もごもご、愚か、軽率、狂信、教条、または合理的に知りませんが、誰が信じることができますか?なぜ、完全によく、または詳細に、何かを知っているが、信じていないことができますか?そして、知識と信念だけでなく、疑い、確実性、記憶、忘却、観察、気づき、認識、出席、意識されていること、言及しないことなど、何百もの類似の質問を通して。知覚とその同族の多数の動詞。これらの質問に答えなければならないことは、私たちの認識の概念のウェブ、様々な概念と一緒にハングアップする方法、彼らの互換性と非互換性の様々な形態、彼らのポイントと目的、それらを明確にする必要があります前提とケーコンテキスト依存関係の nt 形式。宛先結合分析、科学知識、心理学、神経科学、自己スタイル認知科学におけるこの由緒ある運動は、何にも貢献できません。(自然主義的ターンによる通過: クワインの「かる」について-p15(2005)。

1951 W の彼の死にいくつかの2万ページの散在コレクションの後ろに残っています。別に論理、彼らは未発表で、ほとんど知られていませんでしたが、(彼のクラスで取られたノートのように) 広く循環して読まれていましたが、大部分が未確認の影響につながりました。いくつかの作品が失われていることが知られており、他の多くの W が破壊していた。このNachlassコーネル大学によって1968でマイクロフィルムされ、コピーは非常にいくつかのライブラリで購入されました。バッド・ウィトゲンシュタインの心理学哲学(1989)-期間のほとんどのW コメントーターのように、マイクロフィルムを参照していません。しかし、多くのNachlass繰り返しであり、彼の後に公開された作品(バッドによって参照される)に何らかの形で現れる、多くの変種のテキストは大きな関心を持っており、元のドイツ語から翻訳されたことがない実質的な材料であり、本の形で出版。

ヨリックオリヴァースミティーズによる講義ノートが2018に登場し、今でもは茶色の本のバージョンのように思えるものを待っています,彼の恋人フランシス・ウィトゲンシュタインと左-「フランシス・に哲学を口述」(2019).1998では、ベルゲンのCDの完全なNachlass登場--ウィトゲンシュタインのNachlass: テキストとファクシミリバージョン: ベルゲン電子版 \$2500 ISBN 10: 0192686917. それは図書館中央図書館ローンを介して利用可能であり、同様にネット上で無料です。W の作品の他の Cd のように、それは Intalex から利用可能です (www.nlx.com).インデックス

が作成され、検索可能であり、prime W リソースです。しかし、W 文学の私の広範な読書は、非常に少数の人々がそれを相談しようとしているので、彼らの作品は重要な要素を欠いていることを示しています。ビクターを見ることができます Rodych のW の発言に関する論文ゲーデル1つの注目すべき例外。2000で本として出版された W のミドル・ピリオド (1933) からの1つの主要な仕事は有名な大きい Typescript である。バッドの「ワイトゲンシュタインの心理学哲学 (1991) は、W のより良い治療 (私のレビューを参照してください) しかし、彼は1989でこの本を終えたので、ビッグ Typescript もベルゲン CD も彼に利用可能ではなく、彼はコーネルマイクロフィルムを無視しました。それにもかかわらず、最も重要な作品は、W の第3ピリオド (1935 から 1951) までの日付であり、これらはすべてバッドによって使用されました。

Wittgenstein の全く斬新なアイデアとスーパーソクラテス dialogues(私の任期)そして、電信の書き込みは、彼の頻繁に孤独な、ほぼ solipsistic のライフスタイル、および 1951 での早期死と相まって、彼の生涯の間に彼の後の思考の何かを公開するために失敗したとだけでゆっくりと彼の巨大な *nachlass* いくつかの 2 万ページが公開されている-この日に続くプロジェクト。ドイツの大部分の唯一の完全版 *nachlass* 最初に 2000 でオックスフォードによって発行されました Intelix 今それを出版すると同様に、検索可能な CD 上のすべての 14 のブラックウェル英語の本。ブラックウェル CD のコストは \$100 ですが、オックスフォード CD は、オリジナル原稿の画像を含むセットに対して \$1000 以上 \$2000 を超えています。ただし、図書館中央図書館ローンを通じて取得することができます。そしてまた、ほとんどの本のようにと記事、ネット上で自由に利用できるようになりました (libgen.io、b-ok.org そしてに p2p、検索可能な CDROM 彼の英語の本 As まあ As ドイツ全体の *nachlass*, 現在、ネット上のいくつかのサイトにあり、ベルゲンの CD は、新しい版の ca のために予定されています .2021--<http://wab.uib.no/alouis/Pichler%2020170112%20Geneva.pdf>).そしてもちろんです、ほとんどの学術論文や書籍は、b-ok.org と libgen.io でオンラインで無料になりました。

また、20世紀初頭のウィーン・ドイツ語を現代英語に翻訳することには大きな問題があります。これを行うためには、英語、ドイツ語、および W のマスターでなければなりません。すべての彼の作品は、明確な翻訳エラーに苦しむと、1つが翻訳するために、彼の後の哲学の全体の推力を理解する必要があるより微妙な質問があります。私の見解では、ダニエレ以外の誰も Moyal-Sharrock (DMS) は、彼の後の作品の完全な輸入を把握しています(しかし、もちろん、彼女は最近広く公開しており、多くは今、彼女の見解を認識している)、なぜ W はまだ十分に理解されて

いないのかを見ることができます。でも、多くのまたはより少なくよく-知ら理解との決定的な違い・サツ「センテンス」(すなわち、多くの文脈で考えることができるものS1 発話) 対「命題」(すなわち、多くのコンテキストでa意味S2 発話満足の条件で) 様々な文脈では、通常、通知をエスケープしています。

いくつかの通知 (バッド p29、船尾と DMS 最近の記事では稀な例外である) W 先 (カオスと複雑性科学が登場するまでの数十年) は、いくつかの精神現象がカオスの過程で発生する可能性があることを示唆した脳-例えば、メモリートレースに対応するものは何もありません。彼はまた、因果鎖が終わりを持っていることを数回示唆しました、これは、(科学の状態に関係なく) それをさらにトレースすることは不可能であるということの意味するかもしれません、そして、「原因」の概念が特定のポイント (p34) を超えて適用されなくなることを意味します。その後、多くは、任意のアイデアなしで同様の提案をしてきました W アンティック数十年でそれらを ipated (実際には数世紀以上になりました)。

DMS では、W の最後の本を「確実に」(OC) 哲学と心理学の基礎石と見なします。それは本当に本ではありませんが、彼は前立腺癌の死とかわろうじて働くことができる間、彼の人生の最後の2年間に作ったノート。彼は主に、G.E. ムーアの単純な努力がすべての哲学の核心に焦点を当てているという認識によって動機づけられているようだ—それは、何を意味し、信じ、何でも知り、それを疑うことができないということが可能である。誰もが行くことができます、彼らは私たちの脳の原始自動不成立システム 1 (S1) 機能を記述するために使用されているとして、「知っている」と「特定」と「疑い」の言語ゲームの作業を細かく調べることで (私 K1、C1 および D1) と高度な審議言語システムの2つの機能 (my K2、C2、D2) があります。もちろんです、W は2つのシステム用語を使用しないので、only が前に来た心理学は彼の死後半世紀後、まだ哲学を貫通していないが、彼は明らかに30年代初頭からのすべての彼の仕事の2つのシステムの枠組み (「文法」) を把握し、1は明確な前面を見ることができます-shadowings彼の最も初期の文章で。

多くがムーアと W と確実性 (OC) で最近、半世紀後に相対忘却で書かれています。例えば、アナを参照してください。Coliva の「ムーアとウィトゲンシュタイン」(2010)、「拡張合理性」(2015)、自己知識の品種 (2016 年)、ブライスの「確実性の探求」(2014) とアンディ・ハミルトンの「ラウトレッジ版哲学ガイドブック」をウィトゲンシュタインに、確実に」、そして、ダニエレの多くの本と論文 MoyalSharrock (DMS) とピーターハッカー (PH)、ハッカーの最近の3冊の人間の性質を含む。DMS と PH は、後半の W の主要な学者であった、それぞれの執筆や編集半ダース本 (多くの私によってレビュー) そして、過去10年間で多くの論文。しかし、私たちの高次心理学の基礎、すなわち、どのように言語 (W が私たちに示したように、心とほぼ同じ) の作品の基本をつかむことの難しさは、Coliva、最も華麗で豊かな現代哲学者の1人で、最近の記事では、後の W での集中的な作業の年後に、彼女はそれを示す発言をした把握していないようです彼は人間の行動の記述の

最も基本的な問題を解決したことを。DMS が明らかにするように、私たちの基本的な心理学の操作についての状態危惧をコヒーレントことすらできません(Wの「ヒンジ」矛盾にしかながらせずに S1) と同一視する。DMS は、の制限を指摘していますこれらの両方彼女の最近の記事では、労働者(行動のすべての学生が共有する制限)Colivaとハッカー)は、ネット上で自由に利用可能です。

DMS がそれを置くように: "確実性を構成する音符は基本的信念の概念に革命を起こす懐疑論、ムーアだけでなく、デカルト、ヒューム、そしてすべての認識論に対しても是正を行います。確かにウイトゲンシュタインは彼が解決するために設定された問題-ムーアを占有し、認識論を悩ませる問題を解決したことを示しています-知識の基礎のこと。

ウイトゲンシュタインの革命的な洞察力は、哲学者が伝統的に「基本的信念」と呼んでいたものであり、すべての知識は究極的に基礎とされなければならないという信念は、無限の退行の苦痛において、それ自体がさらに基づいている。命題信念。彼は基本的な信念があることを見に来る本当に動物または、一度(例えば哲学者によって)定式化された演技の無分別な方法は、(経験的)命題のように見える。これは、思想の基礎では、まだより考えられていることを信じるように哲学者を導く、この誤解を招くような外観です。しかし、彼らはしばしば経験的結論のように見えるかもしれないが、私たちの基本的な確実性は、非接地を構成する-命題は知識の土台ではなく、その目的ではない。このように位置づけるは、無反射確実性の知識の基礎を演技の方法として明らかにし、ウイトゲンシュタインは正当化する場所を発見しました。終了、および基本的信念の退行問題を解決した-そして、通過において、双曲線の論理的な不可能を示した懐疑論。これは、ウイトゲンシュタインの「第三の傑作」を確実に呼ぶに値する、哲学の画期的な成果だと信じています。

私はいくつかの年前に自分自身と同じ一般的な結論に達し、私の本のレビューでそれを述べた。

彼女は続けます: 「...これはまさにウイトゲンシュタインがムーア型のヒンジ確実性を確実に説明する方法です。'経験的命題の形をしている',だがしかしは経験的命題ではない。確かに、これらの確実性は、世界の必要な特徴を説明するように見える推定形而上学的命題ではなく、世界の偶発的特徴を記述するように見える推定経験的命題である。そこには確かに新規性の一部があります。ウイトゲンシュタインの以前の文書のすべてにおいて、確実に継続しています-論理-それは私たちの言語ゲームの文法を解明するための長い、切れ目のない試みの終わりに来るという点で、使用中の言語から文法を区別します。ベーカーとハッカーは、第2ウイトゲンシュタインの文法のアンマスクを見事に解明した形而上学的または超経験的命題の性質;何が確実に離れているかは、いくつかの「経験的」命題と他のものとのさらなる明快の区別である(「我々の「経験的命題」は、均質な質量を形成

しない」(OC 213): 明らかに経験的および偶発的な命題のいくつかは事実である文法的な規則の表現しかない。この認識の重要性は、基本的な信念は、彼らは平凡な経験的および偶発的な命題のように見えますが、概念的に解明されたときに、ルールとして機能するように見えることができる実際の行動の方法であるという前例のない洞察につながるといことです文法の: 彼らはすべての思考の根底にあります(OC 401).そのため、「地球は長年にわたって存在してきた」というヒンジの確実性が、すべての思想と行動を支えているのである。むしろ、私たちがしていること(例えば、地球の年齢を研究している)と私たちが言うこと(例えば、私たちが地球の過去時制で話していること)を支える行動の方法として、「根拠を与えることは、証拠を正当化することは終わりに来る。-しかし、最後は本当のように私たちに打つ特定の命題ではありません, すなわち、それは私たちの部分に見ての一種ではありません;それは言語ゲームの一番下にある私たちの演技です。(OC 204)」

「基本的信念の非命題性質は、認識論を悩ませてきた退行に終止符を置く: 我々もはや知識に基づいて支持できない自己正当化命題を posit する必要はありません。本当の経験的命題であるためにヒンジを取るには、ピーターハッカーは、私たちの基本的な確実性は演技の方法であることを画期的な洞察力を認めるために失敗します,そして、ない私たちに打つ特定の命題...真として'(OC 204)。すべてのウィトゲンシュタインがOCでやっていた場合、私たちの基本的な信念は真の経験的命題であると主張することでした,なぜわざわざ?彼は、彼が何世紀もの間、未解決無限の退行を遺憾とししている前に、哲学者が何を言っているのかを繰り返しているだけだ。ウィトゲンシュタインが退行を止めたことを、むしろ感謝しませんか? («ハッカーのウィトゲンシュタインを超えて」 -(2013)。

(私が何度も指摘したように) 集中的な読書の十年で、私は一人の人が W の「文法」と自動再帰の間に明白な接続を作る見ていないこと(そして、哲学と心理学の間にどのように深い分裂が残っているかの兆候)は素晴らしいですシステム1を構成する私たちの脳の機能、およびシステム2の言語機能への拡張。最後の数十年のための意思決定理論などの心理学の様々な領域を支配している行動を理解するための2つのシステムのフレームワークに精通している人のために、それは、「基本的な信念」(または私はそれらを B1 と呼ぶように)であることを明らかにする必要があります。S1 の自動化された真のみの構造を継承し、真または偽の文に経験を持つ彼らの拡張(または私はそれらを B2 と呼ぶように)は、非哲学者が「信念」と呼ぶものです。これは単なる用語としていくつかを打つかもしいないが、私は2つを使用しているの論理構造としてのシステムビューとその集計について、主要高次の行動を理解すること、それ故に W または哲学的または行動的な書き方を進めること。私の見解では、S1 による私たちの行動の自動性の根本的な重要性を把握することができなかったことと、すべての社会的相互作用(例えば、政治)が S2 の superficialities に帰属することとして見るができる産業文明の容赦ない崩壊を担当。基礎生物学と心理学へのほとんど普遍的な忘却は、無限の無益なの試

みにつながり、政治を通して世界の問題を解決するが、それによって明らかにされるようなインクルーシブな適性の基本的役割を理解している社会の抜本的再編だけである、automaticitiesS1 のは、世界を救うために任意のチャンスを持っています。S1 への忘却はサールによって呼び出されています '現象学的錯覚', ピンカーによって '空白のスレート' とトゥービー『そして、「標準社会科学モデル」を・コズミデス。

OC は、W のユニークな超ソクラテストライアログ (ナレーター、対談、コメントーター) 満開で、彼の作品の他のどこよりも優れています。彼は20年代後半には、どのような進歩をするための唯一の方法は、言語が実際にどのように動作するかを見ていることに気づいた-そうでなければ1は非常に最初の文から言語の迷路で迷子になり、1の道を見つけることのわずかな希望はありません。本全体は、直感的な「知覚」の確実性として「知っている」に自分自身を分離する単語「知っている」の様々な用途を見て有意義ではない質問(私の K1または W の自) と「知っている」行動の性質(私の K2または W の推移的な)は、考え、希望、判断、理解、想像し、覚えて、信じて、他の多くの対価の言葉と同じように機能します。私は W と S の私の様々なレビューで提案しているように、これらの2つの用途は、行動(マインド、言語)を理解する上で非常に強力である思考フレームワークの近代的な2つのシステムに対応しており、これ(および彼の他の仕事)は、私たちの高速、不成立自動「精神状態」は、私たちの後に進化した、遅い、言語、審議対価心理学のための疑う余地公理的基礎(「ヒンジ」)です。私が何度も指摘してきたように、W も、私の知識にも他の人は、これをはっきりと述べました。間違いなく、OC を読んでほとんどの人は、彼の仕事のいずれかを読んでの通常の結果である、彼が何をしたかの明確なアイデアを離れて行く。

確かに (OC) はウィトゲンシュタインの死後18年1969まで公開されておらず、最近では深刻な注意を喚起し始めたばかりである。サールではそれへの参照はほとんどありません(ハッカーと共に、W の相続人の見かけとの1つ最も有名な生ける哲学者s)そして、1はかろうじて言及して W の全体の本を見ている。しかし、散歩によってそれに合理的に良い本がありますスペンソン, Coliva、・マッギン、他の多くの本や記事の一部、しかし、最高のは、ダニエレのことでMoyal-Sharrock (DMS) の2004ボリューム「理解ウィトゲンシュタインの確実性」は、すべての教育を受けた人のために必須であり、おそらくウィトゲンシュタイン (W)、心理学、哲学と生命を理解するための最良の出発点。しかし、(私の見解では) W のすべての分析は、私がここで試みます、その広い進化と現代の科学的文脈に行動を置くことに失敗することによって、彼のユニークで革命的な進歩を完全に把握するの不足です。(私は、哲学、心理学、人類学、社会学、歴史、法律、政治、宗教、文学などの行動を扱っている他の本と同じように) 私はページの説明でページを与えることはありませんすべての問題として、我々は最初の数ページを超えて取得することはありませんここでは、動作についての議論ですぐに説明します。

合理性の論理構造 (高次思考の記述心理学) を要約した下の表は、これと行動のすべての議論のためのフレームワークを提供します。

長年にわたり、W、他の哲学者、心理学を幅広く読んでいの中で、彼が最終的な期間 (そして、より少ない明確な方法で彼の以前の作品を通して) にレイアウトされたものが現在進化論として知られているものの基礎であることが明らかになった心理学 (EP)、またはあなたが好む場合は、認知心理学、認知言語学、志向性、高次の思考または単に動作またはさらに高い順序動物の行動。悲しいことに、彼の作品は記述心理学の広大でユニークな教科書であり、今ではそれが書かれた日として関連していることに気づいていません。彼がそうですほとんど普遍的に無視される心理学やその他の行動科学と人文、そして彼を理解している少数の人でさえ、EP と認知錯覚に関する最新の仕事 (例えば、高速で遅い思考の2つの自己) の彼の予想の程度を実現していません。ジョン・サールはめったに彼を参照していないが、彼の仕事として見るができるW'sの簡単な拡張、彼はこれを見ていないようですが、ベーカーやハッカーなどの W のアナリスト (B&H)、読み取り、Harre、Horwich、船尾、ハッ、Moyal-Sharrock は見事が、主に彼は確かに属している現在の心理学の中心に彼を置くことの短い停止します。また、一貫性と正確さがある限り、高次の行動のすべてのアカウントが同じ現象を記述しており、簡単に相互に翻訳するべきであることは明らかであるべきです。したがって、最近流行した「心」と「過激」のテーマEnactivism"は、W の作業から直接、またはその仕事に流れます。

W の重要性を十分に把握するためのほとんどの失敗は、部分的に確実性に関する限定的な注意 (OC) とその他の3rd作業期間は、最近では、多くの哲学者や他の人々が、我々が進化の枠組みを採用したときに、我々の行動観がどれほど深く変化するかを理解することはできません。私は、この枠組みを、人類学、社会学、政治、法律、道徳の根拠とする、DPHOT の論理構造をサールと呼ぶ、高次思想の記述心理学を DPHOT-または、より正確には、倫理、宗教、美学、文学、歴史。

進化の「理論」は、19世紀の終わりの前に、少なくとも半世紀前にダーウィンのために、任意の正常、合理的な、インテリジェントな人のための理論ではありませんでした。T レックスとそれに関連するすべてのものを、EP の容赦ないの働きを通じて、真の唯一の公理的背景に取り入れることはできません。かつては、これの論理的な (心理的な) 必要性を取得すると、それは本当にびっくり仰天であっても、最も明るいと最高の人間の生活のこの最も基本的事実を把握しないように見えること (カント、サールといくつかの他の帽子の先端で)にレイアウトされた素晴らしいディテールインチ「確実に」。ちなみに、ロジックの方程式と公理的心理学は、W と人間性を理解するために不可欠です (ダニエレMoyalSharrock (DMS) ですが、知る限り他の誰も、指摘する)。

だから、私たちの共有された公共の経験 (文化) のほとんどは、私たちの公理的 EP

の真の拡張になり、私たちの正気を脅かすことなく間違っで見つけることができません。サッカーやブリトニー・スピアーズは、これらの概念、アイデア、イベントとして、私または私たちの記憶と語彙から消えることはできませんだけで生まれ、私たちの多くを包含するために、すべての方向に拡張する真のネットワークで無数の他に縛られている。意識と記憶。DMS によってうまく説明され、サールによって彼自身の独特な方法で明らかになった当然は、「現実」が結果であるように、世界と他の心の懐疑的見解 (およびブランクスレートを含む他のナンセンスの山) は本当に足場を得ることができないということです非自発的な速い思考公理、真または偽の命題をテストできません。

行動の空白のスレートビューの死んだ手はまだ重く、(教育なしで)、すべての行動のための基礎が無意識の中にあるという事実に気づかない遅い思考意識システム2の「第二の自己」のデフォルトである、高速システム1の公理的構造を考える (サールの「現象論的錯覚」)。サールは、志向性の多くの論理的特徴が現象学の範囲を超えていることに注意して、非常に洞察力のある最近の記事でこれを要約しました有意義性の作成 (すなわち、S2 の COS) 無意味さから (すなわち、S1 の反射) はありません意識的に経験。新しい世紀の哲学 (PNC) p115-117 とその私のレビューを参照してください。

W/S (ウィトゲンシュタイン/サール) f を把握することが不可欠であるramework ので、私は最初にくつかのコメントを提供しますサールの作品で例示した現代心理学研究との関係 ウィトゲンシュタイン (W)、ベーカーとハッカー (B&H)、読む、ハッ、ダニエレMoyal-Sharrock (DM) et.アル。私の単純な2つのシステムの用語と視点を把握するために、それは私の W/S と心理学の本では見つからない高次の行動の明確な記述を提供するこれらの天才についての他の書籍の私のレビューを参照するのに役立ちます。サールがWの仕事の拡張したと言うことは、必ずしもWの研究の直接的な結果であることを暗示するものではない (そして、彼は明らかにWittgensteinian) ではなく、人間の心理学が1つしかないため (同じ理由で人間の心臓が1つしかないため)、行動を正確に記述している人は、何らかの変種や拡張をenunciating なければならない。

しかし、SはめったにWを言及し、それでも、しばしば批判的な方法で、しかし、私の見解では、彼の批判 (みんなのような) はほぼ常にマークを欠場し、彼は彼はしばしば批判されている多くの怪しげな主張.現在の文脈で、私は、DMS の最近の批判を見つけます,Colivaそして、最も関連性の高いハッカー。それにもかかわらず、彼はW以来最高のための主要な候補であり、私は100以上をダウンロードすることをお勧めしますビデオ彼がネット上で持っている講義。ほぼすべての他の哲学の講義とは異なり、彼らは非常に面白いですし、有益そして、私はそれらすべてを少なくとも2回聞いたことがあります。

人間の行動のすべての議論における主要なテーマは、S2 のより少ない機械的言語

対価行動から、S1 (私は W の「ヒンジ」と同一視する) の遺伝的にプログラムされた作り出すを分離する必要性である。言い換えるに: 高次の行動の研究は、高速システム 1 S1 と遅いシステム 2 (S2) の考え方、例えば、知覚やその他の作り出すの性質を区別するための努力です。サールの作品全体として「我々志向性」を含む高次 S2 社会行動の見事な記述は、後の W は、S2 が、進化と私たちの個人の歴史の中で、意識的な対価に開発された S1 の真のみの無意識の公理に基づいているかを示しています。S2 の命題思考 (演技)

ウィトゲンシュタインは、心理学の混乱と不毛は、それを若い科学と呼ぶことによって説明されるべきではなく、哲学者は科学のやり方で質問し、答えようとしてたまらなく誘惑されると述べた。彼はこの傾向が形而上学の本当の源であり、哲学者を完全な暗闇に導くと指摘した。BBB p18 を参照してください。もう一つの注目すべきコメントは、私たちが「原因」に関心がない場合、心の活動が私たちの前に開かれるということでした- BB p6 (1933) を参照してください。同様、彼の2万ページnachlass彼の有名な格言を実演問題は解決策を見つけるのではなく、暫定的なものであると思われる解決策として認識することです。見る彼の Zettel p312-314。そしてまた、彼は80年前、我々は行動の記述を与えることができ、これらは説明のヒントではないということを確認すべきであると指摘した (BBB p125)。この記事の他の場所で完全な引用を参照してください。

一般的なアイデア (例えば、1つの字幕ピンカーの書籍「思考のもの: 人間の本質への窓としての言語」 (マインド、スピーチ) は、私たちの思考、あるいは (Fodor の多く、カルーサーズ『の ISA など) のウィンドウまたは何らかの種類の翻訳であり、それが tr である他の「思考の言語」がなければならぬということです。anslation は、W によって拒否されました、誰が表示しようとしてしました、アクションで言語の継続的に再分析明快例の何百もの、その言語は絵ではありません、しかし、それ自体が思考または心であり、彼の全体のコーパスは、このアイデアの発展とみなすことができます。

多くは、「思考の言語」のアイデアを解体しているが、私の見解では BBB p37 の W よりも優れていない - 「もし正しいとしても、その物体との類似性がない絵の可能性を念頭に置いておけば、文と現実の間の影の補間はすべての点を失います。今のところ、文自体は、そのような影として機能することができます。文はちょうどそのような絵であり、それが表すものとわずかに類似していません。だから、言語の問題は、脳から直接、何が媒介の証拠として数えることができますか?

W は生理学、心理学および計算のボトムアップアプローチが言語ゲーム (LG の) の彼のトップダウン分析が何をしたか明らかにするという考えを拒絶しました。彼が指摘した難しさは、常に私たちの目の前にあるものを理解し、曖昧さをキャプチャすることです-すなわち、「これらの調査の最大の難しさは、曖昧さを表現する方法を見つけることです」 (LWPP1、347)。したがって、スピーチ (すなわち、

経口筋収縮、私たちが対話する主な方法)心の中に窓ではないが、過去についてのアコースティック・ブラストによって表現されている心自体は、現在および将来の行為(すなわち、Secの後に進化した言語ゲーム(LGの)を使用して私たちのスピーチそのような処分は、想像するように、知ること、意味、信じること、意図することなど)。Wのお気に入りのトピックのいくつか彼の後の第二と彼の3番目の期間は、高速で遅い思考(システム1と2)、言語の機能に対する私たちの主観的な「精神生活」の見当違い、および私的言語の不可能性のinterdigitatingメカニズムです。私たちの行動の基盤は、私たちの不随意、システム1、高速思考、真のみ、精神状態-私たちの認識と記憶と非自発的な行為、進化的後LGのは自発的である一方で、システム2、遅い思考、テスト可能真または偽対価(そしてしばしば試算)を想像し、想定、考え、知り、信じるなど彼は、私たちの全体の心理学とすべての哲学的な質問へのすべての答えは、私たちの言語(私たちの人生)でここにあることを認識し、難しさは答えを見つけることではなく、私たちの前で常にここでそれらを認識することであることを、我々はちょうどする必要がありますより深く見ようとするのをやめる(例えば、LWPP1「ここでの最大の危険は、自分自身を観察したいということです」)。

Wは科学の境界を法制化しているのではなく、私たちの行動(主にスピーチ)が私たちの心理学の可能な限り鮮明であるという事実を指摘しています。FMRI、PET、TCMS、Ira、計算アナログ、AIとすべての残りの部分は、私たちの生来の公理的心理学を記述し、拡張するための魅力的で強力な方法ですが、彼らが行うことができるすべては、私たちの行動のための物理的な基礎を提供し、私たちの言語ゲームを乗算し、S2を拡張します。「確実に」の真のみの公理は、Wの(そして後のサールの)「岩盤」または「背景」であり、我々は今、進化心理学(EP)と呼ばれ、これは細菌の自動化された真のみの反応にトレーサブルであり、それは進化して、そのメカニズムによって動作するインクルーシブフィットネス(IF)、すなわち、自然淘汰によって。

の最近の作品を参照してくださいTriversプロのイントロのためのIFまたはバークの優れた「社会進化の原則」への人気のイントロのために。貰えたとウィルソンによる進化思想の最近の茶番は、自然淘汰による進化の主要なメカニズムであるという事実に影響を及ぼさない(2012)。

WがOCで開発しているように、私たちの共有された公共の経験(文化)のほとんどは、私たちの公理的EP(すなわち、S1ヒンジまたはS1H)の真のみの拡張(すなわち、S2ヒンジまたはS2H)になり、彼が指摘したように、私たちの正気を脅かすことなく、S1での「間違い」(テストなし)は、S2の1つから大きく異なる結果をもたらします。当然、うまくDMSによって説明し、サールによって彼自身のユニークな方法で解明された、世界と他の心の懐疑的な見解(および他のナンセンスの山)は足場を得ることができません、「現実」は、不随意の「速い思考」公理の結果であり、テストできません命題(私がそれを置くように)。

生来の真のみの公理 **W** が彼の仕事を通して、特に **OC** において占有されていることは、現在の研究の中心にある速い思考またはシステム1と同等であることは明らかである (例えば、**Kahneman** を見てください--「高速でゆっくり考える」、どちらも、また誰も知る限りは、任意のアイデア **W** は、非自発的かつ自動であり、以上の **W** ノートとして、知覚、感情や記憶の精神状態に対応している、50年以上前) のフレームワークをレイアウトしています。一つは、これらの「脳内反射神経」を呼び出すことができます (多分 99% 私たちのすべての下賜によって測定された場合脳のエネルギー使用)、私たちの遅いまたは反射、複数または少ない「意識」(言語ゲームの別のネットワークに注意してください!) 第2-自己脳活動は、**W** が「**disposit**」として特徴付けたものに対応するイオン」や「傾斜」能力または可能な行動を参照してください、精神的な状態ではありません、意識しています、意図的かつ命題 (真または偽)、そして、発生の明確な時間を持っていません。

W ノートとして、ディスポジションワードには少なくとも2つの基本的な用途があります。一つは、主に哲学的な使用 (しかし、日常の使用に卒業) は、直接の知覚と記憶、すなわち、私たちの生来の公理的 **S1** 心理学 (私はこれらが私の手であることを知っている) から生じる真の唯一の文章を指し、もともと因果関係と呼ばれています自己言及 (**CSR**) は、サール (しかし今因果関係自己再帰)、または、**W** の青と茶色の本 (**BBB**) の再帰または自我によるものであり、また、行動することができ、それが真または偽になることができる処分としての通常の使用である **S2** の使用 (「私の帰り道を知って-すなわち、彼らは厳格な意味で満足度 (**COS**) の条件を持っており、**CSR** (**BBB** で推移と呼ばれる) ではありません。現代心理学からのこれらの用語の方程式は、**W** と **S** によって使用されるもの (そしてここでは他の多く) が私の考えであるので、文献でそれを見つけることを期待しないでください (私の本記事とレビュー [On viXra.org](http://On.viXra.org)、philpapers.org、researchgate.net、academia.edu、アマゾン、libgen.io、b-ok.org など)。

非自発的な速い思考の調査は、哲学者にはめったに触れられないが、心理学、経済学 (例えば、**Kahneman** のノーベル賞) と「認知錯覚」、「プライミング」のような名前の下他の分野に革命をもたらした「暗黙の認知」、「フレーミング」、「ヒューリスティック」と「バイアス」。もちろん、これらも言語ゲームなので、これらの単語を使用するには、より多くの便利な方法があり、研究と議論は、「純粋な」システム1から1と2の組み合わせ (**W** としてのノルムは明らかにしたが、もちろん、彼はこの用語を使用していない) とは異なります、しかし、おそらくこれまでの遅い **S2** 対価の思考だけではなく、任意の思考 (意図的なアクション) は、「認知モジュール」、「推論エンジン」、「脳神経反射」、「作り出す」の複雑な **S1** ネットワークの多くを含むことなく、発生することはできませんので、「認知公理」、「背景」または「岩盤」(**W** とサールは私たちの **EP** を呼び出す) また、筋肉 (アクション) を移動するために **S1** を使用する必要があります。

これは、W の第3の期間の仕事と現代の心理学からの両方に従います、それは、「意志」、「自己」と「意識」(サールノートとして志向性のすべての議論によって前提されています) 公理的は、認識で構成され、S1 の真の唯一の要素であります、記憶と反射神経、そして彼らの偽りを(意味を与えることの) 実証の可能性(明瞭さ)はありません。W は何度も明確にしたので、判断の根拠となるので判断できません。真のみ私たちの心理学の公理は証拠ではない。彼が有名な OC p94 で言ったように-"しかし、私はその正しさの自分自身を満足させることによって、世界の私の写真を取得しませんでした: また、私はその正しさに満足しているので、私はそれを持っていません。-いいえ: それは私が真と偽を区別するための継承された背景です。

文は、満足 (COS) の明確な条件、すなわち、公の真理の条件を持っているとき、思考(意味を持つ)を表現します。それゆえ、W からのコメント: 「私は言葉で考えると、言葉の表現に加えて、私の心を通して行く「意味」はありません: 言語自体が思考の乗り物です。そして、私は言葉の有無にかかわらず、考えている場合、その考えは、他の可能な基準 (COS) が無いとして、私は(正直に言う) 何であるかです。したがってW の格言 (p132 の素敵な本について) - 「希望と成就が会おう言語であり、形而上学的なもののように、思考と現実の調和は言語の文法に見られる」そして、ここでは、W の「文法」が普通であることに注意するかもしれませんが、EP または LSR として翻訳されます (DPHOT -テーブルを参照) そして、理論化と一般化(彼はしばしば誤ってサールによって批判されている) に対する彼の頻繁な警告にもかかわらず、これは、1つが見つめることができるように、より高次記述心理学(哲学)の特徴付けと同じくらい広い(DMS も注記として)。

W は意味を構成する精神状態がないことが正しい、とサールは ac を特徴付ける一般的な方法があることを指摘します意味の t 「話し手の意味...満足の条件に対する満足の条件の賦課である」 --を話すか、書くことを意味します。真または偽であることができる文脈で COS を表す形成された文であり、これは行為であり、精神状態ではありません。すなわち、新しい世紀における哲学のサールノートとして p193 - 「心と世界との基本的な意図的關係は、満足の条件に関連しています。そして命題は、世界との意図的關係に立つことができるすべてのものであり、それらの意図的關係は常に満足の条件を決定するので、命題は条件を決定するのに十分であると定義される満足度、それはすべての志向性が命題の問題であることが判明します」 --命題は真または偽であることができる公開イベントである-S の真のみの公理のための単語の邪悪な使用をコントラ1サールによって、Coliva その他それ故に、PI p217 からの W による有名なコメント - 「神が私たちの心を見つめていたならば、彼は私たちが話していた人を見ることができませんでした、そして、表現の全問題が「それは彼である」に含まれていると彼のコメント、そして、イメージにその解釈を与えるものはそれが道です、または S が言うように、それ故に W の総和 (p140 バッド)-"それが常に最後に来ることは、それ以上の意味がなければ、彼は何が起こったのかという願いを呼び、私の願いが成就する前

に私が望むものを知っているかどうかという疑問は全く起こらないということです。そして、いくつかのイベントが私の願いを停止するという事実は、それがそれを満たすという意味ではありません。もし私の願いが満たされれば、私は満足していなかったでしょう。それが尋ねられたとしたら、私はそれを得る前に私が何のために長いか知っていますか?もし私が話すことを学んだならば、私は知っています。

Wの繰り返しのテーマの一つは、今、心の理論と呼ばれています、または私が好むように、代理店の理解 (UA).イアンApperly、実験で UA1 と UA2 (すなわち、S1 と S2 の UA) を注意深く分析している人は、UA1 を空想として特徴付けたダニエル・ハッの仕事を認識しています (すなわち、UA1 のために予約されている「理論」も表現も UA2 に関与することができます-hの私のレビューを参照)はまずはブックをミャー).しかし、他の心理学者のように、ApperlyW は80年前にこのための基礎を築いた見当がつかない。これは、認知錯覚に関する急成長した文学の中核であることは簡単に防御ビューです、暗黙の認知、作り出すと高次の思想は、Wからの素直推論できると互換性があります。という事実にもかかわらず上記のほとんどは何十年もの間、多くの人に知られています (そして、Wの教えのいくつかの場合には一世紀の¼)、私はめったに哲学や他の behavi で十分な議論に近づいているものを見ていませんオーラルサイエンステキスト、そして、一般的にはほとんど言及がありません。

半世紀後、忘却の中で、意識の本質は現在、行動科学と哲学の中で最もホットなトピックです。1951に1930年代 (青と茶色の本) でルートヴィヒウィットゲンシュタインの先駆的な仕事から始まり、50年代から彼の後継者サールによって現在まで、Moyal-Sharrock、読み、ハッカー、船尾、Horwich、ウィンチ、フィンケルシュタインなど、私はこの研究を進めるためのヒューリスティックとして次の表を作成しました。行は、さまざまな側面または研究の方法を示し、列は、不随意のプロセスと論理的な構造と見なすことができます、意識の論理構造 (LSC) の2つのシステム (二重プロセス) を含む自発的な行動を示しています哲学用語、意識心理学 (DPC)、サール (LSOR)、志向性 (LSI) の人格、精神、言語 (LSL) の性格 (LSP)、心の、行動の合理性の (LSR) の、記述的である。思考の心理学 (DPT) –またはより良い、思考の記述心理学の言語 (LDPT)、用語は、ここで、私の他の最近の執筆で紹介。

このテーブルのアイデアは、ウィットゲンシュタインそしてサールによってはるかに単純なテーブル、および P m. S のハッカーによって人間の性質に関する3つの最近の書籍では、広範なテーブルやグラフと関連しています。最後の9行は、意思決定調査から来ています主にジョナサンセント B.T. エバンスと同僚によって改訂されました自分自身。

システム1は、無意識、再帰的または自動化された「ルール」 R1 (認知) は、ギャップを持たず、自発的または審議「ルール」 R2 である 意思 (意志) には3つのギャ

ップがある (サール参照).

私たちができることをお勧めより明確に行動を説明するサールの「満足の条件に対する満足の条件を課す」を「筋肉を動かすことによって世界に関連させる」こと、すなわち、話すこと、書くこと、すること、そして彼の「心を世界に」変えることによってフィットの方向S2 がコンテンツを持っている間、そして、「原因は、心に発生した原因」と「世界に起因する」とコンテンツ (表現や情報を欠いている) だけでは、(世界への心) と、S1 は、内容を持っているし、下の因果である (世界にマインド).私はこの表で私の専門用語を採用しました。

アクション/

語

言語ゲームの分析から

	好きになる 傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション/語
原因は****	世界	世界	世界	世界	マインド	マインド	マインド	マインド
に変更を加える *****	なし	マインド	マインド	マインド	なし	世界	世界	世界
因果関係自己再帰 *****	ない	はい	はい	はい	ない	はい	はい	はい
真または偽 (テスト可能)	はい	真実のみ	真実のみ	真実のみ	はい	はい	はい	はい
公開テスト (COS)	はい	はい/いいえ	はい/いいえ	ない	はい/いいえ	はい	ない	はい
記精神状態の説明 を提供します	ない	はい	はい	はい	ない	ない	はい/いいえ	はい
進化的優先事項	5	4	2、3	1	5	3	2	2
コンテンツを選択 できます	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
自発的スタート	はい ない	ない	はい	ない	はい・ いいえ	はい	はい	はい
認知システム *****	2	1	2/1	1	2/1	2	1	2
強さの変化	ない	はい	はい	はい	はい	ない	ない	ない
正確な期間	ない	はい	はい	はい	ない	ない	はい	はい
異なる場所、異なる時間 (TT) 現在の時刻と場所 (HN) *****	TT	HN	HN	HN	TT	TT	HN	HN
特別な品質	ない	はい	ない	はい	ない	ない	ない	ない
体の一部に局在	ない	ない	ない	はい	ない	ない	ない	はい
身体表現	はい	はい	ない	ない	はい	はい	はい	はい
自己矛盾	ない	はい	ない	ない	はい	ない	ない	ない
自己が必要	はい	はい/いいえ	違います	違います	はい	違います	違います	違います
必要な言語	はい	ない	ない	ない	ない	ない	ない	はい/いいえ

意思決定研究から

	好きになる 傾向がある*	感情	メモリ	知覚	欲望	PI**	IA***	アクション/ 語
サブリミナル効果	ない	はい/ ない	はい	はい	ない	ない	ない	はい/ ない
連想 (A) ルールベース (RB)	RB	A/RB	A	A	A/RB	RB	RB	RB
状況依存 (CD) 抽象化 (A)	A	CD/A	CD	CD	CD/A	A	CD/A	CD/A
シリアル (S) 平行 (P)	S	S/P	P	P	S/P	S	S	S
ヒューリスティック (H) 分析 (A)	A	H/A	H	H	H/A	A	A	A
アクティブが必要 記憶	はい	ない	ない	ない	ない	はい	はい	はい
一般的なインテリジェンス依存	はい	ない	ない	ない	はい/ ない	はい	はい	はい
認知的ローディング 抑制	はい	はい/ ない	ない	ない	はい	はい	はい	はい
覚醒は 促進 (F) または 抑制 (I)	I	F/I	F	F	I	I	I	I

S2の満足度の公共条件は、多くの場合、Searleと他の人によってCOS、表現、真実作成者または意味(または自分でCOS2)と呼ばれ、S1の自動結果は他の人(または自分でCOS1)のプレゼンテーションとして指定されます。

*設定、機能、設定、表現、可能なアクションなど

** Searleの以前の意図

*** Searleの意図の実行

**** Searleのフィット方向

*****サールの因果関係

***** (精神状態がインスタンス化されます-それ自体を引き起こしたり実行したりします)。サールはこれを因果的に自己参照と呼んでいた。

***** Tversky / Kahneman / Frederick / Evans / Stanovichによって定義された認知システム。

*****異なる場所、異なる時間 (TT) 現在の時刻と場所 (HN)

これは、ピーター・ハッカーの最近の3冊の人間の性質に関する様々なテーブルやチャートと比較することが重要です。ウィトゲンシュタインの発見は、我々が可能な使用 (意味、truthmakers、Satisfacti の条件における言語の特定コンテキスト、我々はその関心を使い果たし、説明 (すなわち、哲学) の試みは、真実からさらに離れて私たちを取得します。彼は、正しい文脈を示す、不適切な文脈で文章 (言語ゲーム) の使用、したがって、唯一の解決策-唯一の哲学的な問題があることを私たちに示しました。

表の説明

システム 1 (すなわち、感情、記憶、知覚、反射) は、脳のどの部分が意識に存在するか、自動化され、一般的に500msec 未満で起こりますが、System 2 は、意識的に表現された遅い審議行動を実行する能力です。議論 (S2D-私の専門用語) 以上の500msecを必要とするが、頻繁に繰り返される S2 アクションも自動化 (S2A-私の用語) になることができます。昏睡から睡眠の段階まで意識のグラデーションが完全に意識されています。メモリはシステム2および長い短期記憶 (ワーキングメモリ) を含んでいる-システム1の用語メモリ。volitions の場合、通常は、真または偽ではなく、成功したかどうかということになります。私たちの知覚体験の説明-意識への私たちの感覚のプレゼンテーションは、私たちが世界を記述するのと同じ言葉 (同じサールとして) に記述することができるので、S1 は因果関係自己再帰的であり、私は知覚または COS1 を呼び出すことを好む S2 の表現またはパブリック COS2 と区別してください。

もちろんです,さまざまな行と列が論理的かつ心理的に接続されています。例えば、感情、記憶および知覚真または偽の行は、真のみになります、精神状態を記述する、認知システム1に属し、一般的に自発的に開始されることはありません、自己再帰的に因果関係され、原因は世界で発生し、要因の変化を引き起こします心は、正確な持続時間を持って、強度の変化は、ここで発生し、今、一般的に特別な品質を持って、言語を必要としない、一般の知性とワーキングメモリから独立している、認知負荷によって阻害されていない、自発的なコンテンツを持っていないだろう、そして、満足の公共条件などはありません。

言葉 (概念、言語ゲーム) は、脳の実際の複雑な機能 (行動) と正確に一致することができないので、常にあいまいさがあります、すなわち、文脈 (文章と世界の) の組み合わせの爆発があり、無限に「脳の状態」 (「赤いリンゴを見る」) に対応でき

る数十億のニューロンの精神状態または活性化のパターン)のバリエーションとこれは1つ理由は、それはすべての可能な文脈を述べなければならない「法律のシステム」に高次の行動を「減らす」ことが不可能である-したがって、理論に対するウィトゲンシュタインの警告。そして、何が「削減」として数えますそして、「法律」と「システム」として(例えば、ナンシーカートライトを参照してください)。これは、既約性の特別なケースです。より高いレベルサール、DMS、ハッカー、W および他の人によって何度も説明されている下位レベルのものについて説明します。

約100万年前、霊長類は、いくつかの主要または原始的な言語のゲーム (PLG の) との現在のイベント (知覚、記憶、反射行動) を記述するために、複雑な一連のノイズ (すなわち、原始音声) を作るために彼らの喉の筋肉を使用する能力を進化させました。システム1は、高速、自動、皮質下、nonrepresentational、因果関係自己再帰、自少ない、真のみ“精神状態”正確な時間と場所で、そして時間の経過とともに、より高い大脳皮質センター S2 で、空間とイベントの時間 (過去と未来、しばしば仮説、試算、条件付きまたは架空の変位を記述する能力が進化しました。嗜好、傾斜、処分 - 遅い、皮質、意識、情報を含んでいる、他動詞 (満足の公共の条件を持つ) システム2の二次的または洗練された言語ゲーム (SLG の)、サールの用語truthmakersまたは私はプライベート S1 とパブリック S2 のための COS1 と COS2 に分割する意味、表象 (私は再び S1 の表現のための R1 と S2 のための R2 に分割)、真または偽の命題思考、正確な時間と能力を持っていないすべての S2 機能と精神状態ではない。プリファレンスは、直感、傾向、自動存在論的規則、行動、能力、認知モジュール、人格特性、テンプレート、推論エンジン、傾斜、処分感情 (動揺欲望としてサールによって記述された)、命題態度 (世界ではなく、命題にイベントを参照するために使用される場合にのみ正しい)、鑑定、能力、仮説。いくつかの感情はゆっくりと開発し、S2 の処分の結果を変更しています (W - 「心理学の哲学についての解説」 V2 p148) 他は典型的な S1 である一方、自動と高速に表示され、消える。「私は信じています」、「彼が愛している」、「彼らは考えている」は、一般的に考えられる公共の行為の説明です時空に isplaced私の最初の私自身についての人の声明は真のみ (嘘を除く)、すなわち S1、他の人についての第三者の声明は、真または偽であるが、すなわち、S2 (ウィトゲンシュタインの私のレビューを参照してください: インナーを再考するとバッド'ウィトゲンシュタインの心理学の哲学')。

知覚、再帰的行動、記憶とは対照的な意図的状态のクラスとしての「嗜好」は、1930年代にウィトゲンシュタイン (W) によって最初に明確に記述され、「傾斜」または「処分」と呼ばれる。彼らは、一般的にラッセル以来、「命題態度」と呼ばれてきたが、それは多くの場合、これは間違ったまたは誤解を招くフレーズであることに留意されている since 信じること、意図すること、知ること覚えて等は、多くの場合、命題や態度ではなく、例えば、W およびサールによって示されているような (例えば、Cf意識と言語 p118)。プリファレンスは、本質的なオブザーバーの独立した公開表現 (システム1からシステム2へのプレゼンテーションまたは

表現ではなく、サール意識と言語 p53) です。それらは時間またはスペースで転置される潜在的な行為であり、進化的はより原始的 S1 の認識の記憶および再帰的な行為は常にここにあり、今ある。これはシステム2を特徴付ける1つの方法です-システム1の後の脊椎動物心理学の2番目の主要な前進 (国家公 COS) イベントを表現し、別の場所または時間に発生していると考えられる能力 (サールの第三の学部試算認識と意志を補う想像力)。S1 の「思考」 (私の T1-i、システム1の自動脳プロセスを参照するための「思考」の使用) は、S1 の潜在的または無意識の精神状態である-サール-フィル問題 1:45-66 (1991)。

知覚、記憶、再帰的 (自動) 行動は、プライマリ LG によって記述される (例えば、私は犬を参照してください) そして、通常のケースでは、彼らは真のみであることができるようにテストが可能ではありません-すなわち、私が好むか、または動物の反射として W と DMS の説明として公理的。処分は be は、二次 LG の (SLG の-例えば、私は犬を見ていると信じています) また、私自身の場合でも、私のために、行動する必要があります (すなわち、私は私が信じているものを知っているのか、考えて、私は感じるまで行為または何らかのイベントが発生した場合-有名ジョンストンとバッドによる W の本。処分は、他の方法で行われるのと同様に、話されたり書いたりしたときの行動となり、これらの考えはすべてウィトゲンシュタイン (1930 年代半ば) によるものであり、行動主義ではないことに注意してください (ヒンティッカ&ヒンティッカ1981、サール、ハッカー、ハッなど)。ウィトゲンシュタインは、進化心理学の創始者であり、彼の作品は、私たちの公理的システム1心理学とシステム2との相互作用の機能のユニークな調査であるとみなすことができます。ウィトゲンシュタインは、30年代初頭の青と茶色の本の中で高次の思想の記述心理学の基礎を築いた後、それはジョン・サールによって拡張されました。ここに私のテーブル彼の古典的な本では、行動の合理性 (2001)。このテーブルはW の進化心理学の公理的構造の調査は、1911の彼の非常に最初のコメントから開発されたので、美しく、彼の最後の作品に「確実に」 (OC) によってレイアウト (1950-51 で書かれる)。OC は行動または認識論とオントロジーの基礎石であります (おそらく、セマンティクスと語用論と同じです)、認知言語学や高次の思考、そして私の見解で (例えば、DMS によって共有) 哲学の単一の最も重要な仕事 (説明心理学)、ひいては行動の研究である。知覚、記憶、再帰的行動、感情は、部分的には、心が自動的に世界 (皮質下) に適合する不随意精神状態 (因果関係自己再帰-サール) の原始的なものである --、疑う余地、真のみの公理的は、制御が不可能である合理性の根拠となる。

嗜好、欲望、意図は、思考が世界を SLG としている、ゆっくりとした意識の自発的な能力の記述である。行動主義と私たちのデフォルト記述心理学 (哲学) の他のすべての混乱は、S1 が動作しているのを見ることができず、S2 の意識的な意図的な行動としてすべての行動を記述するために起こります (現象学的錯覚- TPI -サール)。Wこれを理解し、彼の作品全体での行動で言語 (心) の例の数百人と無比明快さでそれを説明しました。理由は、メモリへのアクセスを持っているので、我

々は意識的に明らかであるが、しばしば間違っただ理由行動 (2 つの自己または現在の研究のシステムまたはプロセス) を説明します。信念とその他の処分は、Volitions が行動する意図 (前の意図—PI、または行動の意図) である一方で、世界の事実 (心を世界の方向に合わせる) を一致させようとする思考として記述することができる—la - サール (+) 世界を考えに合わせようとする行為プラスフィットの方向を考える—cf. サール, 例えば、意識と言語 p145、190)。

時には信念やその他の性質に到達するための推論にギャップがあります。気質の言葉は、精神状態を記述しているように見える名詞として使用することができます (「私の考えは...”), または、能力 (彼らが行動するか、または行動するかもしれないエージェント) を記述する動詞または形容詞として—「私はそれを思う...”), しばしば誤って「命題態度」と呼ばれています。知覚は記憶になり、私たちの生来のプログラム (認知モジュール、テンプレート、S1 の推論エンジン) はこれらを使用して性質を作り出します— (信じる、知る、理解する、考えるなど、-傾斜、嗜好、能力、S2 の表現とも呼ばれる言語 (思考、マインド) などの実際または潜在的な公共行為と意志、そして言語はありません (概念、思っの“民間の精神状態”思考または意思 (すなわち、no 個人の言語、思想または精神)。高等動物は、考え、行動することができますし、彼らは公共の心理学を持っている程度に。

Pレセプション: (X は真である): 聞く、見て、匂い、痛み、タッチ、温度

MEMORIES: 覚えている (X は本当だった)

PREFERENCES私NCLINATIONSDISPOSITIONS:(X が真になる可能性があります):

クラス 1: PROPOSITIONAL(True または False)公共行為、判断、思考、表現、理解、選択、決定、好むこと、解釈知って(スキルと能力を含む)、出席 (学習)、経験、意味、覚えて、私ntending, 考えている, 望み元pecting、希望、希望、希望 (特別授業) として見る (側面).

クラス 2: 分離モード-(として、条件付き、仮説、架空の)-夢を見て、想像し、横たわって、予測し、疑う。

クラス 3: 感情: 愛情、憎しみ、恐れ、悲しみ、喜び、嫉妬、うつ病。彼らの機能は、迅速な行動のための知覚と記憶の情報処理を促進することにより、包括適性 (期待最大効用) を高めるために好みを調節することです。このような愛、憎悪、嫌悪感や怒りなどの怒りや恐怖と S2 などの S1 の感情の間いくつかの分離があります。彼らを強く感じたり、望みを演じたりするように考えることができます。

欲望: (私は X が真実であるようにしたい—私はチャンにしたい私の考えに合う世界: 憧れ、期待、期待、待っている、必要とする、義務を負う。

意図: (私は X の真を作るつもりです)。

アクション: (私は X を真にしています): 演技、スピーキング、リーディング、ライティング、計算、説得、表示、実演、説得、試行、試行、笑い、演奏、食べ、飲んで、泣いて、アサート (説明、教育、予測、(報告)、有望、作成またはマップ、書籍、図面、コンピュータプログラムを使用して-これらは、公共と自発的であり、彼らは無意識の上に支配するように他の人に情報を転送し、非自発的かつ少ない S1 反射現象の説明 ((現象学的錯覚 (TPI)、ブランクスレート (BS) または標準社会科学モデル (SSSM))。

言葉は、私たちの生活の中で様々な機能を持つアクションを表現し、オブジェクトの名前ではなく、イベントの単一のタイプではありません。人間の社会的相互作用は、認知モジュールによって支配されています-ほぼ同等のスクリプトまたは社会心理学のスキーマ (推論エンジンに組織化ニューロンのグループ) の形成につながる認識と記憶と、意図につながり、次にアクションにつながるプリファレンス。志向性または意図的な心理学は、すべてのこれらのプロセスまたは行動につながるプリファレンスのみを取ることができ、より広い意味では、神経生理学を含む場合の認知心理学または認知神経科学総合の対象であり、神経化学と神経遺伝学。進化心理学は、上記のすべての機能の研究、または行動を生み出すモジュールの動作を調査するものとみなすことができ、その後、広がり進化、開発、好み、意図や行動との個々のアクション。私たちの心理学の公理 (アルゴリズムや認知モジュール) が私たちの遺伝子にあるので、私たちの理解を拡大し、力を高めることができます。クリアどのように動作し、生物学、心理学、哲学 (記述心理学)、数学、論理、物理学、およびコンピュータプログラムを介してそれらを拡張することができます、したがって、それらをより速く、より効率的にする方法の説明。Hajek (2003) は条件付き確率としての性質の分析を which は algorithmatized によって Rott (1999)、シュポーン等

志向性 (認知または進化心理学) は、意識、意志と自己を作成し、必要とする認知モジュールに本質的にプログラムされている行動の様々な側面から成り、通常の人間の大人ではほとんどすべての知覚を除いてそして、いくつかの思い出は、合目的、公共の行為 (例えば、言語) を必要とし、私たちの包括的なフィットネス (最大期待ユーティリティまたはベイズ効用最大化) を向上させるために関係に私たちをコミットしています。しかし Bayesianism 重度の決定不全性のために非常に疑わしいです - つまり、何も説明することはできません。これは、支配と相互利他主義によって起こり、多くの場合、私は S1 と S2 のための DIRA1 と DIRA2 に分けて、満足の条件に満足の条件を課す行動の独立した理由 (サール) を欲望にもたらす (サール) - (すなわち、公共行為 (筋肉の動き) を介して世界に思考を関連付け、数学、言語、芸術、音楽、性別、スポーツなどを生産します。この基本は、1930年代から1951までの最大の自然心理学者ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタインによつ

て解明されましたが、明確なforeshadowings1911に戻り、多くの改良があったが、1960年代にジョン・サールが始めた。「心理現象の一般的な木。私は正確性のためではなく、全体のビューのために努力しています。RPP 巻 1 p895, Cfz p464多くの志向性 (例えば、私たちの言語ゲーム) は学位を認めています。W が指摘したように、傾斜は時々意識と審議です。私たちのすべてのテンプレート (関数、コンセプト、言語ゲーム) は、いくつかの文脈であいまいなエッジを持っています、彼らは有用でなければならないように。

少なくとも2つのタイプの思考 (すなわち、2つの言語ゲームまたは対価 v を使用する方法) があります。erb の考え方(W) は、S1 と S2 の高速かつ低速な思考として記述されている、認識と合理的な部分認識なし nonrational。これは、単なる現象 (W RPP Vol2 p129) としてではなく、言語ゲームとして考えることが有用である。精神現象 (私たちの主観的または内的な「経験」) は、epiphenomenal であり、基準を欠いているので、自分自身のためにも情報を欠いているため、コミュニケーション、思考、またはマインドにおいて役割を果たすことはできません。すべての処分は、テストを欠いているように考えると、(S1 の認識とは異なり、精神状態ではありません)、そしてスピーチ、執筆またはその他の筋肉のような公共の行為またはイベントになるまで情報を含まない収縮。私たちの知覚と記憶は、彼らが公の行動で顕在化したときにのみ情報 (すなわち、公の COS) を持つことができます、それだけで、思考、感情などは、自分自身にとっても意味 (結果) を持っています。

メモリと知覚はモジュールによって、行動するとき心理的に効果的になる性質 (S1 が S2 を生成する) に統合されます。言語を発展させるということは、高度な人間が、行動 (腕と脚の筋肉の総収縮) のために言葉 (口頭または手動の筋肉の細かい収縮) を代用することを意味する。トム (マインドの理論) は、S1 と S2 におけるこのような機能のためのエージェンシー (私の任期) と UA1 と UA2 の理解と呼ばれるはるかに優れており、また、進化心理学または志向性と呼ばれることができます。自然に遺伝的にプログラムされた意識の生産、自己、そして、筋肉を収縮させることによって、意図と行動につながると考え、理解は思考と知るような気質である。したがって、「命題態度」は、通常直観的な審議 S2D (すなわち、システム 2の遅い審議機能) または自動化された S2A (すなわち、頻繁に実施されるシステム 2の音声およびアクションの機能を自動に変換するための誤った用語である高速機能)。私たちは、神経生理学を研究することによって思考や感情などを理解する認知科学の努力は、私たちがすでに知っているよりも、心 (思考、言語) がどのように動作するのか (脳の働きとは対照的に) について何も教えていないことがわかります (思考、言語) はすでに完全なパブリックビュー (W) になっています。隠されているあらゆる「現象」n 神経生理学・生化学、遺伝学、量子力学、または弦理論は、テーブルが原子で構成されているという事実として、私たちの社会生活に無関係である (によって記述することができます) 物理学と化学の法則は、それに昼食を持っていることです。W のように有名な「何も隠されていない」と述べた。心 (思考、言語) についての関心のすべては、我々は慎重に言語の働きを調べる

場合に表示するために開いています。言語 (マインド、潜在的な行動に関連する公開スピーチ) は、社会的相互作用を促進するために進化し、したがって、資源の収集、生存と再生。その文法 (すなわち、進化心理学、志向性) は自動的に機能し、我々はそれを分析しようとするとき非常に混乱しています。これは、ハッカー、DMS および他の多くによって頻繁に説明されています。

W は無数の丁寧に述べられた例で述べたように、単語や文章は文脈によって複数の用法を持っています。私は信じていると私は私と同じように非常に異なる役割を持って食べる信じる私は信じている、または信じるし、彼は考えている。「私は信じている」などの *inclinational* 動詞の現在時制の最初の人の使用は、通常、知識 (すなわち、S2) に基づいて私の可能性のある行為を予測する私の能力を記述しますが、(哲学的文脈で) 私の精神状態を記述するように見えることができます。知識や情報 (W とハッによる本の私のレビューを参照してください。ミャー)。前者の S1 感覚では、それは真実を記述するものではありませんが、それを言う行為でそれ自体が真になります-すなわち、「私はそれが雨だと信じています」それ自体が本当になります。つまり、一人称の現在時制で使用される破棄動詞は自己再帰を因果関係することができます--彼らは自分自身をインスタンス化しますが、その後はテストできません (つまり、T や F ではなく、S2 ではありません)。ただし、過去または将来時制または第三者使用--「信じた」または「彼は信じている」または「彼は信じるだろう」または *resolv* ことができる真実である情報によって *ed* または偽、彼らは、または検証可能になることができる公共の行為を記述するよう。同様に、「雨が降っていると思う」というのは、私にとっても、その後の行動とは別の情報を持っていませんが、「私はそれが降るだろうと思う」または「彼はそれが降っていると思います」は、情報を伝えることを意図した時空に置き換えられる潜在的誤報)。

事前の意図なしに話された無反射または *Nonrational* (自動) 語 (私が S2A と呼んでいる、つまり、S2D は練習によって自動化される) は、W とその後、ダニエレによって行動として言葉と呼ばれる *Moyal-Sharrock* の哲学心理学で彼女の論文に (2000)。

多く いわゆる傾斜/性質/嗜好/傾向/能力/能力は非命題 (非-システム 1 (トベルスキー *Kahneman*) の態度 (それらを関数または能力と呼ぶ方がはるかに有用)。以前の意図は、精神状態とそれ故に S1 であることがサールによって述べられていますが、私たちの通常の言語では、我々の前の意図が S2 の意識的な審議であるので、再び私は1つが *PI1* と *PI2* を分離しなければ知覚、記憶、タイプ2の性質 (例えば、いくつかの感情) と多くのタイプ1の性質は、S1 の反射神経と呼ばれ、自動、無反射、非命題および態度のヒンジ (公理、アルゴリズム) の機能です。進化心理学 (*Moyal-ウイトゲンシュタイン* 後の *Sharrock*)。

高次の思考の記述心理学を理解するために重要なリーディングを考える W のアイデアの主要な指数のいくつかは、*Coliva*、ハッ、DMS、船尾、*Horwich*、フィンケ

ルシュタインと Read、今多くの学者のように、彼らの仕事のほとんどを(多くの場合、プレプリント形式で)無料でオンラインで投稿している academia.edu, philpapers.org, researchgate.net、およびその他のサイト,そしてもちろん勤勉は見つけることができますほとんどすべて無料オンライン急流、p2p、libgen.io、b-ok.orgなどを介して.ベーカー & ハッカーは、多くの共同作業で見え、ハッカーの個人ページ。故ベーカーは、「ゴードン・ベーカーのウィトゲンシュタインの遅い解釈」が行動の学生のために読まなければならないというハッカーによって論破された奇妙な精神分析とむしろニヒリスティック解釈で船外に行きました。

S1 の因果の枠組みの点で S2 の高次の思想を説明する試みによる人生の無限の形而上学 reductionist 漫画のビューを見つけることができます,カルーサーズ『(C)、デネット、Churchlands(経済学、computationalism、または唯物論還元主義の現在の指導者のうち3人は、以下の CDC-(哲学的) 疾病管理センターのための私の頭字語) および多くの他のものを追求しています。経済学は、彼がそれを指摘したとき、30年代に BBB で W で始まる頻繁に暴かされています- 「哲学者は常に彼らの目の前に科学の方法を見て、たまらなくは科学が行う方法で質問し、答えるために誘惑されています。この傾向は、形而上学の本当の源であり、完全な暗闇に哲学者を導く」-とサール、読み、ハッ、ハッカーやその後数え切れないほどの他の人によって。「説明する」という試み(本当に、W が明らかにしたとして説明するため) S2 は因果関係であり、S1 にとっても非常に複雑であり、「因果」の非常に多様な言語のゲームがこれまでに適用することができることは明らかではありません。-でも、物理学や化学の彼らのアプリケーションは、変数であり、しばしば不明瞭である(それは重力または離層の層やホルモン、風やリンゴの秋を作ったそれらのすべてであった,そして、原因はいつ始まり、終わりましたか?しかし、W が言ったように - 「今、それは我々が懸念している因果関係ではない場合、その後、心の活動は私たちの前に開いています。

しかし,私はそれが見て大きな間違いであることを示唆していますW asいずれかの側を取る, 通常の sta としてテッド、彼の見解がはるかにあるように微妙多くの場合、彼の dialogues は未解決のままに役立たずかもしれないW の私のレビューを開始するには、ハッ、Horwich、その他の多くのものを研究し、Coliva、ハッカー、グロック、DMS、船尾などの因果関係と科学の哲学の文献を掘る前に可能なように、そして、一つはそれがそうすることが面白くないことが判明した場合、W はマークを打っています。

W や他の人の努力にもかかわらず、ほとんどの哲学者は、言語のゲームの微妙さをほとんど把握していないと思われます(例えば、「私は何を意味するかを知っている」と「私はそれが何時か知っている」という劇的に異なる用途)、または性質、そして多くの(例えば、CDC) は、%が1世紀前に休息するために敷設された「内なるスピーチ」と computationalism の内省のような概念について、まだ彼らの考

えをベースにしています。

本を読む前に、私は彼らが引用する人を見るためにインデックスと書誌に行きます。多くの場合、著者が最も顕著な成果は、私がここで引用したすべての著者の完全またはほぼ完全な省略です。W は、簡単に最も広く議論されている現代の哲学者は、約1冊の新しい本と数十の記事の主にまたはwholly彼には毎月捧げられている。彼は自分の日記「哲学的な調査」を持っていると私は彼の書誌は、次のトップ4または5哲学者のそれを超えていることを期待組み合わせる。サールはおそらく、モダンズ (と YouTube、Vimeo、大学のサイトなどで多くの講義を持つ唯一のもの) の間で、他のほとんどすべての哲学の講義とは違って、ハッを聞くことが喜びである、100Coliva、DMS、ハッカー、読書などは、書籍の数十と記事、話やレビューの数百人で非常に顕著です。しかし、CDC と他の面目はそれらを無視し、彼らの仕事を非常に重要なものとみなす何千人も。

その結果、強力な W/S フレームワーク (および大As思考における現代的な研究のこと) は全く不在であり、それが一掃したすべての混乱が豊富である。あなたは私のレビューと作品自体を読んでいる場合、うまくいけばこのアリーナでのほとんどの書き込みのあなたの見解はかなり異なっているかもしれませんが彼らから。しかし、W が主張したように、1すること自分を通して模範を働かせる。よく知られているように、彼の超ソクラテス trialogues は治療の意図を持っていた。

内省とプライベート言語に対する W の決定的な引数は、私の他のレビューで指摘され、非常によく知られています。基本的には、彼らはパイと同じくらい単純です。A と B を区別するテストが必要で、テストは外部とパブリックにしかできません。彼はこのことを「箱の中のカブトムシ」で有名にした。私たちは、すべての舌状などを開くことができないボックスを持っていると、「カブトムシ」の内側にあるものと呼び出す場合、その後、「カブトムシ」は、すべてのボックスが異なるものを含むことができるか、あるいは空であっても、言語で任意の役割を持つことはできません。だから、私だけが知ることができるプライベートな言語と'内部のスピーチ'のイントロスペクションはありません。X が公に明白なでない場合、私たちの言語では単語にはなりません。このシュートダウンCarruther の彼が参照しているすべての他の「内的感覚」理論と同様に、心の ISA 理論。私は、対価の内省と機能の概念の W の解体を説明してきました ('命題態度') 上記とバッド、ジョンストンとサールの本のいくつかの私のレビューで。船尾の「ウィトゲンシュタイン」を見るの哲学的調査” (2004) プライベート言語の素敵な説明のために、d すべての読むことによってこれらの問題の根本にあるのは、数少ないことです。

CDC は「より高い自己」の存在を前提としているので、「I」の使用を安易。しかし、書くこと、読むこと、すべての言語と概念 (言語ゲーム) が自己、意識、意志を前提とするという行為は、そのようなアカウントは、いかなる価値もなく、人

生の自己矛盾した漫画である (そして、誰の日常生活にゼロの影響)。W/S と他の人は長いことを指摘している一人称視点は、単に3人目の人に分かりやすくこれらまたは還元ではありませんが、一貫性の欠如は、人生の漫画のビューのための問題ではありません。同様、脳機能や行動を「計算」、「情報処理」などとして記述することで、--まあ暴か、ハッ、読み、ハッカーや他の多くによって無数の時間を。

科学と哲学を結びつけようとしているということは、意識を持たずにほとんどランダムに変化する多くの重要な用語の意味で、スキゾイドで絶望的であるが、このような科学と哲学の本は何千もある。私たちの行動と認知心理学の実験の説明 (W として説明されていません) があります。人間の行動を扱うこれらの多くは、S1 の無意識の作り出すと S2 の意識的な思考を組み合わせます (生理学に心理学を吸収します)。私たちは、自己、意志、意識は幻想であるとよく言われますが、彼らはこれらの用語の「本当の」意味を示していると考えているので、漫画の使用は有効なものです。すなわち、S2 は「非現実的」であり、S1 の科学的因果記述によって包含されなければなりません。したがって a 言葉の哲学から心の哲学への転換の理由例えば、私のレビューを参照してください。Carruther の最近の「心の不透明さ」。でもサールは、ハッカー、ベネットとハッカー、DMS によって指摘されているように、ここで頻繁に犯罪者である、Coliva など。

誰かが私が昼食のために何を持っているかを選ぶことができないと言った場合、彼は明らかに間違っているか、選択によって、そのような「選択」などの他の何かを意味するものとして記述することが '原因' または '選択を削減する方法が明確ではないこと' 原因「だから我々はそれを錯覚と見なければならぬ、それは普通真 (またはコーヒーレント) であるが、我々がどのように言語を使用し、どのように生きるかとは無関係であり、そのような議論を開始し、終わらせるためのポイントとみなすべきである。

おそらく、それはカントとニーチェ (偉大な知性、しかし、彼らのどちらも哲学の問題を解消するために多くを行っていない) と一緒に、それが W だったことを関連しているとみなすかもしれない、哲学者によってすべての時間のベストを投票した人-クワインない、ダメットパットナムクリプキまたは CDC。

一つは、すべての哲学的な質問の類似性を見ることができます (私はここで考える厳格な意味で、質問の出現とすべてが1ではないという W のコメントを念頭に置いて)。私たちは、脳 (または宇宙) がそれを行う方法を理解したいが、S2 はそれまでではありません。それはすべて (またはほとんど) DNA を介して S1 の無意識の陰謀で、我々は '知らない' が、我々の DNA は、いくつかの30億年にわたって無数の生物の死の礼儀をしています。私たちは、簡単に世界を記述することができますが、多くの場合、「説明」がどのように見えるべきかに同意することはできません。だから、私たちは科学に苦勞し、心のメカニズムをゆっくりと説明しています

。私たちが到着する必要がある場合でもの「完全な」知識を持つ脳は、我々はまだちょうど神経パターンの説明を持っているだろうs赤を見ることに対応していませんが、それがなぜ赤であるか(すなわち、なぜクオリアが存在するのか)の「説明」を持っているということは明らかではありません。W が言ったように、説明はどこかで終わりに来る。

上記を把握している人のために、の哲学的な部分Carruther の「心の不透明度」(CDC 学校の主要な最近の仕事) は、結果としての標準的な混乱の大部分で構成されていますW、S の作品を無視してからそして、他の数百人。これは、経済学や還元主義と呼ばれることができ、これらは科学で全く異なると完全に互換性のない使用を与えられている場合を除き、私たちの高次の思考、意志、自己と意識の「現実」を否定します。私たちは、例えば、アクションの理由はありません、アクションなどを引き起こす脳のみ。明確な意味を持たない質問に答えようとすることで、架空の問題を生み出します。それは、これらの見解は、彼らの大人の生活のほとんどを費やす人々の日常生活に絶対に影響を与えないことを私たちに打つ必要がありますそれらを促進。

この状況は、ルパートが彼の記事「意識の難しい問題」で読んでうまく要約されています — 「筋金入りの問題は、より多くのリモートになり、より多くの我々は、情報や知覚や志向性などの心の側面を人間味。問題は、我々がそれに直面している場合にのみ本当に直面している、我々はすべての人間に関係している「問題」として、特定の時間に(密接自然と社会) 文脈で具体化され、など...すると、問題がないものに明快することができます。人間と非人間のドメインを越えて情報を「理論化」としているときだけ(おそらく、人間以外のものを使用している-(通常は機械として考えられている動物です) または機械は、パラダイムとして、そして物事を前に戻すために、問題がある場合...すべての「isms」(cognitivism、還元主義(脳への)、行動主義など)さらにプッシュして、私たちの範囲からさらに...問題の非常に概念化は、「困難な問題」が不溶性のままであることを保証する非常にものです...現実とみなされるならば、何かの科学がなければならないと考えることは、私たちには決して与えられていません。意識や心、社会の科学が必要であると考える理由はないが、数字の科学、あるいは宇宙、あるいは首都、ゲーム、星座、あるいは名前が文字で始まるオブジェクトの科学的なものでなければなりません。b...私たちは、自分の考えではなく、彼らに「位置」にある心と脳として、自分自身のアイデアではなく、世界で行動する具体化された人として自分自身のアイデアを開始する必要があります...科学がどのような意識が本当にあるかの「外部」/「客観的」なアカウントにブートストラップを助けることができる方法はありません本当に存在。私たちのマシンが私たちと衝突し、私たちと競合して、基準の矛盾がある場合、それは私たちを助けることができません。私たちのマシンのために最初の場所で私たちのレポートによって較正されます。外部の視点を取得するようなものはありません...それは...難しい問題は、不溶性である、...むしろ、我々は問題があったことを認める必要はありません「超越自然主義」の定義

...保証。。。その問題は無期限に存続している。それは、両方の謙虚な (まだ特権のある) 「科学的」理解に限界の声明と、b の物分かりの驚くべき心理的満足を提供しています特権エリートのようにごの一部、それらの限界を示すことは、それらを超えて見ることができます。ウィトゲンシュタインの序文で明らかにされたものを見ることに失敗します。論理.限界は...唯一の言語で描かれ、制限の反対側にあるものは単にナンセンスになります。

W のコメントの多くは心に浮かぶ。彼は8を指摘8何年も前に、「謎」は、超越のための憧れを満ちし、我々は我々が「人間の理解の限界」を見ることができると思うので、我々はまた、我々は彼らを超えて見るができると思うし、我々は我々があるという事実で言語 (マインド) の限界を見るという事実でこだわる nnot 文を繰り返す以外の文に対応する事実を記述する (1931 で書かれた、彼の文化と価値における p10 などを参照してください)。私はまた、「迷信は因果ネクサスの信念ではない」という彼の発言を頻繁に繰り返すことが有用であることがわかります --1 世紀前に TLP 5.1361 で書いた

また、該当は、精神的なプロセス (およびすべての哲学的問題) に関する哲学的問題の起源についての彼の有名なコメント (PI p308) です。「精神的なプロセスや状態、行動主義についての哲学的問題はどのように発生するのか?最初のステップは、完全に通知をエスケープするものです。私たちはプロセスと状態について話し、その性質を未決定のままにします。いつか我々は彼らについてもっと知るだろう。しかし、それはまさに私たちを特定の方法その問題を見ている。私たちは、より良いプロセスを知ること学ぶために何を意味するか明確な概念を持っています。(手品トリックの決定的な動きが行われ、それは非常に無実だと思った非常に1つでした。そして今、私たちの考えを理解させるためにあった類推は、作品に落ちる。だから我々はまだ否定しなければならないuncomprehendedまだ未踏の媒体で処理します。そして今、私たちは精神的なプロセスを否定していたかのように見えます。そして当然、私たちはそれらを否定したくありません。

W (PI p271) によって別の一見些細なコメントは、言葉「痛み」を意味したが、それを正しく使用したことを忘れた人を想像するために私たちに尋ねた-すなわち、彼は私たちと同じようにそれを使用!また、関連する W のコメント (TLP 6.52) すべての科学的な質問が答えられたとき、何も疑問に残されていない、それ自体が答えです。と中央にを理解するscientistic(すなわち、経済学のために、科学ではない) CDC らの失敗は彼の観察であり、それは何かが私たちに何かをしなければならないと考えることは非常によくある間違いであり、原因と理由の間の混乱につながります。そして、我々がここで、そして、1000の類似したケースにある過ちは「何かが私たちにしなければならない」という考えがあるので、「作るの」という言葉によって「作ること」は「私たちが行うようにルールを使用する洞察の行為ではありません」という語でラベル付けされます。そして、これが原因と理由の混同に再び加わります。その規則に従う理由がない理由の連鎖は終わりを持つ

ています。BBB p143

彼はまた、原因の連鎖が終わりであり、それが原因を特定するために意味があるために、一般的なケースでは理由がないことをコメントしています。W何十年もの間、「明快の模範」を働かせて「文法」を明らかにすることの必要性和、多くの人に対する無益が答えていることを見ました。したがって、セラピーとしての哲学についての彼の有名なコメントと「自分自身に取り組んで」。

非常に多くの哲学書についてのもう一つの顕著なもの(と行動科学、物理学と数学の中で偽装哲学)は、多くの場合、最も著名な哲学者の多くは、ビューの他のポイントがあることを示唆していないことがありますscientific干渉しないと表示します。また、t彼は事実(めったに言及されていない)、もちろん、我々はその矛盾を無視します、減少は、神経生理学のレベルで停止しません、しかし、簡単に拡張することができます(そして、多くの場合、)化学のレベルに、物理学、量子力学、「数学」または単に「アイデア」.正確に神経生理学を特権にする必要があります。?古代ギリシア人は何もないという考えを生み出した存在しかし、アイデアやライブニッツは、巨大なマシンとして宇宙を説明しました。最近のステファン・ウルフラムは、「新しい種類の科学」のコンピュータ・オートマトンとしての宇宙の記述について、疑似科学の歴史の中で伝説になりました。彼らの多くの扮における唯物論、メカニズム、理想主義、還元主義、行動主義と二元論は、ほとんどニュースではなく、Wittgensteinian、Wは30年代に青と茶色の本を口述して以来、かなり死んだ馬、または少なくともその後の出版と彼の上に広範な解説以来nachlass.しかし、誰かを説得することは絶望的な仕事です。W自分で作業することを実現しました-長いハードワークを介して自己療法を介して言語の「明快の例」(マインド)のアクションで。

「宇宙は偉大な機械のように、より偉大な思想のように見えるようになった」という、公理的心理学のルールと、それを知らずに言葉の使い方を変えることがいかに簡単かという(無知)表現は、物理学者サー・ジェームズ・ジーンズによって与えられました。しかし、「思考」、「マシン」、「時間」、「スペース」、「原因」、「イベント」、「起こる」、「起こる」、「続ける」など、日常生活のように科学や哲学において同じ意味(用法)を持っていない、またはむしろ彼らは多くの新しいものとランダムに混合古い使用を持っているので、意味のない感覚の出現があります。行動、生命、宇宙に関する学術的な議論の多くは高い喜劇(低いとは対照的に)ほとんどの政治、宗教、マスメディアのコメディ):すなわち、「洗練された、機知に溢れる対話と複雑なplot"によって特徴付けられる丁寧な社会に対処するコメディ-(辞書.com)。しかし、哲学は時間の無駄ではありません--正しく行われ、それは時間を過ごすための最良の方法です。どのように我々は行動科学の混乱を払拭したり、私たちの精神的な生活とシステム2の高次の思考を記述することができます--最も複雑な、素晴らしいと神秘的なものがありますか?

この枠組みを考えると、私たちの生来の心理学がシステム2の現実のテストをどのように使用してシステム1の確実性の上に構築するのかを説明する **W** の例に従うことは、**OC** を理解するのが容易であるべきであり、我々個人として、そして社会としての世界観反論は、私たちの公理的の基盤に構築されたインターロックの経験は、科学と文化の驚くべき建物に遺伝的にプログラムされた再帰的知覚と行動。進化論と相対性理論は、確実性に挑戦することができるものからずっと前に渡されました、そして、スペクトルのもう一方の端で、パリまたはブロンのようなものがないことを見つける可能性はありません **tosaurus** 懐疑的見解は、一貫性がない。私たちは言うことができる何かしかし、私たちは何も意味できません。

したがって、**DMS** では、人間の理解の基礎石の記述と私たちの心理学上の最も基本的な文書として **OC** を考慮します。彼の60年代に、精神的に、物理的に癌によって荒廃したときに書かれているが、それは彼の他の仕事と同じくらい華麗であり、哲学(高次思想の記述心理学)の理解を変換し、最後に光にそれをもち、**3洞窟**で千年形而上学は哲学と物理学から一掃された。

「どのような進歩があるのかというと、魅惑の神秘は取り除かれましたが、慰めに **plumbed** された深さはありません。何も説明したり、発見したり、**reconceived** たりしていない。どのように飼いならすとパットが考えるかもしれません。しかし、おそらく、ウィトゲンシュタインが示唆しているように、明快さ、謎解きと真実の美德は十分に満足していることを見つけるべきである "--**Horwich** 'ウィトゲンシュタインの **Metaphilosophy**'.

私は私がここで奨励している視点で、**W** は現代の哲学と心理学の中心にあり、あいまいではなく、困難または無関係であることを示唆していますが、機知、深遠で透き通った、彼を欠場することは最大の一つを欠場することです知的冒険が可能です。

科学と数学についての本の **putatively** で哲学の混乱の多くを表示する優れた最近の作品は・ヤノフスキーの'の外側の限界理由: 科学、数学、論理が私たちに伝えることができないもの (2013)(私のレビューを参照してください)。

W は、我々が科学的解説の終わりに達すると、問題は哲学的なものになると指摘した - すなわち、どのように言語を分かりやすく使用できるかの**1**つです。・ヤノフスキー、事実上すべての科学者とほとんどの哲学のように、「質問」または「アサーション」の2つの異なる種類があることを得ることはありません (すなわち、言語ゲームや **LG** の) ここにあります。世界がどのようにあるかについての事実の問題であるものがあります、すなわち、彼らは明白な意味 (満足条件) を持つ事務の命題 (真または偽) の状態を公に観察されています-サールの用語で **COS**—すなわち、科学の声明、そして、言語がこれらの問題の状態を記述するのにどのように使用されるかについての問題であるものがあり、これらは科学の事実には

とんどまたは全くリゾートを持っていない、正気で、知的で、コヒーレントな人によって答えることができます。もう一つのあまり理解されていないが重大な事実は、真または偽の文の思考、表現、推論、理解、内など(すなわち、対価心理学)は、私たちの遅いの高次認知の関数であるが、意識システム 2 (S2) は、「粒子」が絡み合っているかどうかについての決定は、星が赤いシフトを示し、定理が証明されている(すなわち、記号が証明の各ラインで正しく使用されていることを見ることを含む部分)、常に高速で作られている、自動、無意識のシステム 1 (S1) は、情報処理がない、表現(すなわち、COS)と、これらが S2 (S1 からの入力を受信します)で起こるという意味での意思決定をしていないものを、見て、聞く、触れるなどを介して。この2つのシステムアプローチは、現在、推論や合理性を表示するための標準的な方法であり、科学、数学、哲学が特別なケースである行動の記述において決定的ヒューリスティックです。行動や科学の研究に不可欠な推論に関する膨大で急速に成長している文献があります。私たちが実際にどのように理由(すなわち、行動を実行するために言語を使用しているか)の詳細を掘り下げた最近の本は、「人間の推論と認知科学」です。ピーターバラとバンLambalgen(2008)は、その限界(例えば、W/S の限定的な理解と意図的な心理学の広い構造)にもかかわらず、(2019)私が見ている最高の単一のソース。

それは明確に「科学的な」言語ゲームによって生成された混乱の種類が多くを示しているので、W は数学の哲学に多大を書きました、そして無数の論評がありました、多くの非常に貧しい。私はそれが育ったとして、最高の最近の仕事のいくつかについてコメントします・ヤノフスキー。

フランシスコBerto最近、いくつかの浸透のコメントをしました。彼は、W が **metamathematics** のコヒーレンスを否定したと指摘する - すなわち、ゲーデルの **metatheorem** 彼の定理を証明するために、おそらく彼の「悪名高い」解釈を考慮するゲーデルの定理はパラドックスとして、我々は彼の議論を受け入れる場合、私は **metalanguages**、**metatheories** とメタ何か他のものの明瞭さを否定することを余儀なくされていると思います。そのような概念(言葉、言語ゲーム)が **metamathematics** と **incompleteness** (そして、ペンローズ、ホーキング、ダイソンらは、私たちの心や宇宙についての基本的な真理を明らかにするだけでなく、言語がどのように動作するかについての単なる誤解であると主張しましたか?そんなに多くの「啓示」哲学の概念(例えば、心と幻想のように意志-デネット、カルーサーズ『、このプリン証拠ではありませんChurchlandsなど)、実際の影響は一切ありません。

Berto 「このフレームワーク内では、それは非常に同じ文が可能ではありません。表現可能であることが判明、しかし、決定不能、正式なシステムで...そして、革新性は、別のシステム(メタシステム)で真(前述の一貫性仮説の下で)。ウィトゲンシュタインが維持されているように、証拠が証明された文の非常に意味を確立するならば、同じ文(すなわち、同じ意味を持つ文)が正式なシステムで決定不能れ

ることは不可能であるが、別のシステムで決められた (メタシステム) ...ウィトゲンシュタインは、正式なシステムが構文的に不完全であるという考えの両方を拒否しなければならなかった、とプラトンの結果は、算術の真実だけを証明する正式なシステムがすべての算術真実を立証することができない。算術の文章の意味が立証されれば、不完全な意味がないのと同じように、未完成のシステムは存在しない。さらに「不整合算数、すなわち、非古典的算数 **paraconsistent** ロジックに基づいて、今日では現実です。より重要なのは、そのような理論の理論的特徴は正確に一致するいくつかの前述 **Wittgensteinian** 直感。。。彼らの矛盾は、彼らもから脱出することができますゲーデルの第一の定理、そして教会の決定不能性結果から: 彼らは、革新性完全かつ決定可能である。したがって、システム内で有意義に定式化することができ、システムのルールが決定できない数学的な問題が存在しないという、正確にウィトゲンシュタインの要求を満たします。したがって、**paraconsistent** の決定可能性 **arithmetic** チックウィトゲンシュタインに維持される意見との調和 **Thoughtout** 彼の哲学的経歴。

W また、自然淘汰のランダムな過程によって組み立てられた断片のモトリーとしてではなく、数学や言語に関する致命的なエラーや、一般的には単一の coherence 論理「システム」としての私たちの行動についても実証しました。"ゲーデル私たちは数学がシステムであるという事実によって示されている「数学」の概念の **unclarity** を示し、我々は (ほぼすべての人をコントラ) と言うことができますはすべてゲーデルとグレゴリーチャイティン表示。 **W** は、数学の「真実」が公理または公理から派生した定理を意味することを何度もコメントし、「偽」は、1つが定義を使用して間違いを犯したことを意味し、これは全く異なる **fr** です経験的事項テストを適用します。 **W** は、通常の意味で数学として許容されるために、それは他の証明で使用可能でなければならないことをしばしば指摘し、それは実際のアプリケーションを持っている必要がありますが、どちらもそうではありませんゲーデルの不備。一貫したシステムでは証明できないため (ここではペアノのためにより広いアリーナである。チャイティン)、それは証明で使うことができないし、 **PA** のすべての「残り」とは異なり、それは現実の世界で使用することはできませんいずれも。ピクチャーとして **Rodych** ノート "...ウィトゲンシュタインは、形式的な微積分は、偶発命題のシステムにおいて (例えば、通常の計数および測定または物理学において) 余分に全身的な適用を有する場合にのみ、数学的微積分 (すなわち、数学的な言語ゲーム) であることを保持する ..." これを言うもう一つの方法は、「証拠」、「命題」、「真」、「不完全」、「数」、「数学」などの単語の通常の使用を「数字」と「プラス」と「マイナス」の微候などで作成されたゲームのもつれの結果に適用する令状が必要であり、「この令状に不備がある。 **Rodych** 見事を合計します。「ウィトゲンシュタインのアカウントでは、数学ではすべてがアルゴリズムであり、構文であり、意味がないので、不完全な数学的微積分というものはありません。

W は、カントールの対角化とセット理論についてはほとんど同じことを言う。「

対角線の手順の考察は、「実数」の概念は、我々よりも、特定のアナロジーによって誤解されている概念「枢機卿」とはるかに少ない類推を持っていることをあなたを体格し、「信じたい」と他の多くのコメント(参照してくださいRodychとフロイド)。

すべてのこのような本からの主要な脱落の一つは、いくつかの素晴らしい不可能または不完全な定理を証明した博学物理学者と決定理論家デビッドウォルパートの素晴らしい仕事です(1992に2008 - 参照してください arxiv.org) 推論(計算)の限界については、計算を行うデバイスから独立しており、物理学の法則とは無関係であるため、コンピュータ、物理、および人間の行動にまたがって適用されるので、彼は要約しました **thusly**: 「1つは、宇宙よりも速く情報を正しく処理することを保証することができる物理的なコンピュータを構築することはできません。その結果、絶対の汎用観測装置が存在できず、絶対の汎用制御装置がないことも意味します。これらの結果は、無限の、および/または非古典的なシステムに依存しない、および/またはカオス力学に従う。また、無限に高速で、無限に密集したコンピュータを使用している場合でも、チューリング機械よりも高い計算能力を持っています。彼はまた出版彼が言うチームやコレクティブインテリジェンス(コイン)の最初の深刻な仕事のように思えるものは、健全な科学的基礎にこの主題を置きます。さまざまなバージョンのこれらの20最も権威のある査読された物理学のジャーナル(例えば、PhysicaNASAの雑誌と同様に、237)。,そして、主要な科学雑誌のニュースアイテムを得ている、いくつかは気づいていると私は参照を見つけることなく、物理学、数学、意思決定理論と計算に関する最近の書籍の数十を見てきたようだ。

それは最も不幸である・ヤノフスキー彼の作品は、彼が(チューリング機械理論の多くの証拠のように)うそつきのパラドックスとコントロールのを拡張することによって達成し、コンピューティング、思考、推論、不完全性、および決定不能性の究極の拡張であるため、他の人は、ウォルパートの意識を持っていません対角化は、すべての可能な宇宙とすべての生き物やメカニズムを含めるようにし、したがって、計算だけでなく、宇宙論や神々にも最後の言葉として見ることができます。彼は、worldlines を使用して推論の宇宙を分割することによって、この極端な汎用性を達成します(すなわち、それが何をするかではなく、それを行う方法の面で)彼の数学的証拠は、任意の独立しています特定の物理過去、現在、未来の推論の物理的限界を確立し、すべての可能な計算、観察、および制御のための法則または計算構造。彼は、古典的な宇宙のラプラスでさえも、将来を完全に予測することができたこと(あるいは過去や現在を完全に描写すること)について間違っていたこと、そして彼の不可能性の結果を「非量子力学的不確定性原理」と見なすことができることに注意している(すなわち、絶対の観察や制御装置は存在しない。任意の普遍的な物理デバイスは無限でなければならない、それは時間内の1つの瞬間にのみそうすることができ、現実には1つ以上(「一神教の定理」)を持つことはできません。空間と時間が定義に現れないので、デバイスは、すべての時間を渡

って宇宙全体であってもよいです。これは、1つの自己参照デバイスではなく、2つの推論デバイスを持つ不完全性の物理アナログと見なすことができます。彼が言うように、「私たちの宇宙のハミルトンは、特定のタイプの計算を *proscribes* か、または予測の複雑さは (アルゴリズム情報の複雑さとは異なり) ユニークであるという点で、私たちの全体に適用することができ、その1つだけのバージョンがあります宇宙。

もう1つの方法としては、2つの物理推論デバイス (コンピュータ) が、他方の出力について任意の質問をすることができるか、または宇宙に任意の計算が可能なコンピュータを含めることができないということです。タスク、または物理的な推論エンジンの任意のペアのために、それらの少なくとも一つに提起することすらできない宇宙の状態について、常にバイナリ値の質問があります。物理システムの任意の将来の状態を予測できるコンピュータを構築することはできません。条件は、それに提起することができるタスクの制限されたセットからのものである、すなわち、それは (これは *S* と読んで、他のノートとして腹フレーズであるけれども) 宇宙よりも速く情報を処理することはできません。コンピュータと任意の物理システムはコンピューティングは物理的に結合されている必要はなく、物理、カオス、量子力学、因果関係や光コーンの法則、さらには無限の光の速度にかかわらず保持します。推論デバイスは空間的に局在化する必要はありませんが、宇宙全体で発生する非局所的な動的プロセスである可能性があります。彼は、これが *Wolfram* の憶測を置くことをよく知っています、ランダウアー、フレドキン、ロイド等、*t* に関する彼はコンピュータとして宇宙「情報処理」の限界は、新しい光の中で (彼らの著作のインデックスは彼に言及しておらず、別の顕著な不作為は、上記のどれもが言及されていないということです。・ヤノフスキーいづれか)。

ウォルパートは、宇宙にはできるだけ速く情報を処理することができる推論装置を含めることができないことを示しており、彼はあなたが完璧なメモリも完璧な制御を持つことができないことを示しているのです、その過去、現在または将来の状態は完全にまたは完璧になることはできません描写され、特徴付けられる、公知またはコピーされる。彼はまた、エラー修正コードを持つコンピュータの組み合わせがこれらの制限を克服できないことを証明しました。ウォルパートはまた、オブザーバー (「嘘つき」) の重要な重要性を指摘し、これは、物理学、数学、言語のおなじみの難問に私たちを接続します・ヤノフスキー。再び *W* の *cf*: 「彼言い換えると、対角化の一般化された形を言います。したがって、この引数は通常、10進展開だけでなく、それらの表現されたリストまたは規則によって制御される式にも適用できます。に依存しません。特定の表記標識の装置または好ましい空間的配置。その意味では、ウィトゲンシュタインの議論は全く絵に訴えるものではなく、本質的に作図や表象ではありませんが、それは図解であり、論理的な議論である限り、その論理は正式に表現されるかもしれません。チューリングの議論のように、それはいかなるものとも直接の結びつきがない特定の形式主義。[ウォルパートとの類似点は明白です。チューリングの引数とは異なり、それは明示

的に言語ゲームの概念を呼び出し、ルールとそれに従う人間の概念の日常的な概念に適用 (および前提と) します。上記の対角線上のプレゼンテーションのすべての行は、人間に与えられた命令に類似した指示またはコマンドとして考案されています...ウォルパートの作品が、科学や数学の別々の問題と哲学 (言語ゲーム) という、W のアイディアの完璧なイラストであることは明白です。

・ヤノフスキーまた、ゲーム理論家、物理学者、エコノミスト、数学者、哲学者、意思決定理論家などの間で、現在存在している (そして急速に拡大している) 主要なオーバーラップを明らかにしません。数十年に密接に関連する決定不能性の証拠の出版, 不可能, **uncomputability**, 不完全です。より奇妙なの一つは、量子化の相対状態の定式化で、アルマンド Assis による最近の証拠であるメカニク1は、ゼロを設定することができます Nash 平衡を利用した宇宙と観測者の間の和ゲームで、そこから生まれた法則と波動関数の崩壊を追う。ゲーデル最初に不可能な結果を示していた, と (デビッドウォルパートの顕著な論文まで参照してください。ここはそして、私のレビュー記事) それは最も速くに到達している (または単に trivial/コヒーレント) がありますが、が他の人の雪崩であった。決定理論の最も初期の一つは、1951でケネスアローによって発見された有名な一般不可能定理 (GIT) であった (彼は1972年に経済学でノーベル賞を得た)、彼の学生の5人は今、これはフリンジ科学ではありませんので、ノーベル受賞者です。これは、合理的に一貫した公平な投票システム (すなわち、個人の嗜好をグループの好みに集約する方法がない) が賢明な結果をもたらすことができないことを大まかに述べています。グループは1人に支配されているので、GIT はしばしば「独裁者の定理」と呼ばれています。「社会福祉の概念の難しさ」と題した「矢」の原作は、「を定式化することは不可能である。ソーシャルプレウを満たす注文以下のすべての条件: **Nondictatorship**; 個人の主権; 全会一致自由差出人無関係の選択肢; グループランクの一意性。現代の意思決定理論に精通している人は、これと多くの関連する拘束定理をその出発点として受け入れます。それを見つけることができない人 (そして、これらすべての **theorems**) 信じられないと、その場合には、彼らは何の関係もないキャリアパスを見つける必要があります。上記の分野の **y**。見る「この矢の不実現定理」 (2014) または「意思決定と不完全性」 (2013) 出版物の軍団の間で。

・ヤノフスキーの有名な不可能の結果に言及ブランデンブルク門そして学生 (2006) 2 人のゲームのために (しかし、もちろん、「ゲーム」に限定されず、これらのすべての不可能な結果と同様に、それは特定の種類の任意の信念モデルが矛盾につながることを示している任意の種類の決定に広く適用される)。結果の1つの解釈は、決定アナリストのツール (基本的にはロジックのみ) が **pla** に利用できる場合ゲームで若くプレイヤーが書き留めることができる、または「考える」ことができない文や信念実際に保持 (つまり、明確な **COS** はありません)。「アンは、ボブがボブの仮定が間違っていると信じていると信じていると思っています」と、少なくとも一世紀の間、議論、言語学、哲学などで、けっこうと「再帰」 (別の **LG**) が想定されていますが、それは不可能であることを示しました。アンとボブは

これらの信念を引き受けることにした。そして、1またはマルチプレイヤーの決定状況(例えば、それは矢にグレード、ウォルパート、 Coppell と ロッサーのような不可能の結果の急速に成長している体がありますなど)。良い技術論文のために B&K のパラドックスの雪崩の中から、Abramsky を取得し、Zvesper の嘘つきのパラドックスとコントロールの無限に戻って私たちを取る arXiv.org からの紙(そのタイトルノートとして、それは「対角化と自己参照のインタラクティブな形態」についてです)とフロイドに、Rodych, Berto、W およびゲーデル。これらの論文の多くは引用 Yanofsky の論文「自己参照パラドックスと固定点に対する普遍的なアプローチ。記号論理学研究紀要, 9: 362-2003 Abramsky (量子コンピューティングの先駆者である博学) は友人であり、ヤノフスキー「計算、論理、ゲーム、量子基盤」(2013) に関する最近の Festschrift に論文を寄稿。多分最高の最近の (2013) BK と関連パラドックスについての解説 165p を見る Powerpoint ウェス・ホリデイとエリックによるネットでの講義無料 Pacuit 「知識と信念についての 10 のパズルとパラドックス」。優れたマルチ著者の調査については、「集団的意思決定」を参照してください。(2010)。

のでゲーデルの有名な定理はかんするチャイティンのアルゴリズムの「ランダム性」(「不完全性」)を示す定理は、数学(私たちの象徴的なシステムのちょうど別のものです)を通して、思考(行動、言語、心)が不可能、ランダムまたは不完全な文や状況に満ちていると不可避に思える。我々は、これらの各領域を象徴的なシステムとして見るができるので、私たちの心理学を働かせる機会によって進化しました、おそらくそれは彼らが「完全」ではないと意外とみなすべきです。数学の場合は、チャイティン t という彼の「無作為性」(再びグループの LG の)は、真であるが証明不可能ではない無限の定理があることを示しています。その後、そのドメインで達成可能な実際の状況を記述しない完全に「文法」の意味を作る無限の文があると言うことができるはずです。私はこれらのパズルは、W のビューを考慮した場合、離れて行くことをお勧めします。彼はその問題について多くのメモを書いたゲーデルの定理、および彼の作品の全体は、可塑性、「不完全」と言語、数学とロジックの極端な文脈感度に関係しています。最近の論文 Rodych、フロイド、Berto 私が知っている最高の紹介です宛先数学の基礎と哲学についての W の発言。

前述のように、デビッド・ウォルパートは、チューリング機械理論とここで非常に該当計算の限界でいくつかの素晴らしい定理を導出しています。彼らはほとんど普遍的に無視されているが、ではない有名計量経済学者 Koppl として、ロッサー、彼らの有名な 2002 紙「私はすでにあなたの心を越えている」ということは、経済学の合理性、予測、制御の限界に関する 3 つの定理を与えます。最初は、将来を予測するためにいくつかの論理的な限界を示すために計算可能性の限界にウォルパートの定理を使用しています。ウォルパートの物理的なアナログとして見るができることに注意してくださいゲーデルの不完全定理と K と R は、その変種が社会科学のアナログとみなすことができると言います、しかし、ウォルパート

はまあ認識社会的影響のKとRs番目の定理は、無限次元空間におけるベイズ(確率的)予測のための可能な収束を示している。第三は、コンピュータが完全に予測プログラムを知っているエージェントと経済を予測することの不可能を示しています。抜け目は、これらの定理がうそつきのパラドックスのバージョンとして見ることができ、我々は自分自身を含むシステムを計算しようとするとう不可能に巻き込まれているという事実がウォルパートによって指摘されていることがわかります。Koppl, ロッサーとこれらのコンテキストで、再び我々は観察者が関与しているときに、物理学のパズルに戻って回ってきました。K&Rは「このように、経済秩序は部分的に計算上合理性以外のものの産物である」と結論付けている。有界合理性は現在、主要なフィールド自体では、何千もの論文や何百もの本の主題。

推論とは、知ること、理解すること、判断することなどの気質である、思考のもう一つの言葉である。ウィトゲンシュタインが最初に説明したように、これらの対価動詞は、命題(真または偽であることができる文)を記述し、したがって、サークルが満足の条件(COS)を呼び出すものを持っています。つまり、彼らの真実や虚偽を示すものとして認識している公共の状態があります。「理性を超えた」とは、真実の条件がない文を意味するクリアその理由は、明確な文脈を持っていないということです。私たちが明確なCOS(つまり意味)を持っていても、観測を行うことができないのは事実ですが、これは理由を超えたものではなく、達成する能力を超えたものではありませんが、COSを知らなければ哲学的(言語的)問題です。心と宇宙のコンピュータ? "それは科学的または数学的な調査を必要とするように聞こえるが、それはこの言語が使用される文脈を明確にするためののみ必要です、これらは、通常の消失用語であり、それは不可解である唯一の文脈であるため。

いつものように、最初に心に留めておくべきことは、哲学や説明には新たな発見はないが、行動(言語)については明確な記述しかないということであるWの格言である。すべての問題は、言語の仕組みについて混乱していることを理解したら、我々は平和であり、その意味での哲学は、その目的を達成しています。W/Sが指摘しているように、一つの現実しか存在しないので、心や生命、世界の複数のバージョンが有意義に与えられているわけではなく、私たちは1つの公共の言語でしかコミュニケーションを取ることができません。私的な言葉はありませんし、「プライベート・インナー」という考えは伝えられず、私たちの社会生活において何らかの役割を果たすことはできません。それはまた、この意味で哲学的な問題を解決するために非常に簡単でなければなりません。「今、それは我々が懸念している因果関係ではない場合、その後、心の活動は私たちの前に開いています。ウィトゲンシュタイン「ザ・ブルー・ブック」 p6 (1933)

我々は、1つの遺伝子とそれゆえ1つの言語(マインド)、一つの行動(人間の性質または進化心理学)を持っていて、WとSが岩盤または背景として参照し、これを反映して、合理性の論理構造を呼ぶ哲学を生み出すそして、私は高次の思考(HOT)

の記述心理学を呼び出すか、W、ホットを記述する言語の研究の手がかりを取って。人間の行動 (HOT) の哲学的側面についての誰かのコメントを読むことに対する唯一の興味は、W/S フレームワークへの翻訳が言語の使用を照らす明確な記述を与えるかどうかを見ることです。そうでなければ、彼らは混乱を一掃言語によって魅せられられているかを示す。私は Horwich が彼の素晴らしい「ワイトゲンシュタインの最後のページで指摘しているものを繰り返しますMetaphilosophy」(私のレビューを参照してください): 「どのような進歩は、この魅惑的な謎が削除されている-しかし、深さは、慰めで plumbed されていません。何も説明したり、発見したり、reconceived たりしていない。どのように飼いならすとパッとが考えるかもしれません。しかし、おそらく、ワイトゲンシュタインが示唆するように、明快さ、謎解きと真実の美德は十分に満足していることを見つけるべきである。

それにもかかわらず、W/S は多くの説明を行う (または W は、我々は「記述」と言うべきであることを示唆した) と S は、合理性の論理構造は、様々な理論を構成し、それに害がないことを示しています。私たちは、言語 (心) がどのように動作するかの一般的なアイデアを得ましょう,そして、彼の「理論」が例を通してエスノグラフィであるように、彼らはより W の明快記述のようになります。「他の名前前で薔薇を…」質問がある場合すること例に戻るか、新しいものを検討してください。W が指摘したように、言語 (生命) は限りなく複雑で文脈に敏感である (W は Contextualism の未確認の父親である) ので、多くの場合、数式を導出し、さらなる例の必要性を省くことができる物理学とは全く異なります。経済学 (科学的な言語と因果フレームワークの使用) は、熱い記述において私たちを迷わせます。

もう一度: 「哲学者は常に彼らの目の前に科学の方法を参照してくださいし、科学のやり方で質問に答えるとたまたま誘惑されます。この傾向は、形而上学の本当の源であり、完全な暗闇に哲学者を導きます。(BBB p18)。

多くの他のものとは異なり、S は主に回避し、しばしば経済学を解体しましたが、彼は S1 のプロセスを記述するために、公共の行動 (思考、信じることなど) を記述する対価 S2 用語を使用することを主張するとき、それ自体を evinces する残渣があります脳は、例えば、脳を研究することによって意識を理解することができ、彼は因果関係、意志または心を放棄する用意があります。W はそれを作ったそのような言葉は、ヒンジや基本的な言語のゲームであり、それらを与えるか、それらを変更しても、一貫した概念ではないことを豊富に明確に。私の他のレビューで述べたように、私は、経済学の残留物は、S の (そして、他のすべての哲学者の) 哲学的な人生の大惨事からの結果であると思います-彼は後の W を真剣に取るために失敗しました (W は、彼が勉強するためにイギリスに行った数年前彼は W より賢いと考えている共通の致命的な間違い)。

「ここでは、哲学的調査における顕著で特徴的な現象について考えます。

-私は--が解決策を見つけることのそれではないと言うかもしれないが、むしろそれとして認識のそれ危機に見える何かそれが唯一の予備だった場合、我々はすでにすべてを言っている。 --- これから続く何も、これ自体は解決策ではありません! ... 我々はそれを私たちの考慮事項に適切な場所を与える場合、難易度の解決策は、説明である一方で、これは、私は間違っただけで説明を期待して、接続されています。私たちはそれにこだわると、それを超えて取得しようとしなさい。 Zettel p312-314

「私たちの方法は純粋に記述的であり、我々が与える記述は説明のヒントではありません。 BBB p125

それは、W の第3の期間の仕事と現代の心理学から、「意志」、「自己」と「意識」は、知覚、記憶と反射で構成された爬虫類皮質下システム One (S1) の公理的な真のみの要素であり、存在しない彼らのうそを示す(意味を与える)ことの可能性(明瞭さ)W はとてもはっきりとしていたので、判断の根拠となるので判断できません。私たちの心理学の真の公理は証拠ではありません。

哲学者は、彼らが行動の他の学生(すなわち、科学)がないことを貢献することを期待していることを正確に何であるかについてはめったに明確ではありません、そう、科学的な羨望に W の上記の発言を指摘し、私は P m. S のハッカーから引用しますその上に良いスタートと経済学に counterblast.

「伝統的な epistemologists は、知識が真の信念であり、さらなる条件であるかを知りたい、または知識が信念を暗示していないかどうか...これらの質問に答えなければならぬことは、私たちの認識の概念のウェブ、様々な概念と一緒にハングアップする方法、彼らの互換性と非互換性の様々な形態、彼らのポイントと目的、それらを明確にする必要があります前提と異なる形式のコンテキスト依存関係。結合分析、科学的知識、心理学、神経科学、自己スタイルの認知科学は何も貢献することはできません。((自然主義的ターンの通過: クワインのCul・サック-p15(2005))

義務の構造または「社会的な接着剤」は S2 の遅い処分を作り出す S1 の自動速い行為である、これは、サールによってよく記述された自動普遍的な文化的義務関係の広い配列に個人の開発中に拡張さ容赦なくです。私はこれを期待かなりよく社会行動の基本的な構造を抽象化する。

いくつかのコメントは繰り返します。だから、S1 は上の因果関係(世界を気にする)とコンテンツ(表現や情報が欠けている)であり、S2 はコンテンツ(すなわち表象)を持ち、下向きの因果関係(例えば、ハッの私のレビューを参照してください。ミャーの'ラジカルEnactivism'), 私は S の MSW p39 から段落を翻訳します "合計で" と終わるPg40 「満足条件」とは以下の通りである。

合計で、知覚、記憶、および再帰の前の意図と行動（「ウィル」）は、S2によって修正されたように私たちのS1 真のみの公理的 EP の自動機能によって引き起こされます（「自由意志」）。私たちは、自分がどのように考えているかということをごどのように望んでいるかに一致します。私たちは、信念、欲望と想像力-欲望の時間がシフトし、意図から切り離されていることを確認する必要があります、その他のS2 命題の性質は、後で2番目の自己を進化した私たちの遅い思考の処分は、完全に依存している (CO) の因果関係自己再帰 (CSR) ラピッド自動原始的な真のみの再帰 S1。言語および神経生理学では、S1 との COS の因果関係が時間シフトされている、意図 (前の意図) または覚えているような中間または混合のケースがあります、彼らは過去または未来を表すように、常にある S1 とは異なり、存在。S1 と S2 は互いにフィードし、多くの場合、私たちの通常の経験は、我々は意識的に我々が行うすべてを制御することであるように、学習義務文化関係によってシームレスに調整されます。私たちの生命サークルを支配する認知錯覚のこの広大なアーチは、「現象学的錯覚」(TPI)として記載されています。

「志向性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、彼らがすぐに現象学的な現実を持っていないので、現象論の範囲を超えています...無意味さから有意味性の創造は意識的に経験していないので...それは存在しません...これは。。。現象論的錯覚。サークル PNC p115-117

ディスポジションワード (プリファレンス--上記の表を参照) には、少なくとも2つの基本的な用途があります。1つ私たちの直接の知覚、反射 (基本的なスピーチを含む) と記憶、すなわち、自己再帰 (因果関係の BBB で再帰または自我と呼ばれる) である私たちの生来の公理的 S1 心理学を記述する真のみの文章を指し、S2 は行動することができ、真または偽になることができます処分の言葉 (思考、理解、知っているなど)、すなわち、彼らは満足度 (COS) の条件を持っており、CSR ではありません (BBB で推移と呼ばれます)。

「精神的なプロセスや状態、行動主義についての哲学的問題はどのように発生するのか? -最初のステップは、完全に通知をエスケープするものです。私たちは、プロセスと状態について話し、その性質を未決定のまま、いつか我々は彼らについてもっと知るだろうしかし、それはまさに私たちを特定の方法その問題を見ている。私たちは、より良いプロセスを知ること学ぶために何を意味するかの明確な概念を持っています。(手品トリックの決定的な動きが行われ、それは我々が非常に無実と思った非常に1でした)。—そして今、私たちの考えを理解させるためにあった類推は、作品に落ちる。だから、私たちする必要がありますまだ *uncomprehended* まだ未踏の媒体で処理します。そして今、私たちは精神的なプロセスを否定していたように見えます。そして当然、私たちはそれらを否定したくありません。 W PI p308

"...心と世界との基本的な意図的關係は、満足の状態を伴っている。そして、命題は、世界との意図的な關係に立つことができるすべてのものであり、それらの意図的な關係は常に満足の状態を決定し、命題は何かとして定義されているからである十分満足の状態を決定するために、すべての志向性が命題の問題であることが判明しました。サール PNCp193

「意図的な状態は満足の状態を表しています...人々は誤ってすべての精神的な表現が意識的に考えなければならないと仮定します...しかし、私がそれを使用しているような表現の概念は、機能的であり、存在論的概念ではありません。志向性の特徴である方法で成功または失敗することができる満足の状態を持つものは何でも、定義により満足の状態の表現...社会現象の志向性の構造を、その満足度を分析することで分析することができます。サール MSW p28-32

カルーサーズ『のように、Coliva、S およびその他のある状態 (例えば、p66 MSW) が S1 (すなわち、記憶、知覚、反射作用) を有することは、命題 (すなわち、真-偽) 構造を有する。私が上記で述べたように、私のレビューで何度も、それは W があることを明確に見える正しいことは、動作を理解するための基本であり、S2 のみが命題であり、S1 は公理的であり、真のみであるということです。しかし、ここで、S と様々な作者がバックグラウンド (S1) を呼び出すと S2 を生じさせ、部分的に S2 によって制御されているので、S1 が命題になることができるという意味があり、彼らとサールは無意識または意識が自動化された活動であることに注意してください S1 は、S2 の意識または審議のものになることができなければなりません。S1 の遺伝的、公理的志向性が S2 のそれを生成するので、それらは両方とも COS とフィットの方向を持っていますが、S1 が同じ意味で命題された場合、それは懐疑主義が理解できることを意味し、W が戻る前に哲学であったカオスは、実際には本当なら、人生はできないだろう。それは、例えば、真実と虚偽と世界の事実が意識なしに決定されることを意味します。W が頻繁に述べたように、彼の最後の本では、「確実に」、人生は確実性に基づいている必要があります-自動化された無意識の急速な反応。常に疑いを持っていて、それを反映するために一時停止する有機体は、進化、人、哲学なしで死ぬ。

再び、私はいくつかの重要な概念を繰り返します。S によって明らかにされるもう一つの考えは、欲求独立した行動理由 (スラカルタ) です。私は、p127 の実務上の理由の要約を次のように翻訳します: 「我々は、通常、欲望に依存しない行動の理由 (スラカルタ、すなわち、空間と時間の中で変位した欲望) を含む我々の欲望 (脳の化学を変える必要がある) に屈します。私たちの包括的なフィットネス (自分自身と密接に関連する遺伝子の生存率の増加) に役立つ筋肉の動きの遅かれ早かれ結果として一般的に生じる行動への処分。そして、私は DIRA2 を実行する方法の p129 についての彼の記述を言い換えるだろう "パラドックスの解決は、長期的な包括性のフィットネスを提供する無意識の DIRA1 は、多くの場合、短期的個人の即時の欲望をオーバーライド意識 DIRA2 を生成することです。エージェントは、

実際に意識的に DIRA2 の直接の理由を作成しますが、これらは無意識の DIRA1 (究極の原因) の非常に制限された拡張です。オバマと教皇は「正しい」という理由で貧しい人々を助けたいと願っている、しかし、究極の原因は、彼らの遠い祖先の包括的な適合性を増加させる彼らの脳の化学の変化です。包括的なフィットネスによる進化は、多くの場合、S1によって身体および/またはスピーチの筋肉の活性化につながるアクションの理由を生成する S2 の意識的に遅い思考を生み出す S1 の無意識の迅速な再帰的因果行動をプログラムしていますアクションを引き起こします。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域のニューロモジュレータの変化によって、全体的な認知錯覚 (S「現象学的錯覚」によって呼び出され、「空白のスレート」をピンカーすることによって、トゥービー『そして、・コズミデス「標準社会科学モデル」) は、S2 が我々が完全に認識し、制御している理由のために意識的に行動を生成したが、現代の生物学や心理学に精通している人は、このビューが信頼できないことを見ることができるということです。

文は明確な COS、すなわち、公の真理の条件を持っているとき、思考(意味を持つ)を表現します。それゆえ、W からのコメント:「私は言葉で考えると、言葉の表現に加えて、私の心を通して行く「意味」はありません: 言語自体が思考の乗り物です。そして、私は言葉の有無にかかわらず考える場合、思考は私が (正直に) 他の可能な基準 (COS) が無いと言うことです。したがって、W のラブリー格言 (p132 バッド-ウィトゲンシュタインの心理哲学) 「それは言語である希望そして、成就是、すべての形而上学のように、思考と現実の調和は、言語の文法に見られることです。そして、ここでは、W の「文法」は通常、進化心理学 (EP) として翻訳され、理論化と一般化に対する彼の頻繁な警告にもかかわらず、これはより高次記述心理学 (哲学) は、サールの「理論」を超えて (しばしば彼の有名な反理論的スタンスのために W を批判する)、見つけることができるように。

「すべての標識は解釈しかし、その意味は解釈できない。それは最後の解釈です
"W BBB p34

「サールの哲学と中国哲学」(SPCP)(2008) は、素晴らしいとユニークな本ですが、私の2015のレビューを完全に無視当時だった唯一の 1!哲学の問題は常に私たちの普遍的な自然の心理学を記述するために使用される言語の間違いについてであり、中国、フランス語、キリスト教、フェミニストなどのビューがあることができる有用な意味がないことは明白であるべきです。そのような見解は広義には哲学の存在であるが、それは心の哲学ではなく (または、どのような興味深い、実体的哲学であろうと、私にとっても、私にとっても)。それはこれを議論するために、全体の本を取ることができ、S は優れた仕事をしているので、私はちょうどここにコメントしますgardingp35SPCP では、命題は S2 であり、精神状態ではない、これは、ワットが%以上前に非常に明確に作られたとして S1 です、そして、クワインとダビッドソンの両方が関係する基本的な問題 (サールとハッカーの両方がクワイン

の優れた取り壊しを行っている)についても同様に混乱していました。多くの場合、Sの議論は、その論理的な結論にWの「背景」の彼の理解を運ぶために彼の失敗によって損なわれているので、彼は(彼が頻繁に)彼は自由意志の概念を放棄する必要があるかもしれないことを示唆している-私が見つかる概念(Wで)干渉しません。何は私たちの腕を持ち上げるための選択肢を持っていない私たちの虚偽対真実を示すことができるCOS (truthmaking イベント、テストや証明)?

同様に (p62) 誰も背景のための引数を与えることはできません (すなわち、私たちの公理的EP) 私たちはすべての前提とで話すことができるように (Wが頻繁に指摘したように)。「一元論」、「リアリティ」などと共に「削減」することも事実です。複雑な言語のゲームであり、彼らは小さなバックパックに沿って意味を運ぶことはありません!1つは、明確に取得し、別の使用状況(コンテキスト)が異なる方法を参照してくださいに詳細に1つの使用法を解剖する必要があります。

哲学者(そして哲学のようなもの)は、明確な意味を持たない質問に答えようとすることによって、架空の問題を生み出します。この状況は、「全体論と動物の心」のフィンケルシュタインによってうまく分析されます。そしてアルだから見事は、上で引用した「意識の難しい問題」で読んで要約しました。

ウィトゲンシュタインの「文化と価値」(1980に掲載されていますが、数十年前に書かれています)、おそらく彼の少なくとも興味深い本を'はこの議論に関連し、そしてもちろん、現代の知的生活の大部分に。

'は、形而上学的表現の誤用があった宗教的な宗派はありません。そんなに罪の責任それは数学。'

「人々は、哲学が本当に進歩していないことを何度も繰り返し、我々はまだギリシア人と同じ哲学的問題に'ている。しかし、このドン'tを言う人々はなぜかを理解しているすることそう私たちの言語は同じままであり、同じ質問をすることに私たちを誘惑し続けているためです。'と'が'を飲むのと同じように機能しているかのように見える動詞がある限り、'は同じ'の形容詞を持っている限り、'真'、'偽'、'可能'、我々は時間の川の話が続ける限り、宇宙の広がりなど、人々は同じ不可解な困難につまずいて、説明ができないように見えるものを見つめています。そして、これは、人々が「人間の理解'の限界」を見ることができると考えている限り、彼らは'を超えて見ることができると信じているので、これは超越者への憧れを満たす。これらの。」

同様に、サールの最近の2つの作品からエッセンスを蒸留してみましょう。

「理性の声明の中で報告された事実の本質だけで合理的な代理人に拘束され、エージェントの欲望、価値、態度、評価とは無関係に行動する理由があるか。...伝

統的な議論の本当のパラドックスは、それがヒュームのギロチンを提起しようとしているということです, 堅い事実 - 価値の区別、語彙では、すでに区別の虚偽を前提との使用。サール PNC p165-171

"...言語を除いて、すべてのステータス関数とそれ故にすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持っているスピーチ行為によって作成されます...問題のステータス関数の形式は、ほぼ常に義務力の問題です...権利、義務、義務、要件などとして何かを認識することは、行動の理由を認識することです...これらの義務構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由...一般的な点は非常に明確である: 欲望に基づいた行動の理由の一般的な分野の作成は、行動の欲求独立した理由のシステムの受け入れを前提します。サール PNC p34-49

つまり、私たちの言語システム2の機能は、私たちの前言語システムの前提と1です。また私たちがスラカルタを受け入れるか拒否することはできません。1, むしろ S1 の一部として、彼らは先天的であり、S1 のいずれかを拒否することは、コヒーレントです。

「志向性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、彼らがすぐに現象学的な現実を持っていないので、現象論の範囲を超えています...無意味さから有意味性の創造は意識的に経験していないので...それは存在しません...これは。。。現象論的錯覚。サール PNC p115-117

つまり、私たちの精神機能は通常、system 1 に気付かないようにシステム2に夢中になっています。

"...心と世界との基本的な意図的關係は、満足の条件を伴っている。そして、命題は、世界との意図的な関係に立つことができるすべてのものであり、それらの意図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は何かとして定義されているからである十分満足の条件を決定するために、すべての志向性が命題の問題であることが判明しました。サール PNCp193

「だから,ステータス機能は、社会をつなぎ合わせる接着剤です。彼らは集団的志向性によって作成され、彼らは義務の力を運ぶことによって機能します...言語自体の重要な例外として、すべての人間の文明は、宣言の論理的な形式を持っているスピーチ行為によって作成された意味で、すべての制度の現実とそのため。人間の制度的な現実のすべてが作成され、存在下で維持 (と同じ論理形式を持つ表現) ステータス関数の宣言, 宣言の明示的な形式ではない場合を含む."

サール MSW-13

「信念は、文のように、下向きまたは心 (または言葉) を持っています-宛先 - フィットの世界方向。そして、欲望や意図は、注文や約束のように、上向きまたは世

界に心 (または単語) の方向にフィットします。信念や認識は、文のように、物事が世界にどのようにあるかを表すことになっている、その意味で、彼らは世界に合うことになっている。彼らは、心から世界へのフィットの方向を持っています。意欲-意志のような欲望、事前の意図と行動の意図として、注文や約束のような、世界に心の方向のフィット感を持っています。彼らは、物事がどのようにしているのかを表現することになっていません。これらの2つの学部に加えて、3番目、想像力、命題コンテンツは、認知と意志の命題内容が収まるようになっていないように現実にフィットすることになっていないもので...世界に関連するコミットメントは放棄され、我々はそれがフィットのいずれかの方向で表すことを約束することなく、命題のコンテンツを持っています。サール MSW p15

「意図的な状態は満足の条件を表しています...人々は誤ってすべての精神的な表現が意識的に考えなければならないと仮定します...しかし、私がそれを使用しているような表現の概念は、機能的であり、存在論的概念ではありません。志向性の特徴である方法で成功または失敗することができる満足の条件を持つものは何でも、定義により満足の条件の表現...社会現象の志向性の構造を、その満足度を分析することで分析することができます。サール MSW p28-32

「しかし、宣言のための不成立アナログはありません。不成立意図的な状態は、すでに存在する事実を表すことによって、世界に事実を作り出すことができます。この驚くべき偉業は、言語を必要とする "MSW p69

"...あなたが言語を持っていると、コミットメントを作成せずに言語の規則に従って明示的なスピーチ行為を行うことができる方法がないので、あなたが持つ持っていることは避けられません。これは、声明のためだけでなく、すべてのスピーチの行為のために真実である "MSW p82

何年も前に S によって導入された批判的な概念は、私たちの思考 (S2 の命題) に対する満足の条件であり、W は傾斜と呼ばれるか、または行動する性質が、不適切な用語「命題」によってまだ呼ばれています。態度多くの。COS は、PNC の p169 上のような多くの場所で S によって説明されています: 「したがって、何かを言って、それは満足の2つの条件を含む意味します。第1に、発話が生成されるという満足の状態、および第2に、発話自体が満足の条件を有するものとする。PNC で述べているように、「命題は満足の状態を決定することができるすべてのものである。そして満足の条件...そのようなものがそうであるということです。または、それを追加する必要があるかもしれませんが、彼は MSW で明らかにするように、ケースとして想像するかもしれませんが。意図に関しては、「満足するためには、意図自体が行動の生産において因果関係に機能しなければならない」。(MSWp34)。

「話し手の意味...満足の条件に対する満足の条件の賦課である。これを行うため

の能力は、人間の認知能力の重要な要素であります。それは、言語の使用のために不可欠である方法で、一度に2つのレベルで考える能力を必要とします。1つのレベルでは、スピーカーは意図的に物理的な発話を生成しますが、別のレベルでは発話が何かを表します。そして、同じ双対性がシンボル自体に感染する。1つのレベルで、これは、他のような物理的なオブジェクトです。別のレベルで、それは意味を持っています:それは事務の状態のタイプを表しています "MSW p74

これに関する一つの方法は、無意識の自動システム1は、システム2のより高い皮質意識の人格を活性化し、それが潜在的にそれをコミットする特定の方法で世界を見ていることを他の人に知らせる喉の筋肉の収縮をもたらすことですアクション。不成立または原始の上の巨大な前進-総筋肉運動が意図に関する非常に限られた情報を伝達することができた言語相互作用。

彼らは S1 と S2 を記述する真または偽の命題を説明する真のみの文章の違いを明確にするようにほとんどの人は、W の「確実性」または「RPP1 と2」または OC 上の DMS の2冊の本を読むことから大きく恩恵を受けるでしょう。これは、S2 でそれらについて考え始めた後、彼らは T または F になることができるので (少なくとも彼の仕事のいくつかの場所で) 命題として S1 の知覚を取ってサールのはるかに優れたアプローチとして私を打つ。

サールは、多くの場合、1つのイベントの説明のさまざまなレベルを注意する重要な必要性を説明します (IA) 「我々は、1つのレベルは、下位レベルでの動作によって構成されている説明の異なるレベルを持っている。関係の方法による構成に加えて、我々はまた、関係の手段によって因果を持っています。 (p37 MSW)。

「我々が前の意図と行動の意図との区別を必要とする決定的な証拠は、2つのケースにおける満足の条件が著しく異なっているということです。 (p35 MSW)。PI の COS は、すべてのアクションを必要とし、IA は部分的なものだけです。彼は、事前の意図 (例えば、p34) が精神状態 (すなわち、無意識の S1) であり、彼らが意識的な行為 (すなわち、S2) である行動意図 (IA) をもたらす一方で、両方が因果関係自己再帰的 (CSR) であることを明らかにします。どちらも CSR であるという重要な議論は、(信念や欲望とは異なり) 彼らが彼らの COS をもたらすことを示すことが不可欠であるということです。認知と意志のこれらの記述は、表2.1 に要約されています (p38 MSW), サールは、長年にわたって使用しており、私はここで、私の多くの記事で紹介する多くの拡張のための基礎であります。マイビューで、それは非常に私の S1、S2 用語と W の真のみ vs 命題 (対価) の説明を使用して、現代の心理学研究にこれを関連付けるのに役立ちます。したがって、S1 は真のみの知覚、記憶、意図を参照し、S2 は信念や欲望などの性質を指します。

それは、W の第3の期間の仕事と現代の心理学の観察から、非常に簡単で容赦ないなファッションに続き、「意志」、「自己」と「意識」は、ちょうど見て、聴

覚などのように、システム1の真の要素を公理的に示すとして、彼らの偽りを(意味を与えることの)示すことの可能性(明瞭さ)はありません。Wは何度も素晴らしくははっきりとしたので、判断の根拠となるので判断できません。私たちの心理学の真の公理は証拠ではありません。

ここで関連する「機能」の概念を理解することが重要です。「関数は目的を果たす原因です...この意味では、関数は志向性相対であり、したがって心に依存しています...ステータス機能...必要。。状態の一括賦課と認識」(p59 MSW)。

私提案、「志向性」の翻訳言語は「言語的、意識的なものとして」(p66 MSW)として、本質的な、または心に依存しない人間の志向性によって作成された **dispositionalityS2** の公理的は、**S1** の無意識の再帰的機能によって生成される。つまり、行動が生物学によってプログラムされていることを念頭に置いておく必要があります。

もう一度、サールは、**S1** (すなわち、記憶、知覚、反射作用) が命題 (すなわち、真-偽) 構造を有することを、**p66-67 MSW** のような状態にする。私が上記で述べたように、他のレビューで何度も、それは **W** が正しいことを明確に思える、とそれは **S2** のみが命題であり、**S1** は公理的と真のみであること、動作を理解するための基本的なものです。**S1** の遺伝的、公理的志向性は **S2** のそれを生成するので、彼らは両方の **COS** とフィットの方向を持っていますが、**S1** が同じ意味で命題された場合、それは懐疑的であることを意味するだろう、混乱は **W** が戻る前の哲学、そして実際には本当なら、人生は不可能であろう。**W** が無数の時間を示し、生物学がそうはっきりと示すように、生命は確実性に基づいている必要があります-自動化された無意識の急速な反作用。常に疑いを持っていて、それを反映するために一時停止する有機体は、進化も、人も、哲学も死なない。

言語と書き込みは、ボーカーの筋肉の振動の短波長は、他の筋肉の収縮よりもはるかに高い帯域幅の情報伝達を可能にするため、特別なものであり、この **is** の平均複数の注文視覚情報の場合はマグニチュードが高くなります。

S1 と **S2** は、人間の **EP** の重要な部分であり、結果は、それぞれの包括的なフィットネスによる自然淘汰の数十億と数百万年の彼らは、**EEA** (進化的適応の環境) における生存と生殖を促進しました。私たちについてのすべてが物理的および精神的にボトムアップ遺伝学で **S** の **MSW** (例えば、**p114**) についての漠然とした話は、「余分な言語的規則」と「余分の意味の意味論」について、実際には **EP** と特に **S1** の無意識の作り出すに言及しています。すべての行動の基礎である **W** が何度も言ったように、最も身近なのはその理由が見えないことです。

ここで再び、私の要約 (**MSW** の次の **S**) は、実用的な理由がどのように動作するか

を示しています: 我々は通常、欲望に依存しない行動の理由 (脳の化学を変更する必要があります) をもたらします (スラカルタ-すなわち、多くの場合、空間と時間に変位欲望相互利他主義-RA) は、一般的に私たちの包括的なフィットネスに役立つ筋肉の動きで、遅かれ早かれ結果をもたらす行動への処分を生成します-IF (自分自身と密接に関連する遺伝子の生存率の増加)。

私は、適切に定義されている場合、スラカルタは、我々は S1 (すなわち、DIRA1) の自動化された不成立反射を含む場合、我々は (すなわち、キツネから彼女のひなを守る母編を考える) より高い動物で普遍的ではないと思いますが、確かにより高い順序スラカルタ S2 (DIRA2) 言語を必要とするのは、ユニークな人間です。我々が自発的に DIRA2 を実行する方法のパラドックス (すなわち、S2 の行為と、独立した欲望である彼らの文化的な拡張) は、長期の包括適性を提供する無意識の DIRA1 が、しばしば短期的に上書きする意識的な DIRA2 を生成するという個人的な即時の欲望。エージェントは、実際に意識的に DIRA2 の直接の理由を作成しますが、これらは無意識または単に自動化された DIRA1 (究極の原因) の非常に制限的な拡張です。

次の W は、選択が私たちの公理的 S1 真のみの再帰的な行動の一部であり、S1 が基礎であるとして矛盾せずに尋問することができないことは非常に明白です尋問のためにあなたがこのページを読んでいることを疑うことはできません。

必然的に、内省の無駄の W の有名なデモンストレーションと本当にプライベートな言語の不可能が繰り返しポップアップします ("...イントロスペクションが定義につながることはありません...p8)。この引数の基本は非常に簡単で、テストも言語もテストも公開できません。もし私が本を持っていない無人島で一人で育ち、いつか木「ココナツ」と次の日、私は1つを参照してくださいと言う 'ココナツ' それは私が言語で開始したように思える。しかし、私が (私を修正するための人や辞書がないので) 私が言うことは、「コカ」または「アップル」と次の日に何か他のものであると仮定しますか?記憶は悪名高い当てそして、私たちは他の人から一定の補正をして、メディアからの絶え間ない入力で物事をまっすぐに保つ大きな問題を抱えています。これは些細な点のように思えるかもしれない、しかし、それは内部と外部の全体の問題の中心である-私たちの経験の私たちの真の唯一の検査不能ステートメント vs 私たち自身の行動を含む、世界のすべてに関する真または偽のテスト可能なステートメント。W は一世紀前に始まった多くの例でこれを説明しましたが、それはめったに理解されておらず、行動のいかなる議論にも $\frac{1}{4}$ ない限り、非常に遠くへ行くことは不可能です。W、S、ハッ、バッド、ハッカー、DMS、ジョンストンと他の人が説明したように、W は、クワイン、デネット、機能主義との親和性を持っていると思う人は誰でも、または私たちの内面の生命を否定する他の behaviorist 排泄物、最初に戻って行く必要があります。

バッド 'ウィトゲンシュタインの心理学哲学'(1991) 私は詳細にそれを議論するの

で、洞察を得るためのより良い作品の一つです (詳細については私のレビューを参照してください).

p21 で彼は、彼らが精神状態 (すなわち、S1 作り出すに) を参照しているように見える (すなわち、思考、知っている、信じているような S2 能力) の性質を議論し始め、W が最初にまっすぐに設定したもう一つの大きな混乱。したがって、p28 の「読書」は、精神状態ではなく、思考、理解、信じるなどの一定の持続時間を持たない別の対価能力として理解されなければならない。

いくつかの通知 (バッド p29-32、スターン、ジョンストンと MoyalSharrock は例外である) W 先 (混沌と複雑な科学の前の数十年) は、いくつかの精神現象は、脳内のカオス的なプロセスで発生する可能性があることを示唆している-例えば、メモリートレースに対応するものではありません。彼はまた、因果鎖が終わりを持っていることを数回示唆しました、これは、(科学の状態に関係なく) それ以上それをトレースすることは不可能であるということの両方を意味するかもしれません「原因」の概念が特定のポイント (p34) を超えて適用されなくなることを意味します。その後、多くは、W が何十年にもわたってそれらを期待していたという考えなしで同様の提案をしてきました (実際には数世紀以上になりました)。p32 では、混乱の中で起こるかもしれない問題 (または潜在的な行動のサールの条件) の可能な状態である「雨が降っているかもしれない」などの処分に、「事実上の条件」を再び参照してください。これをサールの志向性の3つのギャップに結びつけると、彼が批判的に必要としていることがわかるかもしれません。

バッドノート W の p33 に関する有名なコメント-「間違いは何かが含まれていることを意味するものがあると言うことです。W は、意味を構成する精神状態が存在しないことは正しいが、S ノート (上記のように) 意味の行為を特徴付けるための一般的な方法があることを、「話し手の意味...は、精神状態ではなく行為である「満足の状態」に対する満足の条件の賦課である。p35 のバッドノートとして、このとして見ることができるプライベート言語に対する彼の議論のもう一つの声明 (個人的な解釈対公的にテスト可能なもの)。同様、p36-41 でのルールフォローと解釈によって、彼らは公にチェック可能行為をすることができます--プライベートなルールや個人的な解釈ありません。そして、1つは多くのことに注意する必要があります (最も有名なクリプキ) ここでボートを欠場、それは、言語や社会の慣習の根底にある任意の公共の慣行だと考えて、コミュニティの練習に W の頻繁な紹介に惑わされています。W は、そのような慣習が、彼がしばしば背景を呼ぶ生来の共有心理学を与えられた場合にのみ可能であることを何度も明らかにする。バッドは正しくこの誤解を何度か (例えば、p58) 拒否します。

バッドの次の章では、彼は私の言葉で (と現代の心理学で) S1 であり、W の用語で真のみの undoubtable と検査不能の背景である感覚を扱っています。彼のコメント (p47) ..."私たちの現在の感覚についての私たちの信念は、絶対的に安全な基盤の上

に残ります-「与えられたの神話」はウィトゲンシュタインの攻撃の主要なオブジェクトの一つです...簡単に誤解することができます。第一に、彼はこれらの「信念」を呼び出すことの普遍的な過ちを犯すが、S2の真または偽の処分のために、この単語を予約することをお勧めします。Wは非常に明確にしたように、感覚、記憶およびS1の再帰的行為は公理的であり、通常の意味での信念の対象ではありませんが、より良い理解と呼ばれています(私U1)。私たちのS2の信念とは異なり(他の人についてのものを含む's S1の経験), 疑いのためのメカニズムはありません。バッドはこの井戸を説明します、p52のように、彼は1つが苦痛にあると言うための可能な正当化がないことに注意します。すなわち、正当化手段は、S2対価が遅い意識的思考を持つことが可能であることをテストし、S1再帰の速い無意識の処理ではない。p52-56での彼の議論は優れていますが、私の見解では、議論するすべての人のようにWにルール、私的な言語と内部、彼がする必要のあるすべては、と言うことですS1では、可能なテストはありません、これはWの有名な意味である'内側のプロセス'外向きの基準を必要としているスタンド'。つまり、イントロスペクションは無意味です。

バッドの脚注21は、S1の真の唯一の因果経験とS2の合理的な性質を混同します。

「内部オブジェクト」(苦痛、信念、思考など)の名前の次のいくつかのページのポイントは、彼らが彼らの使用(意味)を持っていることと、それが行動する処分の指定であること、またはサールの用語で、満足の状態の仕様、発話をtrueにします。

繰り返しますが、バッドの「感覚と因果関係」についての議論は、私たちの感覚で「自己帰」または「信じている」、または「スタンスを取る」(デネット)が痛みを持っているか、または馬を見ているということで間違っています。S2でのミスとは全く違う種類の奇妙な出来事。S1はS2とは対照的な原因であり、その理由は、馬を見たり、痛みを感じたり、スピード違反の車の邪魔をしたりすることは、判断や間違いの対象ではありません。しかし、彼は私を取得tすぐに - 「だから、痛みの非推論自己 ascriptions の不可謬説は、痛みの真の自己栄光は、彼が経験する痛み(p67)と同じである被験者の身体の物理的なイベントによって引き起こされなければならないという論文と互換性があります。私は彼の後の仕事で(特にOC)彼はS1の因果的な自動化された性質を説明するページの数百を費やしているので、Wは、彼の全体のコーパスの1つまたは2つのコメントに基づいてこれを受け入れることはありません彼の次の声明を受け入れない筋肉の動き(スピーチを含む)を引き起こすためにS1にフィードバックします。動物は、彼らの人生は非常に予測可能であるそれらの周りの現象によって完全に導かれているので、唯一生き残る(犬はジャンプすることができますが、飛ぶことはありません)

次の章では、S1とS2がどのように相互作用し、どのように私たちの言語があいまいであるかについてのWの広範なコメントについて説明します'見る'という意味

で、原則として、それ'のように見る'またはアスペクト見ているだけで見ながら、ゆっくりとした S2 脳のアクションの一部であることは明らかである真のみ S1 作り出す、しかし、彼らは非常によく統合されていることが多くの場合、p97 に W のコメントを説明する複数の方法で状況を記述することが可能。彼は、W は私が他の場所で「Seeing2」または「Concepts2」、アスペクトまたは S2 の画像の高次の処理と呼ばれるものに排他的に興味を持っていることに注意してください。

ここでは、この本と実際に W または行動の任意の議論の中で、それはジョンストンの'ウィトゲンシュタインを参照することが大きな価値である: インナーを再考する (1993)そして特に、言語の不確定な性質についての彼の議論に。

バッドの第5章では、W の後の仕事の主要な没頭 (S1 と S2 の関係) に再び対処します。私は私の他のレビューで指摘しているように、いくつかは完全に後の W を理解し、S1、S2 フレームワークを欠いていることは驚くべきことではありません。したがって、バッドの議論 (自動 S1) 対可視化 (意志の対象となる意識 S2) はひどく妨げられています。したがって、S1 (p110) によって S2 の支配としてそれを見ながら、1つは、オブジェクトを想像することができない理由を理解することができます。そして、p115 では、それは私の内面の経験のためのテストがないことのおなじみの問題であるので、私はジャックの顔はジャックのイメージとして数える想像するとき、私が言うことは何でも来る。同じように、S1、S2 または組み合わせを参照することができ、読み取りと計算では、任意のテストの欠如は、それらが適用できないになり、S1 プロセスに S2 用語を適用するために一定の誘惑があります。「ベネットとハッカーの」を参照してください。Neurophilosophy'、DMS などの議論のために。p120 らは、この誘惑をと戦うするために使われる W の有名な例の2つについて言及していますーボールなしでテニスをする (テニスをする)、そして、S2 の計算だけを持っていた部族は、t で計算します。彼は頭を1計算した無理です。「演奏」と「計算」は、実際または潜在的な行為を説明します-i. e.、彼らは廃棄の言葉ですが、私は1が本当に「playing1」と「playing2」などを書くことによってそれらを維持する必要があります前に言ったように、最も妥当な再帰 S1 を使用します。しかし、我々はこれを行うように教えられていないので、我々はいずれかのファンタジーとして'calculating1'を却下したい、または我々は後にその性質未定を残すことができると思います。それゆえ W の有名なコメント (p120)—"手品トリックの決定的な動きが行われ、それは非常に無実だと思った非常に1つでした。

第6章では、私たちが話すとき、スピーチ自体が私たちの考えであり、他の前の精神的なプロセスがなく、これがプライベート言語の議論の別のバージョンとして見るができるという、別の頻繁な話題について説明します。私たちが行動する前に考えたことを伝えることができます (話す)。

「意図」という動詞を使用する他の考えられる方法についての W のコメント

(p125) のポイントは、それらが同じではないということです私たち「intend' (PE) の名前は、実際にはそれが何を意味するのか明確ではありません。「私は食べるつもりです」食べるの COS を持っていますが、それは (COS が) 食べることを意味する場合、それは意図が、アクションを説明しないと、それが言葉を言っている場合 (COS はスピーチ) それ以上の COS を持っていないとどのようにそれはどのように機能することができるか

文が思考を表現するとき (意味がある) についての p127 の質問に対して、我々は「それが明確な COS を持っているとき」と言うことができ、この手段は公の真理の条件を持っています。それ故に引用はあちこち m W: 「言葉で考えると、言葉だけではなく、言葉そのものが思考の乗り物であるという意味もありません。そして、私は言葉の有無にかかわらず考える場合、思考は私が (正直に) 他の可能な基準 (COS) がないと言うことです。したがって、W の素敵な格言 (p132) "それは言語である希望そして、成就是、すべての形而上学のように、思考と現実の調和は、言語の文法に見られることです。

そして、ここでは、W の「文法」は通常「EP」として翻訳することができるということに注意するかもしれません。それにもかかわらず理論化と一般化に対する彼の頻繁な警告、これは、1つが見つめることができるように、哲学と高次記述心理学の特徴付けと同じくらい広いです。再び、この鎮めるサークルは、W に対する反理論的な批判として、汎化の性質に依存しています。

これは、現実との思考の調和におけるバッドのこのセクションで大いに役立ちます (すなわち、どのような処分の期待、思考、仕事を想像すること-それはそれらを発声することを意味するもの) は、それらを真にする PE (可能なイベント) である S の COS の観点からそれらを述べる。私はジャックが来ることを期待する場合、それを真にする COS (PE) は、ジャックが到着し、私の精神的な状態や物理的な行動 (部屋をペーシング、ジャックを想像する) は無関係です。思考と現実の調和は、ジャックが私の前または後の行動または私が持っているかもしれない任意の精神状態に関係なく到着し、バッドが混乱しているか、彼が状態 (p132 ボトム) は、その ca が精神状態の内部記述がなければならないことを少なくとも混乱していることです n は現実に同意し、これは、これらの用語は、S1 の作り出すに限定されるべきであると考えの内容であり、S2 の意識機能のために使用されることはありません。ジャックが来るという考えの内容 (意味) は、彼が来て、プライベート言語の引数が示す外部イベントに接続することは不可能である内部の精神的なイベントや状態ではない外部 (パブリック) イベントです。私たちは、外側のイベントのための非常に明確な検証を持っていますが、'内部イベント.そして、W と S が何度も見事に実演し、「ジャックが来ると思っている」という文章を発するのスピーチ行為はただの思想文そのジャックは来るそして、COS は同じです-ジャックが来ます。そして、p133 に関する2つの質問への答えと p 135 に対する W のコメントのインポートは、今では透き通っているはずで「私の期待は、その内容を

持っているということは本当であるか」と「何が中空空間と対応する固体の今になっていますか?文と現実の間の影の補間は、すべての点を失います。今のところ、文自体は、そのような影として機能することができます。、したがって、また、「必要な調和 (または調和の欠如) を現実とすることが可能になる」ということについて、バッドがどのように言及しているかも明らかであるべきである。

同様、次のセクションの質問では、ジャックのイメージが彼のイメージであるということが本当にありますか?想像することは別の性質であり、COS は、私の頭の中にあるイメージがジャックであるということであり、その理由は、私は彼の写真を表示している場合は、「はい」と言うと、誰かのいずれかを表示した場合、「いいえ」。ここでのテストは、写真が私が持っていた漠然としたイメージと一致することではありませんが、私はそれが彼のイメージであること (COS を持っていた) を意図しました。したがって、W からの有名な引用:「神が私たちの心に見ていたならば、彼は私たちが話していた誰を見ることができませんでした (PI p217)」と彼のコメント表現の全体の問題が含まれていることを「それは彼です」と「...イメージがその解釈を与えるものは、それがあつたパスです。それ故に、W の総和 (p140) は、「それが常に最後に来るものは、それ以上の意味を持たないことである、彼はそれが起こるべきであるという願いが起こったことを呼ぶ」...私の願いが成就する前に私が望むものを知っているかどうかは全く問題にならない。そして、いくつかのイベントが私の願いを停止するという事実は、それがそれを満たすという意味ではありません。私の願いが満たされていたならば、私は満足していなかったでしょう。... 「私はそれを得る前に私が何のために長いかわかりますか」と尋ねられたと仮定します。もし私が話すことを学んだならば、私は知っています。処分の言葉は、私が COS と私の精神状態、感情、関心の変化などを満たすとして受け入れる PE の性質は、処分の機能には関係ありませんを参照してください。

バッド・ノートとして、私は期待して、期待して、考えて、意図しているように、私は私が私が表現している COS に自分自身を取る状態に応じて、希望などを望んでいます。思考と意図は、再帰的 S1 筋収縮によってのみ表現することができる S2 の性質であり、特にスピーチのものである。

W第7章には少ない物質があるので、彼が処分にしたように感情に多くの時間を捧げたことはありません。彼は、典型的には、オブジェクトと原因が同じであることに注意してください-私は、彼らが自己言及 (または因果関係因果 関係 自己再帰サークルが好むようになりました)-S によってさらに開発された概念。私のテーブルを見ている場合、それは明確な感情が S2 の遅い、真または偽の思考よりも S1 の高速、真のみの作り出すとの共通点があるかにありますが、もちろん S1 フィード S2 と順番にS1 作り出すはしばしば変更されますによってS2 と S2 「思考」は自動化になることができます (S2A)。

バッドの要約は、本 (p165) のフィッティングの終わりです。「日常の心理的な言葉のための「オブジェクトと指定」のモデルの否認-内部プロセスの絵がそのような言葉の文法の正しい表現を提供するという否定は、ウィトゲンシュタインの使用に対する敵意の唯一の理由ではありません心理学の哲学における内省の。しかし、それは究極の土台です。

今度はサールの別の線量を取ってみましょう。

"しかし、パターンの存在は、システムが実際に物理的なシステムとして動作する方法を説明していないので、それが計算シミュレーションと共有するパターンを識別することによって、タイプライターや脳などの物理システムを説明することはできません。...要するに、構文の帰属がそれ以上の因果力を識別しないという事実は、プログラムが認知の因果的説明を提供するという主張にとって致命的である...物理的なメカニズムだけでなく、脳にも、そのさまざまに物理的、身体的/精神的因果関係の記述があります。新世紀のサール哲学 (PNC) p101-103

「要するに、認知科学で使用されている「情報処理」という感覚は、本質的な志向性の具体的生物学的現実を捉えるための抽象化のレベルがあまりにも高い。私たちは、同じ文「私は車が私の方に来るのを見る」という事実によってこの違いに盲目になり、視覚の志向性と計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができます...認知科学で使われている「情報」という意味では、単に「脳は情報処理装置だ」と言うのは偽りです。サール PNC p104-105

「意図的な状態は満足の状態を表しています...人々は誤ってすべての精神的な表現が意識的に考えなければならないと仮定します...しかし、私がそれを使用しているような表現の概念は、機能的であり、存在論的概念ではありません。志向性の特徴である方法で成功または失敗することができる満足の条件を持つものは何でも、定義により満足の条件の表現...社会現象の志向性の構造を、その満足度を分析することで分析することができます。サール MSW p28-32

そして、ウィトゲンシュタインの別のショット。

「哲学は、単に私たちの前にすべてを置き、何も説明も推測...1つは名前を与えるかもしれないすべての新しい発見と発明の前に可能なことへの「哲学」。PI 126

「我々が実際の言語をより狭く調べるほど、それと我々の要求との間の対立が鋭くなります。(論理の結晶純度のために、もちろん、調査の結果ではありませんでした:それは要件でした。PI 107

「ここでは、哲学的調査において顕著で特徴的な現象について考えます: 困難---私

が言うかもしれません---は解決策を見つけることではなく、そうであると認識すること危機に見える何かそれが唯一の予備だった場合、我々はすでにすべてを言っている。---これに続くものではなく、これ自体が解決策ではありません! ... 我々はそれを私たちの考慮事項に適切な場所を与える場合、難易度の解決策は、説明である一方で、これは、私は間違っって説明を期待して、接続されています。私たちはそれにこだわると、それを超えて取得しようとししないでください。

Zettelp312-314

人間の行動のすべての議論の主要なテーマは、遺伝的にプログラムされた作り出すを文化の影響から分離する必要があります。高次の行動のすべての研究は、高速 S1 と遅い S2 思考 (例えば、知覚と他の作り出す対性質) を離れていじめるための努力ですが、文化に S2 の論理的な拡張です。

サールの作品全体としてより高次の S2 の社会的行動の驚くべき記述を最近対価心理学のための遺伝子の進化は、後の W は、それが S2 の意識的な対価命題思考に進化した S1 の真の唯一の無意識の公理に基づいているかを示しながら、.

心に留めておくべきことは、言語がどのように使われているかについての混乱を明確にする以外に、哲学には実際的な影響がないということです特定の場合、様々な「物理理論」と同様に、人生の他の漫画の見方 (宗教的、政治的、心理的、社会学的、人類学的) とは異なり、それはあまりにも大脳と難解であり、小さなフリンジ以上によって把握され、それはその支持者でさえ非現実的である完全に彼らの日常生活の中でそれを無視します。同様、社会学、人類学、ポップ心理学、歴史と文学によって広く共有されている標準的な社会科学モデルなどの他の学術的な「生命の理論」と。しかし、大小の宗教、政治運動、時には経済学は、しばしば、物理学と生物学 (人間性) を無視する既存の漫画を生成または受け入れる、私たちの迷信を強化する地球や宇宙の posit 力 (EP デフォルト)、そして地球に廃棄物を置くのを助ける (遺伝子の複製と資源の消費を促進するためにそこにあるほぼすべての社会的慣行と機関の本当の目的)。ポイントは、これらが哲学的な漫画と連続していると同じソース (私たちの進化した心理学) を持っていることを実現することです。私たちのすべては、若いときには、彼らの中から成長し、いくつかの人生の様々な漫画のビューを生成/吸収すると言うことができます。

また、W がずっと前に述べたように、接頭辞「meta」は不必要であり、ほとんどの (おそらくすべての) 文脈で混乱し、「メタ認知」のためにどこでも「認知」または「思考」を代替するために、我々または他の人が信じるか、または知っているものについて考えているので、「心」として見られるべきではありません (エージェンシーまたは私の用語で UA) いずれか。S の言葉では、COS は考えられているもののテストであり、「雨が降っている」、「雨が降っていると信じています」、「雨が降っていると信じています」 (同様に「知っている」、希望、裁判官、理解などのために)、つまり雨。これは、「メタ認知」と「心」の性質 (「命題態度

」)について念頭に置いておくべき重要な事実です。

今、カルーサーズ『の私のレビューからいくつかの抽出物のために'(C)「心の不透明度」(2013)科学としてドレスアップ古典的な混乱に満ちている。それは見逃してはならない脳と行動科学(BBS)の緊密の対象でした。

BBSの応答の1つは、cの錯覚のほとんどを共有しているデネットによって、これらのアイデアはかなり良いと思われるが、それはより高い自己の存在を前提としているので「I」の使用を排除すべきであることを除いて(S2からS1へのハードリダクションであることを目標)。もちろんです、書くこと、読むこと、そしてすべての言語と概念を前提と自己、意識、意志が何であれ、そのようなアカウントは、何の価値もない人生の単なる漫画になるでしょう。哲学と多くの'科学的'行動にdisquisitions.W/Sフレームワークは長い間、最初の-人の視点は、3人目の人にはこれらや還元ではありませんが、これは人生の漫画の見方にとっては問題ではありません。同様、「計算」、「情報処理」などとしての脳機能や行動の記述では、すべてよく暴か、ハッ、読み取り、ハッカーや他の多くによって無数の時間を持っています。すべての最悪のは、私が満足(COS)の条件としてSの使用がはるかに優れていると思うので、決定的であるが、全く不明瞭な「表現」です。つまり、「雨が降っていると思う」の「表現」は、雨が降っているということです。

すべての中で最も悲しいことは、C(デネットやサールのような)は彼がWの専門家であると考えており、彼のキャリアの早い段階で彼を研究し、プライベート言語の議論が「行動主義」として拒絶されることを決めたということです!Wは行動主義を拒絶し、彼の仕事の多くは、それが行動の記述として役立たない理由を説明することに専念しています。「あなたは本当にbehaviourist変装して?人間の行動以外は全てフィクションだと言ってるのか?もし私がフィクションについて話すなら、それは文法的なフィクションです。(PI p307)そして、1つはまた、現代のCで実際の行動主義を指すことができます'computationalistフォーム.W/Sは、最初の発着を主張します-'I」または「I」を使用するためのBBSの記事でC謝罪をDにしなが、人の視点「自己」。

ハッは、Wとデネットの間の広大な湾を示しています(D)ドラゴンフューリーに役立つ私はDを取るの、同様にerize CとC(・チャーチランドと他の多くのものと一緒に)同じページ上にあること。Sは、様々な解体Dを持っている多くの人の一人です執筆そして、これらはすべてCに反対して読むことができます。そして、私たちは、Wは、動作中の言語の例に固執することを思い出してみましよう、そして、一度1は、彼が主に従うことは非常に簡単です、Cは「理論化」に魅了されている間(すなわち、明確なCOSを持つ多数の文を連鎖)とめったに特定の言語ゲーム、任意の決定的な方法で解釈することは非常に困難である実験や観察を好む(BBSの応答を参照してください)、どのような場合には、行動のより高いレベルの記述に関連していません(例えば、正確にどのように彼らは志向性に収まるのです

か?表)。彼が決定的な (記憶と計算脳) として賞賛する1冊の本は、脳を計算情報処理装置として提示しています— **sophomoric** は、**S** と他の人によって徹底的にそして繰り返し消滅します。**W** で1930年代。過去10年間で、私は、約何千ものページを読んで、約 **W** と **C** は手がかりを持っていないことは非常に明確です。この中で彼は **W** の読書が無益なであった著名な哲学者の長い列に参加しています—ラッセル、クワイン、ダメット、クリプキ、デネット、パットナム、チョムスキーなど (しかし、パットナムは後で光を見始めました)。彼らは、ほとんどの哲学は、文法的なジョークと不可能なビネットであるというメッセージを把握することはできません-人生の漫画のビュー。

二つをつなぐ「心の不透明」のような本科学または説明の2つのレベルは、実際には1つではなく2冊です。私たちの言語と非言語的行動、そして認知心理学の実験の説明 (**W** が明確にしたような説明ではない) があります。「実験方法の存在によって、問題を解決する手段があると考えています。しかし、問題とメソッドは互いに渡します。(**WPI p232**), **Cetal** は科学によって魅了され、ただは大いに大きな前進です。レベル記述心理学と実験心理学、しかし、**W/S** と他の多くは、これは間違いであることを示しています。科学的かつ明確な行動の記述を行うことから、それはそれをコヒーレントにします。そして、それはロック、カント、ニーチェ、ヒューム、ウィトゲンシュタイン、サールらがいかなる実験科学なしでそのような記憶に残る行動の記録を与えることができたという神の恵みによってあったに違いありません。もちろんです、政治家のように、哲学者はめったに過ちを認めないか黙っているの、これは **W** が完全に診断された理由のためにオンとオンに行く。要するにすること私たちの日常生活の中で何が有用で、何が理にかなっています。私は、**CDC** (カルーサーズ『、デネット、・チャーチランド) の哲学的見解は、**W/S** のものとは対照的に、有用ではなく、その最終的な結論は、自己と意識は全く意味をなさない幻想であり、私は無意味であり、明確な **COS** を持たない。認知科学に関する **CDC** のコメントがヒューリスティックな価値を持っているかどうかは未定である。

この本は (他の執筆の巨大な体のような) 他の動物のホットを割引し、脳機能への行動を減らすためにしようとします (生理学に心理学を吸収するために)。哲学は災害であるが、最初に **BBS** で多くの批判を読んで、最近の心理学と生理学の解説は興味があるかもしれない。デネットのように、・チャーチランドと非常に多くの他の人がしばしば行う、**C** は彼の本当の宝石を明らかにしませんゴマ最後に、私たちが自己、意志、意識が幻想であると言われたとき (おそらくこの言葉の通常感覚で)。デネットは、これらの「迷信」を離れて説明するために **S**、ハッラによってマスクされなければならなかった (すなわち、全く説明していないと実際には説明していないの通常哲学的な動きをしています) が、驚くほど **C** は最初にそれを認めるが、もちろん彼は彼が示す私たちは、これらの言葉は、我々が考えるものではなく、彼の漫画の使用が有効なものであることを意味しません。

また、ベネットとハッカーの認知科学に対する批判は、「神経科学の哲学的基礎」(2003)と、「神経科学と哲学におけるSとデネットとの論争」(2009-ダニエル・ロビンソンの最後のエッセイを見逃してはならない)を見るべきである。また、ハッカーの3つの最近の「人間の性質」に関する書籍でもよく検討されています。

そこに化学物理学と物理化学についての本がありました。2つがマージされる兆候はありません(また、それは一貫したアイデアではありません)また、化学は生化学を吸収したり、それが順番に生理学や遺伝学を吸収したり、生物学が消えることはありません。また、心理学や社会学などを排除することはありません。これは、これらの分野の「若さ」によるものではありませんが、彼らは全く異なる概念、データと説明メカニズムとの説明の異なるレベルであるという事実です。しかし、物理学の羨望はpowerfulさらに、物理学、数学、情報、計算の「精度」と、より高いレベルの曖昧さに抵抗することはできません。それは可能でなければなりません。還元主義繁栄それにもかかわらず量子力学、不確実性、波動/粒子、生/死猫、量子もつれ、数学の不完全性とランダム性の明瞭ゲーデル/チャイティンの私の完全なレビューを参照してください・ヤノフスキーの「理由の外側の限界」とここに抜粋)とその魅力的なブルは、それがEPのデフォルトによるものであることを教えてください。再び、Wからの新鮮な空気をひどく必要とする呼吸: 「論理の結晶性の純度のために、もちろん、調査の結果ではありませんでした: それは要件でした。PI p107. 行動と再読み取り W と S のほとんどの本を投げるに抵抗するのは難しいです。「説明」を高くしようとしているものからジャンプするだけ 注 文 の 動 作 (例 : PI から の 引用)http://topologicalmedialab.net/xinwei/classes/readings/Wittgenstein/pi_94-138_239-309.html

これは、この種のより高いレベルの記述心理学を行うための試みであることを、過去10年間で1万の哲学のページを読んだ後、私には明らかです、通常の言語は、意図的および不注意に両方の特別な使用にモーフ、本質的に不可能(すなわち、哲学やその他の行動分野における通常の状態)。特別な専門用語の言葉を使用して(例えば、問、リアリズムなど)狭い定義を実施するための哲学の警察が存在せず、彼らが意味するものの引数が果てしなくであるように、いずれかの動作しません。ハッカーは良いですが、彼の執筆はとても貴重で密なそれはしばしば痛いですが。サールは非常に良いですが、彼の専門用語を受け入れ、いくつかの悪質ミスをするためにいくつかの努力を必要としますが、Wは、彼が何をしているかを把握した後、明確かつ最も洞察力をダウンし、誰も彼をエミュレートすることができませんでした。彼のTLPは、生命の機械的reductionistビューの究極の声明のままであるが、彼は後で彼の過ちを見て、「漫画の病気」を診断し、治癒したが、いくつかのポイントを取得し、最も単純に同様に彼と生物学を無視し、そのように書籍の数百万人がありますそして、数百万の記事とほとんどの宗教的および政治的組織(そして最近までの経済学のほとんど)とほとんどすべての人々の生活の漫画のビューを持ちます。しかし、世界は漫画ではないので、偉大な悲劇は、人生の

漫画のビューとして再生されています(例えば、社会主義、民主主義、多文化主義)現実と普遍的な失明と利己主義と衝突して文明の崩壊をもたらします。

すべての基本的な振る舞いと同じ理由で、心の機械的視点が存在するということは、私には非常に明白であるように思えます-それは我々が意図的にゆっくりと考えることができるものの観点から説明を求める私たちの EP のデフォルトの動作でではなく、自動化された S1 ではなく、我々は主に無関心のまま。

しかし、動作のほとんどは機械的であり、現象学的錯覚はサールが説明するよりもはるかに大きなリーチであることは事実です。これは、高速道路上で車を運転し、突然、私は意識の意識なしで数分間駆動している実現するために驚い S2 認識に戻ってスナップするときに私に最も印象的です運転の全然です。リフレクションでは、この自動化はほぼすべての私たちの行動、S2 からの最小限の監督と意識だけで。私はこのページを書いているとする必要があります“考える”(すなわち、いくつかの時間を渡すことができます)何を言うかについて、しかし、それはちょうどそれをタイプする私の手の中に流出し、それによって、私は特定の文を変更することを考えるときを除いて、それは私に驚きです。そして、あなたはまだ座って、ページのこの部分を見てあなたの体にコマンドを与えるそれを読んで、しかし、言葉はちょうどあなたに流れて、ある種の理解そして記憶は起こる、しかし、あなたが文に集中しない限り、何かをする漠然とした感覚しかありません。サッカー選手は、フィールドを実行し、ボールと何千もの神経インパルスと筋肉の収縮巧み眼球運動と協調し、自己感応やバランス器官からのフィードバックが発生しているが、制御の漠然とした感じがありますが、高-結果のレベルを認識します。S1 は彼がほとんど知らない法律に従って実際の作業を行っている役員の数千人を持っている間 S2 は、彼のオフィスに座る警察のチーフです。読書、執筆またはサッカーは自発的な行為 A2 から見た上記、だがしかし以下から見た数千人の自動行為 A1 で構成されています。現代の行動科学の多くは、これらの作り出すに関係しています。

少なくともサールの PNC の第6章、「現象学的錯覚」(TPI)を読むことは良い考えです。それは、TPI が S1 の作り出すに *obliviousness* に起因していることを結晶として明らかであり、唯一のプライマリではないとして S2 の遅い意識的思考を取っているすべてがあります。これは古典的なブランクスレート失明です。W が示したことも明らかであるこれは、いくつかの60年以前、内側のソースである私たちの生来のシステム1の真のみの無意識の自動公理的ネットワークの優位性でそのための理由を与えた。非常に大まかには、S1 または内側としての世界の「オブザーバー独立」の特徴について、および S2 または外側として「オブザーバー依存」の特徴は非常に明らかにする必要があります。サールノートとして、Phenomenologists は、正確に後方のオントロジーを持っています、しかし、もちろん、その EP のデフォルトのためにほとんどすべての人を行います。

近くの研究に値する W のもう一つの優れた仕事は、ジョンストンの「ウィトゲンシュタイン:内側を再考する」(1993)です。彼は、私たちのレポートや思い出が本当に検査不能彼らは何の価値もありませんが、「この異議は、実際に起こったことと、個人が何が起こったのかを前提として、W の議論の全体のポイントを逃します、2つの明確なものです。しかし、我々が見てきたように、心理学的記述の文法は、後者が前者の基準を構成することを意味する。私たちは彼女の顔に集中表現で誰かを見て、「彼女の中で何が起きているか」を知りたい場合は、彼女の sincerel彼女がしようとしていることを私たちに告げる複雑な sum に対する答えをうまく出すために、私たちが知りたいことを正確に教えてください。彼女の誠実さにもかかわらず、彼女が何をしているかについての不正確な記述かもしれないかどうかという問題は、起こりません。ここでの混乱の原因は、心理的な概念が外側のイベントを記述するために使用される概念とは異なる文法を持っていることを認識する失敗です。内側をととも神秘的に見せるのは、ある概念を別のコンセプトで理解しようとする誤った試みです。実際には、内部の私たちの概念は、私たちが意味するもの私たちは、「彼女の中で起こっていたこと」の話は、神秘的な内部プロセスではなく、個人が彼女の経験の提供するアカウントにリンクされています...プロセスやイベントとして、個人の中で何が起きているかは興味がない、またはむしろ純粋に医学的または科学的関心のものである」(p13)。

「内部プロセスの概念に対する W の攻撃は、逆に、外側の問題だけを意味するものではありません。発話の本質を引き出すことで、行動に関心がないという事実を強調します。私たちは、その人の身体がそのような位置にあり、彼女の特徴がそのような方法で配置されていることを知りたいだけではありません。むしろ、この行動の背後にあるものについての彼女の話に興味を持っています...(p16)

個人のルールや私的な言語の不可能についての W の推論をレイアウトする際に、彼は「本当の問題は、しかし、彼女がルールを置くために失敗しただけではなく、原理的にはそうすることができなかったことに注意してください...要点は、公にチェック可能手続きがなければ、彼女は規則に従うことと、単に彼女が規則に従っていると考えていることを区別できなかったということです。

p55 ジョンストンでは、外部の議論が私たちの直接最初の流れ性質上のその非常に了解のために完全に依存していることを(これと他の文脈で W と S によって何度も行われている)ビジョンに関してポイントを作ります-内側の人体験。システム2懐疑的心、意志、感覚、世界に関する疑いは、システム1の真の確実性なしに足場を得ることができず、今これらの言葉を読んでいるという確信は、それ自体が裁かれることができるものではなく、裁きの基礎である。この間違いは、すべての哲学において最も基本的で共通のものの一つである。

p81 において、彼は、通常の場合、あなたが考えた、または感じているもののような、あなたの処分に関するあなたの命令(しばしば紛らわしいと呼ばれるが、「

命題態度」と呼ぶ)をチェックすることの不可能が、私たちの心理学の欠陥であるということの意味しますは、これらのステートメントが関心を与える正確なものです。"私は疲れている"あなたのような外側についてのデータの別のビットを与えるよりも、あなたの感じているかを教えてくださいあなたの遅い動きやあなたの目の下の影。

ジョンストンは、その意味や理解(そしてすべての性質)がスピーチに付随する経験であるという考えのWの暴くを説明する優れた仕事をします。Wが指摘したように、ちょうどあなたが理解していると思う場合を考慮し、その後、あなたが意味、理解、思考、信じて、知っているなどの内部の経験の見当違いを見るために、そうではないことを見つける。経験をカウントは、我々が参加している公開言語ゲームの認識です。同様の考慮事項は、「思考の雷速度」の問題を解消します。「思考は、プロセスや経験の連続ではなく、意識のある生き物の生活の側面であることを認識することが重要です。思考の雷速度に対応するものは、彼女が何をしているか、何を言っているかを任意の時点で説明する個人の能力です。(p86)。そしてWが言っているように、文の始めと終わりを思考の始まりと終わりと呼ぶのであれば、この時間の間に一樣であるという考えの経験について言うべきか、それとも文を話すようなプロセスであるかは明らかではない(RPP2p237)。

再び:「彼女が考えたことの個人のアカウントは、彼女が意図したものと彼女が意味するものの彼女のアカウントと同じ文法を持っています。私たちが興味を持っているのは、彼女が与えようとしている過去のアカウントであり、彼女がアカウントを与えることができるという仮定は、意識として彼女を見に関与しているものの一部である」(p 91)。つまり、これらのすべての性質の動詞は、私たちの意識的な、任意のS2心理学の一部です。

「内部の複雑さ」では、内部を伝えるための最善の方法は、それが皮肉であることに注意してください。外側しかし、私はそれが自然と避けられないと言うだろう。私的な言葉もテレパシーもないので、筋肉を収縮させるだけで、最も効率的で深いコミュニケーションは、口頭の筋肉(スピーチ)を収縮させることです。Wがいくつかの文脈でコメントしたように、それは我々がその純粋な形で言語(思想)を見ている(または現在テレビや映画で)演劇にあります。

継続のような処分である限りは私たちは、それらを変更したり、忘れたりしないので、正確な持続時間だけでなく、強度のレベルを欠いており、コンテンツは決定であり、正確な精神状態ではないので、これらすべての点で、彼らはs1の知覚、思い出やS1のような再帰応答とはかなり異なります感情。

S1とS2の違い(私がそれを置くように、これはJまたはWに利用可能な用語ではありませんでした)また、処分動詞の非対称性に見られ、「私は信じている」などの最初の人の使用で、(誠実な発言の通常の場合)である真のみの文対third人は、

真実または虚偽の証拠ベースの命題であるなど、「彼は信じている」を使用します。「雨が降っているとは思えない」とは言えませんが、「雨が降っていると思っていた」や「3人目は雨だと信じています」といった他の時制は「大丈夫」とは言いません。」が言うように:「ここで問題の核心にある一般的な問題は、個人が彼女自身の処分を観察することができるかどうかです...このパラドックスを明確にするための鍵は、自分の心の状態についての個人の記述も間接的には、の状態の記述であることに注意することです事務。。。言い換えれば、彼女が **p** を信じていると言う人は、**P** 自体をアサートすることにコミットしています...個人が彼女の信念を観察することができない理由は、中立を採用することによって、または **evaluatory** それに対するスタンス、彼女はそれを弱体化させます。言った人「雨が降っていると思いますが、それによって彼女自身の主張を損なうことはありません。**W** の音符として、動詞の意味が間違っていると信じているのと同じ理由で、動詞の第3者の使用の最初の人に相当することはありません。2つの命題は独立していない、「これは私の内部で起こっているという主張:これは私の外で起こっている」(RPP1 p490) (p154)。**W** または「」によってコメントされていないけれども、子供たちは決してそのような過ちをしないという事実は「私はキャンディシかし、私はそれをしたいとは思わない」など、そのような構造は、(私たちの遺伝子に) 私たちの文法に組み込まれていることを示していないと文化のアドオン。

その後、**W** を引用することによって、これを別の視点から見ます "私の行動に自分の言葉から私の描画の結論のポイントは何ですか、どのような場合に私は信じて何を知っていますか?そして、私が信じていることを知っている私の現れは何ですか?それは、この中で正確に明らかにされていない-私は私を推論しないこと行動私の言葉から?それが事実です。

(RPP1 p744)。これを言うもう一つの方法は、**S1** が認知のための公理的真のみの基礎であり、真理と虚偽を決定するための非命題の基質として、分かりやすく判断することができないということです。

彼は **LG** の (私たちの心理学の中で) のばらつきに関する重要なコメントと章を終了し、私はそれが慎重に読まれることをお勧めします。

ジョンストンは、「内側/外側の絵」の多くは **W** からの彼の引用で要約されているの議論を続けています "内側は、私たちから隠されていることは、それが彼から隠されていないという意味で私たちから隠されていることを意味します。そして、それは彼がそれに表現を与えるという意味で、所有者から隠されていない、と我々は、特定の条件の下で、彼の表現を信じていると、エラーには場所がありません。そして、ゲーム内のこの非対称性は、内側が他の人から隠されているという文で表現されています。(LWPP2 p36)。「」は上に行く:「問題は、内部が隠されているが、それが関与する言語ゲームは、我々は通常、知識について話すものとは非常に異なっていることではありません。そして彼はに入り彼の人生を通して **W**

の主要なテーマの一つ-人間と機械の違い。「しかし、人間はそのメカニズムについての洞察を得ることは不可能であると仮定しています。したがって、不確定性は仮定...私は予測不可能性が内側の本質的な特性でなければならないと信じています。また、表現の無限の多様性があります。(RPP2p645 と LWPP2 p65)。再び,W は、動物とコンピュータの違いを調査します。

私たちの LG の不確実性は欠陥ではなく、私たちの人間性にとって重要であると J は指摘します。再び W: 「重要なのは、証拠が感情を(そして、内側に)単に可能性があるということではなく、我々がこれを重要なものの証拠として扱うこと、そして、このような証拠についての判断を下すこと、そして、そうした証拠が特別なものであるということではない。私たちの生活の中で重要であり、概念によって顕著にされています。(Z p554)。

J は、この不確実性の3つの側面を、固定基準の欠如または意味の細かい色合い、内部状態の結果の堅い決定の欠如、および私たちの概念と経験間の固定関係の欠如として捉えています。W: 「1内部状態の本質的な観測的な結果が何であるかを言うことはできません。例えば、彼が本当に喜んでいるとき、彼に何が期待されるのか、そして何がそうでないのか。もちろん、このような特性の影響はありますが、物理オブジェクトの状態を特徴付ける反応と同じように記述することはできません。(LWPP2 p90)。「ここでは、外側のベールを貫くことができないので、彼女の内面の状態は私たちが知ることができないものではありません。むしろ知っていることは何もありません。(p195)。

彼の最後の章で、彼は私たちの LG のは、科学的進歩に関係なく変更する可能性がないことに注意してください。「脳活動の研究は人間の行動のより信頼性の高い予測因子であることが考えられますが、それが与えた人間の行動の理解の種類は、意図した言語ゲームに関わるものと同じではありません。科学者の価値が何であれ、それは本当にどのような意図を明らかにしたとは言えませんでした。(p213)。

この indeterminateness は、脳の状態と性質の相関関係がそうであるという考えにつながります。「ここでの難しさは、1つの思考の概念は非常に人工的な概念であるということです。どのように多くの思考がそこにあります論理?そして、そのための基本的なアイデアは、W を打たれたとき、それは1つの考えやそれらの発疹でしたか?意図の概念は、同様の問題を作成します...これらの後続のステートメントは、すべてとして見る増幅は、元の思考の説明、しかし、どのように我々はこれが脳の状態に関連すると仮定するのですか?私たちは、それがあまりにも思考についてのすべての可能な質問への答えが含まれることを想像するのですか?.私たちは、2つの有意に異なる思考が同じ脳の状態と相関していることを許可する必要があります...言葉は、ある意味では交換可能であり、別の意味ではありません。これは、脳の状態と思考を関連付けるための試みのための問題を作成します...

二つの考えは、同じ意味で同じで、別のもので異なる...したがって、1つの思考の概念は脆弱で人工的なものであり、そのためには、脳の状態と1対1の相関関係の話をするのができますどのような感覚を見るのは難しいです。p218-219)。つまり、同じ考え (COS) 「雨が降っている」1つまたは多くの人々の脳の状態の無限の数を表します。同様、「同じ」脳の状態は異なる文脈で異なる思考 (COS) を表現するかもしれません。

同様に、W はメモリが神経系の痕跡で構成されていることを否定する。「ここでは、仮定トレースは内部クロックのようなものであり、我々は時間を推測するために内部クロックを参照するよりも、トレースから何が起こったのかを推測しません。彼はその後、彼が読んでいる間、彼は男走り書きマークの W (RPP1 p908) からの例をメモし、誰もテキストを繰り返すことはできませんマークしかし、彼らはルールによってテキストに関連していません ... 「このテキストは敗走に保存されません。そしてなぜそれが保存されるべきか私たちの神経系の上に?また、「...何も私には、人々は、特定の思考やメモリの特定のアイデアに対応する生理学的または神経系のいずれかにコピーが存在しないという明確な意見に来るだろうというよりも、私にはより妥当と思われる"(LWPP1 p504).これは、生理学的規則性が対応していない心理的規則性があることを意味する。そして、W 挑発的なが「これは因果関係の私たちの概念を混乱させる場合、それは彼らが動揺していた高い時間です。(RPP1 p905) 「なぜ、システムの初期状態と端末状況を、仲介状態をカバーしない自然法則によって接続してはいけないのでしょうか?(RPP1 p909) ... 脳内のプロセスは、脳のプロセスから思考プロセスを読むことは不可能であるように、関連するか、思考と相関していないことは非常に可能性があります...なぜこの秩序は、いわば、混沌から進まないのか ...それがあったように、*causelessly*;そして、これは本当に私たちの思考のために保持してはならない理由はありません、したがって、私たちの話や書き込みのために!(RPP1 p903)...しかし、ここで生理学的な説明が必要ですか?一人で説明してくれないか? -でもマシンの振る舞いを調べてたらそんな話はしないわ-生き物、動物の体は、この意味では機械であると言っていますか?(RPPI p918) (p 220-21)。

もちろんです、一つは、これらのコメントを様々に取ることができますが、一つの方法は、W がカオス理論、具現化心と自己の台頭を見込んでいることです-生物学の組織。不確実性、カオス、予測不可能性は現在、素粒子から分子スケール、そして惑星力学 (気象など) や宇宙論における標準的な教義であるため、脳はなぜ例外になるのでしょうか?私が見たこれらの発言についての唯一の詳細なコメントは、ダニエレの最近の論文にありますMoyalSharrock (DMS)。

これは、W の観察は、すべての研究の基礎であるが、非常に印象的です行動一言語学、哲学、心理学、歴史、人類学、政治、社会学、芸術、彼はほとんどの書籍や記事でも言及されていない、ほとんど言うことを除いても、そのほとんどが歪んだまたはフラット間違っています。少なくとも哲学では、最近の関心の突風が

あり、おそらくこの不合理状況は変化しますが、おそらくあまりありません。

ハッカーの最近の著書「人間の本性」(2011)の第7章における S1 の原因と S2 の理由の論理的(心理的)な違いについての議論は、行動のすべての学生にとって非常に重要な p226 です。「原因」は正確で論理的に正確な用語であり、「理性」はじゃないしかし、W はこれを何度も暴露した。もちろんです、同じ問題は、すべての科学と数学的な概念で発生しますもちろん、1つは維持する必要があります常に、「行動」、「条件」、「満足」、「意思」、さらには「そして」「または」「前」「真実」など、すべての複雑な言語ゲームは、30年代初頭に BBB で美しく記述された W として私たちをトリップすることができます。

サールは、彼の最近の本のうちの1つで多くの興味深い発言をする「現実世界について考える」(TARW)(2013年)、私は唯一のレビューを書いているように見えるので、私はここで詳細にそれを議論します。

TARW の p21 で、我々は再び私が S の仕事で最も明白な欠陥として、彼はより慎重に後の W と彼のコメントーターを読んでいた取り除きずっと前にされているべきであるものに実行します。彼は私たちがあきらめなければならないかもしれないという「仮定」として自由意志を指します!それは、意志、自己、世界、そして私たちの生活のすべての現象は、私たちの行動の公理的の基盤であり、それらを判断する可能性がないことを判断するための基礎である W から明らかです。私たちは、2つの手を持っているか、地球の表面に住んでいるか、マドンナが歌手などであることを「仮定することができますか?おそらくこの巨大な間違いと接続され私が指摘している真だけ S1 と命題 S2 の彼のブレンド。彼は他のほとんどすべての権利を取得し、これにつまずくことができることを驚くべき!

p22 と他の場所で彼は最初にフィルの彼の1991紙で議論した無意識の志向性の概念を使用しています、これらは、意識になることができるものの種類であることに注意してください(例えば、夢).W は、私はあなたが無意識の考えを話すことができない場合、どちらか(BBB)の意識のものを話すことができないことに注意して、このことにコメントする最初のものでした。ここで、彼の仕事を通して、それは unfortun です彼は S1 を使用しないことを食べた/S2 の概念は、物事をまっすぐに保つことがそんなに簡単になり、彼はまだ非常に国連にふけるために必要なことを見つけるようにWittgensteinian 専門用語。たとえば、「組み上げ構文要素は、分遣隊を作ることができない方法で、知覚と記憶の形でその直接的な原因から志向性を切り離すことができる unsyntactically 構造化された表象要素。(p31) ちょうど言葉で S2 の対価志向性が来たと言う、意識的思考と理性(つまり、言語で表現できる潜在的なパブリックアクション)が可能となった。

理由と欲望について (p39) 他の場所を参照してください、彼の他の作品の私のレビュー。

精神状態としての処分への継続的な言及r精神状態に eference表現 (実際には、ここでのプレゼンテーション) COS と、(私の見解では) 逆効果です。p25 の例では、私たちが見ているリングは CSR の COS であると言いたいようです。(因果関係自己再帰、すなわち、原因が組み込まれている) リングの知覚とかゆみの再帰的無意識の引っかけは、腕の計画的な運動と同じ状態 (すなわち、COS) を有する。したがって、S1の精神状態は、COSとしてS2のアクションに含まれることになっています。私は S のオントロジーと認識論のほとんどを受け入れますが、私はこれの利点を見ていませんが、私は彼のために最大の尊敬を持っているので、私はそれに取り組んでいきます。私は彼が精神的な状態として信念を参照しているように思える p29 に彼が行う S1 と S2 を混合するために、彼の傾向 (他の人のために通常はサークルの欠陥) を指摘している。それは、S2 が精神状態ではないということは、30年代の W の BBB 以来、非常に基本的で明確なように思える S1. 私たちは、S1 と S2 の言語ゲームの間の違いを明確に保つために常に必要があるので、彼は S1 を参照して信念のゲームを使用することを主張した場合、我々は B1 と B2 を参照する場合、B2 は単語「信念」を参照する場合、それははるかに明確であるシステムの公共言語行為 2.

p25 の「理由」から始まるパラグラフは、S1 の真のみの無意識の知覚、記憶、再帰的行為について議論している。公理的進化した心理学の自動機能 (EP). 前述のように、1つはハッを読むことができミャーのブック ' 尖鋭Enactivism: 「コンテンツのない基本的な心」 (2012) とその続編S1の nonrepresentational または enactive の性質の非常に異なる最近のアカウントのために、

p26 の志向性の表は、彼が何十年も使用しているものを更新し、私は上記の私の拡張テーブルの基礎として使用しています。

約半世紀前 S は、行動の私達の理解の革命的な前進であった「どのように派生すべきか」と書いた(それほどではありませんが W を理解した場合).彼は行動の自然主義的記述を発展させることを続け、p39 において、私たちの生まれながらの社会的行動における倫理の起源を示していると言語。基本的な考え方は、欲望の独立した行動理由 (スラカルタ),これは彼の様々な本で説明されています。概要については、彼の MSW と他の作品の私のレビューを参照してください。彼は、彼の分析をフレームに S2 (すなわち、対価心理学と文化) の直接の理由を使用する傾向があるが、私はそれが S1 の究極の原因が含まれていない限り、私はそれを表面的と見なし、私は DIRA1 と DIRA2 に彼のスラカルタを破る。これは、相互利他性と包括的なフィットネスの無意識のメカニズムの観点から説明を可能にします。したがって、私は p39 の最後の文を言い換えるだろう...人々は倫理的な配慮をすることによって、彼らの自然の傾斜を上書きするように求められます。人々は、相互利他主義と包括的なフィットネスを介して長期的な遺伝的利益を確保するために、即時の個人的利益を上書きすることを余儀なくされています。

現代の2つのシステムへの S の obliviousness (彼はほとんどの哲学者と共有する)フレームワーク,そして、「確実に」彼の最後の作品で最も劇的に述べたように W の「過激」認識論の完全な含意に、最も不幸です (私は多くのレビューで指摘したように)。これは、2つのシステムを記述する最初の、最高の仕事をした W でした (誰も気づいていないが) と OC は、知的歴史の中で主要なイベントを表します。だけでなく、彼のフレームワークは W の単純な継続であるという事実気づいていないが、他の誰もあまりにも、すべての重要な参照の欠如を占めている W でこの本。いつものように一つはまた、表面的な近接文化的なものではなく、実際の究極の進化と生物学的説明を提供することによって、行動のすべての議論を啓発することができ、EP と明らかに知人を注意してください。

したがって、p202 の感覚 (「経験」) を記述する2つの方法についての S の議論は、私の見解では、赤を見ること、または痛みを感じる事が自動真のみ S1 であることを実現すれば、すぐに我々が意識的にそれに出席する (ca 500 ミリ秒以上) は、言語 (および他の身体の筋肉の収縮と同様に) で公に表現することができる「として」と命題 (真または偽) S2 関数になります。したがって、赤と同じである S1 '経験' または痛み対赤や痛みの、我々はそれに反映し始めたら、通常は1つの「経験」に一緒にブレンドされています。私にとっては、これらの問題の理解を得るための最良の場所は s です W の著作が始まるまで BBB と OC で終わる。他の誰もこのような明快さで言語ゲームの機微を説明していません。「間違い」、「真実」、「経験」、「理解」、「知る」、「見る」、「同じ」などの曖昧さと複数の意味を常に念頭に置いておく必要がありますが、それを行うことができたのは W だけでした。そして、それは些細な問題ではありません-誰もがはっきりと言い換えるない限りすべての命題 S2 から真のみの非 judgeable S1 を分離する p202 は、動作について何も混乱なしで言うことができます。そしてもちろん、すごくしばしば (すなわち、通常) 単語は明確な意味なしで使用されます-1することこのコンテキストでは、「真」または「次から」または「参照」を使用する方法を指定します。

再びp203-206 では、本質的に意図的な自動因果の議論dispositionalityには意味があり私は S1 の状態を説明するためにちょうど別の方法としてそれを見ているので、意図的に意識的な S2 のための原料を提供するdispositionalityこれは、生物学的な進化の観点から (そして、他に何が出来るか?したがって、p212 に関する彼のコメントは、お金の上に右である-究極の説明 (または W が記述を主張するように) は、心、意志、自己と意図の仕事記述し、それらを「本当の」現象として有意義に排除することができない帰化したものになることができます。デネットの「意識説明」と題した S の有名なレビューを思い出してください。これによりすべてのより私たちは自由意志を持っている場合、我々は '仮定' 自己 (p218-219) を持っているかどうかは確かに知らないことを繰り返し、S は奇妙なこと。

また、私は再び、混乱が二元論、理想主義、唯物論、epiphenomenalism などの哲学

の歴史的過ちによるものであることを示唆するとき、間違ったトラック (p214) 上にあると思います。心理学 — 「現象学的錯覚」 (TPI) 彼はそれを呼ばれているように、そして美しく W によって記述される言語によって bewitchment。「神経生物学プロセスと精神現象は、異なるレベルで記述された同じ事象であり、どのように意識的な意図が身体運動を引き起こすのか? ...どのようにハンマーは固体であることの美德で爪を動かすことができますか?...どのような堅牢性を分析する場合因果関係...どのような行動意図が因果関係であるかを分析すると、哲学的問題が残っていないことも同様にわかります。

私は彼のコメントを翻訳するだろう (p220) 「話し手は、参照表現の発話において、話し手が参照している物体が満たすという条件を導入する場合にのみ、表現を使用することができます。そして、その条件の満足によって、参照が達成される。「その意味は、公に検証可能な満足の状態 (真実の状態) を示すことによって達成される。「雨が降っていると思います」それ以外の場合は、雨や偽の場合は true です。また、「私の主張の核心は、一般的に理解されているように、私たちの言語学的慣行が、我々の表現とは無関係に存在する現実を前提とということです。(p223) 「私たちの人生は、私たちの存在に依存せず、分かりやすく挑戦することができない世界を示しています。

いくつかのより多くの引用のための時間と別刷の彼の最近の著書の議論 '新世紀の哲学' (2008) 他の場所として、私はいくつかを繰り返しますコメントを別のコンテキストに配置します。

「機械プロセスは思考プロセスを引き起こす可能性がありますか? 答えは: はい。確かに、機械プロセスだけが思考プロセスを引き起こし、「計算」はマシンプロセスに名前をつけません。これは、通常はマシン上に実装できるプロセスの名前を指定します。サール PNC p73

"...計算としてのプロセスの特徴付けは、外部からの物理システムの特徴付けです。そして、計算としてのプロセスの同定は、物理学の本質的な特徴を特定するものではなく、本質的に観察者の相対特徴付けである。サール PNC p95

「中国語の部屋の引数は、セマンティクスが構文に内在していないことを示しました。私は今、構文が物理学に内在していないという別の異なる点を作っています。サール PNC p94

「物理学に内在する構文を取得する唯一の方法は物理学にホムクルスを置くことであるので、再帰的な分解によってホムクルスの誤謬を排除しようとする試みは失敗します。サール PNC p97

"しかし、パターンの存在は、システムが実際に物理的なシステムとして動作する

方法を説明していないので、それが計算シミュレーションと共有するパターンを識別することによって、タイプライターや脳などの物理システムを説明することはできません。...要するに、構文の帰属がそれ以上の因果力を識別しないという事実は、プログラムが認知の因果的説明を提供するという主張にとって致命的である。物理的なメカニズムだけでなく、脳にも、そのさまざまに物理的、身体的/精神的因果関係の記述があります。サール PNC p101-103

「要するに、認知科学で使用されている「情報処理」という感覚は、本質的な志向性の具体的生物学的現実を捉えるための抽象化のレベルがあまりにも高い。私たちは、同じ文「私は車が私の方に来るのを見る」という事実によってこの違いに盲目になり、視覚の志向性と計算モデルの出力の両方を記録するために使用することができます...認知科学で使われている「情報」という意味では、単に「脳は情報処理装置だ」と言うのは偽りです。サール PNC p104-105

「理性の声明で報告された事実の性質によって合理的な代理人に拘束される行動の理由があるかもねそして、エージェントの欲望、価値、態度、そして評価。...の本当のパラドックス伝統的な議論は、ヒュームのギロチン、堅い事実価値の区別、語彙で、すでに区別の虚偽を前提との使用を提起しようとすることです。サール PNC p165-171

"...言語を除いて、すべてのステータス関数とそれ故にすべての制度的現実、宣言の論理的な形式を持っているスピーチ行為によって作成されます...問題のステータス関数の形式は、ほぼ常に義務力の問題です...権利、義務、義務、要件などとして何かを認識することは、行動の理由を認識することです...これらの義務構造は、可能な欲望に依存しない行動の理由...一般的な点は非常に明確である: 欲望に基づいた行動の理由の一般的な分野の作成は、行動の欲求独立した理由のシステムの受け入れを前提します。サール PNC p34-49

「志向性の最も重要な論理的特徴のいくつかは、彼らがすぐに現象学的な現実を持っていないので、現象論の範囲を超えています...無意味さから有意義性の創造は意識的に経験していないので...それは存在しません...これは。。。現象論的錯覚。サール PNC p115-117

「意識は脳のプロセスに還元因果関係...そして、意識は根底にある神経生物の因果力に加えて、それ自身の因果力を持っていません...しかし、因果被還元性は存在論的還元性につながることはありません...意識は経験としてのみ存在する...したがって、経験から独立して存在する、第三者のオントロジーを持っているものに減らすことはできません。サール PNC 155-6

"...心と世界との基本的な意図的關係は、満足の条件を伴っている。そして、命題は、世界との意図的關係に立つことができるすべてのものであり、それらの意

図的な関係は常に満足の条件を決定し、命題は何かとして定義されているからである十分満足の条件を決定するために、すべての志向性が命題の問題であることが判明しました。サール PNC p193

S は言わないし、主に気づいていないようですが、彼はしばしば彼を批判しているにもかかわらず、彼の仕事の大部分は、W のそれから直接続きます。サールが W の作品を運んでいると言うことは、W の研究の直接的な結果であると言うことではなく、人間の心理学が1つしかないため(同じ理由で人間の心臓が1つしかないため)、行動を正確に記述する人は som を発声しなければならないということです。e が言ったことの変種または拡張動作の正しい説明を与える)。私は Chaps 3-5 の被験者である強い AI と関連する問題に対する有名な中国の部屋の議論のバージョンを含む W で S 予示さのほとんどを見つけます。ちなみに、中国の部屋に興味がある場合は、ビクターを読む必要があります Rodych の優れた、しかし事実上未知の、CR の補足--「サールはあらゆる欠陥の解放した」。Rodych また、数学の W の哲学に関する一連の優れた論文を書いている-すなわち、公理的システムの EP (進化心理学) 1 能力カウントアップ 3 に、数学のエンドレスシステム 2 SLG (二次言語ゲーム) に拡張されるように。

数学の心理学への W の洞察力は、志向性に優れたエントリを提供します。私はまた、強力な AI、行動主義の多種多様なバージョン、コンピュータ機能主義、CTM (マインドの計算理論) とダイナミックシステム理論 (DST) を促進する誰もが、W の論理は、これまで書か(すなわち、事実の論理的な処理としての行動(思考)、すなわち情報処理)の視点の最も印象的で強力な声明と見なすことができます。もちろんです、その後(しかし、デジタルコンピュータがチューリングの目で光る前に) W で説明素晴らしいディテールなぜこれらが心の一貫性のない記述だったのか(思考、行動)それは心理学によって置き換えられなければなりません(または、これは彼が彼の人生の残りのためにやったすべてであると言うことができます)。S はしかし、メカニズムとして W の先見の心の文と、彼の後の仕事でそれの彼の破壊にほとんど言及しません。

W、S が校長になってから分解装置行動のこれらの機械的見解の、そしておそらく最も重要な記述心理学者(哲学者)、だがしかし W、チューリングと AI の Proudfoot とコーブランドの多くの論文や書籍を参照してください、また、によって、彼は、また、大規模で、どのように完全に期待を実現していません。S の仕事は、W よりもはるかに簡単に従うことができ、いくつかの専門用語がありますが、それはあなたが正しい方向からアプローチする場合、それはほとんど見事明確です。詳しくは、マイ記事をご覧ください。

W のように、サールは彼の時間の最高のスタンドアップ哲学者とみなされ、彼の書かれた作品は岩として固体であり、全体に画期的です。しかし、彼の後の W を真剣に取るために失敗は、いくつかのミスと混乱につながります。PNC の p7 では、

基本的な事実についての我々の確実性は、我々の主張を支持する理性の圧倒的な重さによるものであると2回注意するが、Coliva、DMS らは指摘した、W は、それが判断の基礎であり、それ自体が判断することができないので、私たちのシステム1の知覚、記憶および思考の真のみの公理的構造を疑う可能性がないことを決定的に「確実に」示しました。p8 の最初の文では、彼は確実性が変更可能であることを告げていますが、この種の「確実性」は、我々は Certainty2 と呼ぶかもしれないが、我々の公理的を拡張した結果であり、nonrevisable確実性 (Certainty1) 経験を介して、それが命題 (真または偽) であると全く異なるです。これはもちろん、W が示した「言語による我々の知性の bewitchment との戦い」の典型的な例です。何度も繰り返し、1つの単語--2つ (または複数) の異なる用途。

p10 で彼は理論化に彼の反感のために W を懲らしめるが、私は上記のように、'理論化' は別の言語のゲーム (LG) であり、いくつかのよく働いた例と行動の一般的な説明との間に広大な溝があり、そこから現れるもの多数のそのようなものは、多くの反例の対象ではありません。初期の時代の進化は、明確な例が限られた理論であったが、すぐに、かなり異なる意味での例と理論の広大な体の要約になった。同様、理論では、W の例の1000ページの要約として、10ページから1つの結果を作るかもしれません。

再びp12 では、「意識」は、いくつかの非常に異なる感覚で「主観的」である自動化されたシステム1の機能の結果であり、通常のケースでは、証拠の問題ではなく、私たち自身のケースにおける真の唯一の理解であり、真のみの知覚は他。

私は p13 を読んで、私は考えた: 「私は耐え難いほど痛みを感じて、何も間違っているかのように行くことができますか? 違います! —これは同じ意味での「苦痛」ではありません。「内側の経験は、外部基準を必要としています」 (W) そして、サールはこれを見逃しているようです。W またはジョンストンを参照してください。

私は次のいくつかを読んでページ私は、W は、多くの文脈で同義としてそれらを考慮するように、心/言語の接続のはるかに優れた理解を持っていることを感じた、と彼の作品は、言語使用の多くの明快例で例示したように心の華麗な博覧会です。上に引用されているように、「今、私たちが懸念している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前に開かれます。そして、上で説明したように、私は、2つのシステムの立場から W の OC を考えることによって、セクション3の終わりに関する質問が主に答えられると感じます。同様、科学哲学の第6節Rodych私はその時に素晴らしいと思ったポッパー対 W の記事を行っています、しかし、私は確認するためにそれを再読み込みする必要があります。

最後に、p25 では、因果関係または自由意志の私たちの概念 (言語ゲーム) の任意のリビジョンが必要または可能であることを否定することができます。あなたは

W と DMS の多くの任意のページについてだけを読むことができます、Coliva、ハッカーなどの理由のために。それは1つの事量子力学、不確実性などからの例を使用して、世界についての奇妙なことを言うが、それは言葉の私たちの通常の使用に関連するものを言うために別のものです。

p31、36等では、S1 に適用されるように、我々は再び、「信念」、「見て」などの LG の巨大な違いにわたって光沢同じ言葉の絶え間ない問題 (哲学と生活の中で) に遭遇します、現在のみの精神状態で構成されており、S2 ではない。この章の残りの部分では、EP から、「ソーシャルグループ」に関する彼の作品をまとめています。Wittgensteinian 容赦なくであり、個人的な開発の間に普遍的に拡大される S2 の遅い処分を作り出す S1 の自動速い行動である。幅広い自動無意識のうちに他者との関係を義務、そしてそれらの文化的な変化に恣意的に。

章3から5は、私には決定的であると思われる心の機械的な見解に対する彼のよく知られている議論が含まれています。私は彼らに応答の全体の本を読んだし、私は彼らがすべての非常に単純な論理的 (心理的) ポイントを欠場することに同意します (そして、それによって、大きな、W は、コンピュータがあった前に半世紀前に作られました)。私の用語にそれを置くために、S1 は、無意識の、高速、物理的、因果、自動、非命題、真のみの精神状態で構成され、遅い S2 は、多かれ少なかれ意識的な処分である行動の理由の観点から記述することができますコヒーレント命題 (T または F) になる、またはその可能性がある動作 (潜在的なアクション)。コンピュータとその他の自然は、私たちの視点に依存している (起因する) 志向性だけを持っていますが、高等動物は遠近に依存しない一次志向性を持っています。S と W の感謝として、偉大な皮肉は、これらの唯物論または機械的に切断としてマスカレード心理学の削減-エッジサイエンス、しかし、実際には、彼らは全く抗科学的です。哲学 (記述心理学) と認知心理学 (迷信から解放された) は、手袋の手になりつつあり、それは寒さの中に放置されている・ホフスタッター、デネット、カルーサーズ『、カーツワイルなどです。

ページ62彼の議論の1つをうまく要約するが、p63 は、彼が S2 の文化的な拡張の面で社会の動向を説明しようとする、彼はまだかなり白紙を手放すことがないことを示しています。彼は彼の執筆の他の多くの場所で行うように、彼は行動主義のための文化的な、歴史的な理由を与えるが、それは私には非常に明白なようです (それは W のように) ほぼすべての行動と同じ理由のために心の機械的な見方が存在すること-それは私たちの EP これは、我々が意図的にゆっくりと考えることができるものの観点から説明を求めています、ではなく、我々は主に忘れていた自動化された S1 ではなく、.上で述べたように、サールはこれを TPI として説明している。再び、p65 では、私たちの公理的継承心理学の W の説明を見つけると、その彼の OC や他の作品の拡張機能は、S の (または誰の) よりも深くなるように、私たちは犬が意識されていることを「自信」ではありませんが、むしろそれは疑いにオープンではありません。OC および DMS を扱うこの資料の前のセクションを参照

して下さい。

第5章うまく覆す CTM、ロットなど、「computation」「情報」、「構文」、「アルゴリズム」、「論理」、「プログラム」などは、観察者の相対的な(すなわち、心理的)用語であり、物理的または数学的な意味を持たない(COS) この心理的な意味では、もちろん、彼らは科学が開発したとして最近与えられている他の感覚があります。繰り返しますが、人々は魅せられるの使用によってその使用におけるその広大な違いを無視することに同じ言葉(意味).これらのコメントは、古典的なウィトゲンシュタインのすべての拡張であり、この接続で、私はハツのと読むの論文もお勧めします。

第6章「現象学的錯覚」(TPI)は、はるかに私のお気に入りであり、その分野を解体しながら、それは彼の最高の論理的能力と後のWの両方の完全なパワーを把握するために彼の失敗、および最近の心理学の大きなヒューリスティック値の両方を示しています2つの自己についての研究。それは、TPIがS1の作り出すにobliviousnessに起因していることを結晶として明らかであり、唯一のプライマリではないとしてS2の遅い意識的思考を取っているすべてがあります。これは古典的なブランクスレート失明です。Wが示したことは明らかであるこれは、いくつかの60年以前、また、私たちの生来のシステム1の真の無意識の自動公理的ネットワークの優位性でそのための理由を与えました。他の多くのように、サールはその周りに踊りますが、全くそこにはありません。非常に大まかには、S1としての世界の「オブザーバー独立」の特徴とS2として「オブザーバー依存」機能について非常に明らかにする必要があります。Sノートとして、ハイデガーと他のものは、正確に後方のオントロジーを持っていますが、もちろん、そのEPのデフォルトに起因するほとんどすべての人を行います。

しかし、本当に重要それは、TPIが単に少数の哲学者の失敗ではなく、epに組み込まれている私たちのEPに普遍的な盲目であることを実現するための次のステップを取らないということです。彼実際の状態これは、ある時点で、ほとんどこれらの言葉で、しかし、彼は本当にそれを得た場合、どのように彼は世界のためにその巨大な含意を指摘するために失敗することができます。まれな例外(例:ジャイナTirthankarasはインダス文明の始まりに5000年をかけて、そして最も最近そして著しくOsho、仏、イエス、達磨、ダ・フリー・ジョンなど)、私たちは地球を破壊するために私たちの遺伝的にプログラムされた使命に生命を介してつまずきのすべての肉人形です。S1の乳児の受け手をふけるために第二の自己S2人格を使用して、私たちのほぼ合計没頭は地獄を作成していますに地球。すべての生物と同様に、それは再生とそのためのリソースを蓄積についてのみです。はい、地球温暖化と産業文明の差し迫った崩壊についての多くの騒音は、次の世紀、しかし、何もそれを停止する可能性があります.S1はplayを書き込み、S2はそれを動作させます。ディックとジェーンはちょうど家をプレイしたい-これはママこれとこれとこれは赤ちゃんです。おそらく、TPIは我々が人間であり、別の霊長類ではないと

言うことができます。

第7章自己の本質については良いが、何も新しいものとして私を襲った。第8章プロパティ二元論は、彼の以前の作品のほとんどが焼き直しであるにもかかわらず、はるかに興味深いです。上記の彼のオープニングの引用符の最後は、これを合計し、もちろん最初の重要な性質に対する主張-人のオントロジーは完全に Wittgensteinian。私が見る唯一の大きな失態は、彼の空白のスレートまたは (文化) 二元論のエラーのための p 158 の説明のタイプです。私のビュー、それは明らかに、TPI の別のインスタンスであります-彼 (そして、ほとんどすべての他の人) が何度も行った間違いであり、それ以外の場合はすばらしい第9章で、p177 などでも繰り返されます。(主に) S2 を介して肉人形の弦 (筋肉を収縮) を引っ張る遺伝子プログラム S1。ストーリーの終わり。再び、彼は私のコメントまたは W の DMS のものを読む必要がありますOcそこで彼は、p171 の一番下にある「信じるべき正当な理由」と、p172 の一番上にある「知っている」(真のみの意味で)を変えます。

重要なポイントは、p169 で再び行われます。「したがって、何かを言って、それは満足の2つの条件を含む意味します。第1に、発話が生成されるという満足の状態、および第2に、発話自体が満足の条件を有するものであることを示す。これに関する一つの方法は、無意識の自動システム1は、システム2のより高い皮質意識の人格を活性化し、それが潜在的にそれをコミットする特定の method で世界を見ていることを他の人に知らせる喉の筋肉の収縮をもたらすことですアクション。不成立または原始の上の巨大な前進-総筋肉運動だけが意図についての非常に限られた情報を伝えることができた言語相互作用は、S は第10章で同様の点を作る。(主に) S2 を介して肉人形の弦 (筋肉を収縮) を引っ張る遺伝子プログラム S1。ストーリーの終わり。再び、彼は私のコメントと DMS のものを読む必要があります。Coliva、アンディ・ハミルトンなど、W の OC では、彼は p171 の下部にある「信じるべき正当な理由」と p172 のトップは、「知っている」(真のみの意味で)を変更します。

彼の最後の章「命題の単一性」(以前未公開)はまた、彼らが S1 と真または偽を説明する真の唯一の文の違いを明確にするように、W の「確実性」または DMS の様々な書籍や論文を読むことから大きな恩恵を受けるだろうS2 を説明する命題。これは、S2 でそれらについて考え始めた後、彼らは唯一の T または F になるので、S1 の知覚を命題として S's のはるかに優れたアプローチとして私を打つ。しかし、その命題過去と将来と幻想の実際または潜在的な真実と虚偽のステートメントを許可し、したがって、前または原始的に大きな前進を提供します-言語社会は説得力。彼はそれを述べているように "命題は満足の状態を決定することができるすべてのものです...そして満足の条件...そのようなものがそうであるということです。または、場合によっては、その可能性があるか、または想像されるかもしれない、追加する必要があります。

全体として、PNCは、Sの半世紀の仕事に起因するウィトゲンシュタインを超える多くの実質的な進歩の良い要約ですが、私の見解では、Wは、彼が言っていることを理解すると、まだ比類のないです。理想的、彼らは一緒に読む必要があります: Wのperspicaciousの例と華麗な格言で示された明確な一貫性のある散文と汎化のためのサール。もし私がずっと若い私はそれを正確に行う本を書くだろう。

「だから、ステータス機能は、社会をつなぎ合わせる接着剤です。彼らは集団的志向性によって作成され、彼らは義務の力を運ぶことによって機能します...言語自体の重要な例外として、すべての人間の文明は、宣言の論理的な形式を持っているスピーチ行為によって作成された意味で、すべての制度の現実とそのため。人間の制度的な現実のすべてが作成され、存在下で維持(と同じ論理形式を持つ表現)ステータス関数の宣言, 宣言の明示的な形式ではない場合を含む."

サール MSWp11-13

「信念は、文のように、下向きまたはマインド(または単語)-世界の方向のフィット感を持っています。そして、欲望や意図は、注文や約束のように、上向きまたは世界に心(または単語)の方向にフィットします。信念や認識は、文のように、物事が世界にどのようにあるかを表すことになっている、その意味で、彼らは世界に合うことになっている。彼らは、心から世界へのフィットの方向を持っています。意欲-意志のような欲望、事前の意図と行動の意図として、注文や約束のような、世界に心の方向のフィット感を持っています。彼らは、物事がどのようにしているのかを表現することになっていません。これらの2つの学部に加えて、3番目、想像力、命題コンテンツは、認知と意志の命題内容が収まるようになっているように現実にフィットすることになっていないもので...世界に関連するコミットメントは放棄され、我々はそれがフィットのいずれかの方向で表すことを約束することなく、命題のコンテンツを持っています。サール MSWp15

「意図的な状態と同様に、我々は州のタイプを区別することができます...そして、状態の内容...だから、言語の理論では、我々は、それがああるスピーチ法の種類の区別を行うことができます...そして、命題のコンテンツ...我々は、意図的な状態の場合には異なる心理的なモードと同じ命題コンテンツを持っています、そして、異なる発語内力またはタイプのスピーチ行為の場合。さらに、私の信念は真または偽であることができ、したがって、心から世界への適合の方向を持っているように、私の文は真または偽であり、したがって、フィットの単語に世界の方向を持っていることができます。そして、私の欲望や意図が真実でも虚偽であっても、様々な方法で満足したり不満を感じたりすることができないように、私の命令と約束は、真実でも虚偽でもなく、様々な方法で満たされたり、不満であったりすることはできません-wholを持つすべての意図的な状態e 命題の満足の条件の表現としてのコンテンツとフィットの方向。信念は、その真実の条件を表します、欲望は、その履行条件を表します、意思はそれを表します'条件を実行しています...意図的な状態は満足の条件を表しています...人々は誤ってすべての精神的な表現が意

識的に考えなければならないと仮定します...しかし、私がそれを使用しているような表現の概念は、機能的であり、存在論的概念ではありません。志向性の特徴である方法で成功または失敗することができる満足の条件を持つものは何でも、定義により満足の条件の表現...社会現象の志向性の構造を、その満足度を分析することで分析することができます。 サール MSW p28-32

「最初の4つのタイプのスピーチ行為は、意図的な状態の正確な類似体を持っています: に対応します Assertives は、指令に対応する信念が欲望であり、Commissives は意図であり、それに対応する Expressives は、感情やその他の意図的な状態の全範囲です。Presupfit は当たり前のことだ。しかし、宣言のための不成立アナログはありません。不成立意図的な状態は、すでに存在する事実を表すことによって、世界に事実を作り出すことができません。この驚くべき偉業は、言語を必要とする "MSW p69

「話し手の意味...満足の条件に対する満足の条件の賦課である。これを行うための能力は、人間の認知能力の重要な要素であります。それは、言語の使用のために不可欠である方法で、一度に2つのレベルで考える能力を必要とします。1つのレベルでは、スピーカーは意図的に物理的な発話を生成しますが、別のレベルでは発話が何かを表します。そして、同じ双対性がシンボル自体に感染する。1つのレベルで、これは、他のような物理的なオブジェクトです。別のレベルで、それは意味を持っています: それは事務の状態のタイプを表しています "MSW p74

"...あなたが言語を持っていると、あなたが明示的なスピーチ行為を行うことができる方法がないので、あなたが持つを持っていることは避けられません con に従って実行ventions のない言語のコミットメントの作成。これは、声明のためだけでなく、すべてのスピーチの行為のために真実である "MSW p82

これは W で顕著であるが、S によって否定される別のポイントをもたらします、我々ができることはすべて、理論ではなく説明を与えることです。S は理論を提供していると主張しているが、もちろん「理論」と「記述」は言語ゲームであり、私には S の理論は通常 W の説明であり、他の名前によるバラであると思われる。W のポイントは、我々はすべて私たちの行動の真のアカウントであることを知っている perspicacious の例に固執することによって、我々はすべての行動 (すべての言語のゲーム) を考慮しようとする理論の流砂を避けるため、S は一般化したいと必然的に迷う (彼は与える PNC の彼自身の過ちのいくつかの例)。S や他の人が延々と多種多様な言語のゲームを考慮して彼らの理論を変更するように、彼らは、W として数多くの例によって行動を記述することに近づき、近づきます。

第一言語ゲーム (PLG) は、私たちの不随意、システム1、高速思考、ミラーニューロン、真のみ、非命題、精神状態による単純な自動化された発話である-私たちの認識と記憶と再帰的な行為 (「意志」) システム1の真実を含むそして、UA1 の理解

--Emotions1、愛、怒り、因果関係について説明することができるような、進化的後の二次言語のゲーム (SLG の) は、自発的な表現または説明である一方、システム2、スローシンキング、mentalizingニューロン、テスト可能な真または偽、命題、Truth2 と UA2 と Emotions2-楽し、愛情、憎むこと、対価 (そしてしばしば試算) を想像し、仮定し、意図し、思考し、知っている、信じて、などの点でのみ説明することができます理由の (すなわち、神経化学、原子物理学、数学の観点からシステム2を記述しようとするという事実は、ちょうど意味をなさない--多くの例のために W を見て、この上で良い disquisitions のためにサールを参照してください) 。

システム1の作り出すを説明することはできません、理由の観点から (例えば、「私はリンゴとしてそれを参照してください」) あなたが EP、遺伝学、生理学の面で理由を与えたい場合を除き、W が繰り返し実証しているように、「説明」を与えることは無意味です彼らが将来に意味をなすことを条件に、「何も隠されていない」--彼らは今、または決して意味をなさない。

強力なヒューリスティックは、行動と経験を志向性1と志向性2 (例えば、思考1と思考2、感情1と感情2など) に、さらには真理1 (Tのみ公理) と真理2 (経験的拡張または真理の論理的な拡張から生じる「定理」1)。W 「何も隠されていない」ことを認識している-すなわち、私たちの全体の心理学とすべての哲学的な質問へのすべての答えは、私たちの言語 (私たちの人生) にここにあり、難しさは答えを見つけることではなく、常にここで私たちの前に、それらを認識することではもっと深く見ようとするのをやめる。

ここでのアイデアはすでに公開されており、サールの作品を維持している人には驚きとして何も来ることはありません。

私は、W が心と言葉のつながりをよりよく理解していると感じています。多くの文脈で同義であり、彼の作品は多数の perspicacious で例示されたような心の輝かしい博覧会である言語使用の例。上に引用されているように、「今、私たちが懸念している因果関係でなければ、心の活動は私たちの前に開かれます。一つは、私たちの概念 (言語ゲーム) の因果関係または自由意志の任意のリビジョンが必要または可能であることを否定することができます。あなたは理由のために W のちょうど約任意のページを読むことができます。量子力学、不確実性などからの例を用いて世界についての奇妙なことを言うことは一つのことですが、それは言葉の私たちの通常の使用に関連するものを言うために別のものです。

義務の構造または「社会的な接着剤」は、自動無意識の普遍的な文化的義務の関心の広い配列に個人的な開発の間に拡大さ容赦なく S2 の遅い処分を作り出す S1 の自動速い行為であるその他 (S3)。これは私の précis の振る舞いですが、S の作品をかなり記述していると思っています。

心の機械的な見方があるということは、私にはかなり明白に思えるほぼ同じ理由ですべての動作-それは我々が意図的にゆっくりと考えることができるものの観点から説明を求める私たちの EP のデフォルトの動作であり、そのうち、我々は主に忘却 (TPI) のままである自動化された S1 ではなく。私は、私たちの公理的を継承した心理学と彼の OC と他の第3の期間での拡張機能の W の説明は S の (または誰の) よりも深いことを見つけるので、我々は犬が意識されていることを「自信」ではなく、むしろそれは (不可能ではありません) 疑い

それでは、「社会の世界をつくる」という、社会を共にする「社会的グルー」の論理構造について、サールの長年の仕事についての素晴らしい要約を見てみましょう (2010)。

何年も前に S が導入した重要な概念は、満足の条件 (COS) です。私たちの考え (S2 の命題) は、傾斜として、または行動する処分と呼ばれる、多くの人による不適切な用語「命題態度」によってまだ呼ばれています。COS は、PNC の p169 上のような多くの場所で S によって説明されています:「したがって、何かを言って、それは満足の2つの条件を含む意味します。第1に、発話が生成されるという満足の状態、および第2に、発話自体が満足の条件を有するものであることを示す。PNC で述べているように、「命題は満足の状態を決定することができるすべてのものである。そして満足の条件...そのようなものがそうであるということです。または、それを追加する必要があるかもしれませんが、彼は MSW で明らかにするように、ケースとして想像するかもしれません。意図に関しては、「満足するためには、意図自体が行動の生産において因果関係に機能しなければならない」。(MSWp34)。

彼らは S1 と S2 を記述する真または偽の命題を説明する真のみの文の違いを明確にするようにほとんどは、W の「確実性」または「RPP1 と 2」または OC 上の DMS の2冊の本を読むことから大きく恩恵を受けます。これは、S1 の知覚を命題 (少なくとも彼の作品のいくつかの場所で) として捉えることができるので、S2 でそれらについて考え始めると、T または F (アスペクトはここでそれらと呼ぶ) になるため、はるかに優れたアプローチとして私を襲う。しかし、PNC の彼のポイントは、命題は、過去と将来と幻想の、実際または潜在的な真実と虚偽のステートメントを許可し、したがって、前または原始的に大きな前進を提供することを意味します-言語社会は説得力。

S は、多くの場合、1つのイベントの説明のさまざまなレベルに注意する重要な必要性を説明します,だから、IA (行動における意図) については、「我々は、1つのレベルが下位レベルでの行動によって構成されている記述の異なるレベルを持っています...関係の方法による構成に加えて、我々はまた、関係の手段によって因果を持っています。(p37)。

だから、S1を認識することは、上向きの因果とコンテンツ(欠けている“表現”または“情報”S2は“コンテンツ”そして下向きの因果である(例えば、ハッを参照してください。ミャーの'ラジカルEnactivism')私はp39から段落を変更します"合計で"と終わるPg40「満足の状態」とは以下の通りである。

合計で、知覚、記憶、および再帰の意図と行動(「ウィル」)は、S1の真のみの公理的EPの自動機能によって引き起こされます。私たちは、事前の意図と行動の意図を通じて、自分がどのように考えているのかということをもどのように望んでいるかを一致させます。私たちは、信念、欲望(と想像力-欲望時間がシフトし、意図から切り離されている)と私たちの遅い思考の他のS2命題の処分は、後で第二の自己を進化し、完全に依存していることがわかります((COS)CSR(因果関係自己再帰)高速自動プリミティブ真のみ再帰S1.言語とおそらく神経生理学では、中間または混合されたケースのような意図(前の意図)または覚えている、COSとの因果関係(すなわち、S1と)は、時間がシフトされている場所、彼らは過去または将来を表すように、S1とは異なり、常に現在にあります。2つのシステムは互いに供給し、は、多くの場合、学習した義務の文化関係によってシームレスに調整され、通常の経験とは、私たちが行うすべてを意識的にコントロールすることです。私たちの人生を支配する認知錯覚のこの広大なアリーナは、「現象学的錯覚」として記載されています。

彼は多分彼の執筆で10回目を繰り返すことによって、この驚くべき章を終了します、私は彼がほぼすべての人と共有する非常に基本的な間違いとして何を考えます-「自由意志」の経験は「錯覚」かもしれないという概念、それは、Wの第3の期間の仕事と現代の心理学の観察から、非常に簡単に容赦ないなファッションに続き、「意志」、「自己」と「意識」は、ちょうど見て、聴覚などのように、システム1の真の要素を公理的にしていますそして、彼らの偽りを(意味を与えることの)示すことの可能性(明瞭さ)はありません。Wは何度も素晴らしくはっきりとしたので、判断の根拠となるので判断できません。Sは、基本的に他の文脈(例えば、懐疑論、独我論)で、この同じ引数を理解し、使用するので、彼はこの類推を見ることができないことは非常に驚くべきことです。彼は私たちの犬が「良い証拠」を持っているというようなことを言うとき、彼は頻繁にこの間違いを犯す意識など。私たちの心理学の真の公理は証拠ではありません。ここではの1つ最高の記述心理学者sW,だから、これは愚かな間違いではありません。

の彼の要約deonticsp50には翻訳が必要です。したがって、「あなたは、言語の形態が構築されている集団志向性の不成立の形を持っている必要があります、あなたはコミットメントを行うために、会話の集合的な志向性を持っている必要があります"で補われた場合は、はるかに明確である"S1の不成立 axiomatics は、彼らの文化的な兆候に私たちの成熟中に進化 S2(すなわち、私たちのEP)の言語の性質の根底にあります。

ステータス関数の宣言は、**deontics**それらを理解することが重要であり、彼はここで関連する「機能」の概念を説明します。「関数は目的を果たす原因です...この意味では、関数は志向性相対であり、したがって心に依存しています...ステータス機能...必要。。。一括賦課とステータスの認識" (p59)。

再び、私は、「言語の志向性は、によって作成されます」の翻訳をお勧めします人間の本質的、または心に依存しない志向性「(p66)」としての言語、意識 **dispositionality**^{S2} のは、**S1** の無意識の公理的再帰関数 (p68) によって生成される。つまり、行動が生物学によってプログラムされていることを念頭に置いておく必要があります。

しかし、私は、**S1** (すなわち、記憶、知覚、反射行為) が命題 (すなわち、真-偽) 構造を持っていることを **p66** と彼の著作の他の場所で彼の発言に強く反対します。私が上記で述べたように、他のレビューで何度も、それは **W** が正しいことを明確に思える、とそれは **S2** のみが命題であり、**S1** は公理的と真のみであること、動作を理解するための基本的なものです。**S1** の遺伝的、公理的志向性が **S2** のそれを生成するので、それらは両方とも **COS** とフィットの方向を持っています、しかし、**S1** が同じ意味で命題されれば、懐疑論は理解できるということになり、**W** が戻る前の哲学であった混沌が、で実際に社会人生(そして、おそらくすべての動物の生活は、「命題」として何についてに応じて)できません。**W** は無数の時間を示し、生物学はそう明確に示すように、生命は確実性に基づいている必要があります—自動化された無意識の急速な反作用。常に疑いを持っていて、それを反映するために一時停止する有機体は死ぬ(進化することはできませんでした)。

彼のコメントに反して (**p70**) 私はそれがオブジェクトに世界をセグメント化し、言語のように、ビジョンの最初で最も基本的なタスクであるため、私はそれを見ることのできない視覚的なシステムを想像することができます以上の材料オブジェクトのための言葉を欠いている言語を想像することはできませんそれらを説明します。同様、オブジェクトが意識的な分野で顕著であることや、文章が単語に分割されていることに問題はありませぬ。私たちの進化の歴史を持った人間にとって、それはどうしてですか?

p72 や他の場所では、表現は **S1** の原始再帰的な **PLG** であり、表現は **S2** の対価 **SLG** であることを覚えておくのに役立ちます。

からの別の翻訳 **Philosophese**^{p79} の第2段落は、「これまでのところ」を開始し、「前に聞いた」を終了するために、英語に必要です。「私たちは、文の中の単語で構成される公の言語を構文で話すことによって意味を伝えます。

言語と執筆の特別な性質についての **p105** の彼の質問4と5に、私は答えます: 「彼

らは、ボーカルの筋肉の振動の短波長ははるかに高いことができますので、彼らは特別です帯域幅情報転送他の筋肉の収縮よりも、これは視覚的な情報のために、平均して桁違いに高いです。

質問2に対する一般的な答え (p106 についてはどうすればよいのでしょうか。それは動作しますか) は、EP と S1 と彼の声明 "この本の博覧会の私の主な戦略は、ファミリーを作るしようとしています。iar は奇妙で印象的なようだ" はもちろん古典的なウィトゲンシュタインです。次のページの彼の主張は、人々が機関を受け入れる理由に対する一般的な答えはないことが明らかに間違っています。彼らはすべてを行うのと同じ理由でそれらを受け入れます-彼らの EP は、包括的なフィットネスの結果です。それは、EEA (進化的適応の環境) における生存と生殖を促進しました。私たちについてのすべてが物理的および精神的にボトムアップ遺伝学で。ここでの漠然とした話 (例えば、p114) と「余分な意味的のセマンティクス」は、実際にはEP、特に S1 の無意識の作り出すに言及しています。すべての行動の基礎である。はい、W が何度も言ったように、最も身近なのはその理由が見えないことです。

言語がゲームに不可欠であるという S の提案 (p115) は間違いない。完全に読み書きの不自由な方は、カード、サッカー、チェスでもプレイできますが、もちろん最小限のカウント能力が必要です。私は、ふりをし、想像する能力 (例えば、時間と空間のシフトに関与する試算または p121 の概念) が、完全な形で、ユニークな人間の能力であり、高次の思考にとって重要であるということに同意します。しかし、ここでも、多くの動物の前駆体があります (存在しなければならないように)、このような儀式的戦闘と交尾の踊りのポーズなど、によって交配サイトの装飾、母鳥の壊れた翼の見せかけ、猿の偽のアラーム呼び出し、「クリーナー」魚を取る彼らの獲物と多くの動物のタカと鳩の戦略 (詐欺師) のシミュレーションをかむ。

合理性 (p126 et seq) についての議論には、より多くの翻訳が必要です。思考は命題であり、真または偽の「作為実体」を扱うということは、S1 の真のみの自動認知機能とは対照的に、テストすることができる典型的な S2 の性質であることを意味します。

「自由意志、合理性と制度的事実」では、彼は彼の古典的な本「行動の合理性」の一部を更新し、私が至福を見つけないことができない実用的な理由の公式の装置を記述するためのいくつかの新しい用語を作成します。「作為実体」は、処分や「動機」(欲望または義務)、「エフェクター」(体の筋肉)、「constitutor」(スピーチの筋肉)と「総理性」(すべての関連する処分)とは異なるようには思えない、少なくともここでは明快さを加えるように見える (p126-132)。

人間の行動の議論ではめったに起こらないことをここで行うべきであり、生物学を思い出させます。包括的フィットネスによる進化は、プログラムされた多くの

場合、S1によって身体および/またはスピーチの筋肉の活性化につながる行動の理由を生成するS2の意識的な遅い思考(多くの場合、S3の文化的な拡張によって変更される)を引き起こすS1の無意識の迅速な再帰的因果行動アクションを引き起こします。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域の様々なニューロモジュレーターの変化によって、これは *infelicitous* に思えるかもしれないが、でもそれは事実に基づいている美德を持っており、私たちの高次の思考の複雑さを考えると、私は一般的な説明がはるかに簡単になるだろうとは思わない。全体的な認知錯覚(S「現象学的錯覚」によって呼び出されます)は、S2は、我々は完全に認識し、制御している理由のために意識的に行動を生成しているが、現代の生物学や心理に精通している人は、このビューがないことを知っている信じ。

再び、私はいくつかの重要な概念を繰り返します。Sによって明らかにされるもう一つの考えは、欲求独立した行動理由(スラカルタ)です。私は、p127の実務上の理由の要約を次のように翻訳するでしょう:「我々は欲望に屈します(遺伝的にプログラム脳の化学を変更する必要があります)、これは典型的には、行動のための欲望独立の理由(スラカルタ--すなわち、欲望空間と時間において変位している)は、私たちの包括的なフィットネス(自分自身と密接に関連する遺伝子のための生存の増加)に役立つ筋肉運動の遅かれ早かれ生じる行動への性質を作り出す。そして、私は私たちがDIRA2を実行する方法のp129に彼の説明を言い換えるだろう(すなわち、システム2のスラカルタの言語ゲーム)「パラドックスの解決は、長期包括適合性を提供する無意識のDIRA1が、しばしば短期的個人的な即時欲求を上書きする意識的DIRA2を生成するということです。エージェントは、実際に意識的にDIRA2の直接の理由を作成しますが、これらは無意識のDIRA1(究極の原因)の非常に制限された拡張です。オバマと教皇は、それが「正しい」ので貧しい人々を助けることを望みます”しかし、究極の原因は、彼らの遠い祖先の包括的な適合性を増加させる彼らの脳の化学の変化であります(また、例えば、Neomarxist第三世界Supremacismがアメリカと世界を破壊する。

包括的な適合性による進化は、S1の無意識の迅速な再帰的因果行動をプログラムしました、これはしばしば、S1によって身体および/または音声筋肉の活性化を引き起こすアクションの理由を生成するS2の意識的な遅い思考を生じさせ、アクションを引き起こします。一般的なメカニズムは、神経伝達と脳の標的領域のニューロモジュレーターの変化によって、全体的な認知錯覚(S「現象学的錯覚」によって呼び出され、「空白のスレート」をピンカーすることによって、トゥービー『そして、「標準的な社会科学モデル」を・コズミデスは、S2が我々が完全に認識し、制御している理由のために意識的に行動を生成したが、現代の生物学に精通している人は誰でも心理学はこの見解が信用できないことを見ることができる。

したがって、私は、p127の実用的な理由の要約を次のように翻訳します:「我々は、通常、欲望(脳の化学を変更する必要があります)には、欲求独立した行動の理

由が含まれています(スラカルタ、すなわち、空間と時間に変位する欲望、ほとんどの場合、相互に利他主義)は、私たちの包括的なフィットネス(自分自身と密接に関連する遺伝子のための生存の増加)に役立つ筋肉の動きで、遅かれ早かれ結果として生じる行動の性質を作り出す。

p128 についての S のコメントに反して、私は適切に定義されている場合、スラカルタは、我々は、S1 (すなわち、DIRA1) の自動不成立反射を含む場合、我々は、(すなわち、キツネから彼女のひなを守る母編を考えて)、より高い動物で普遍的ではないと思いますが、確かに言語を必要とする S2 または DIRA2 の高次スラカルタは、ユニークな人間です。これは私が自発的に DIRA2 (すなわち、S2 欲望とその文化的な拡張) を行うことができる方法のパラドックスの p129 の下に、彼の「説明」の代替的かつ明確な説明(W は、これらは、「説明」と呼ばれるはるかに優れていることを示唆しているように思える)。それは、「パラドックスの解決は、欲望に依存しない理由の認識が欲望を粉碎し、したがって欲望を引き起こすことができるということである、彼らが行うと経験的に普遍的ではないが、彼らは「として翻訳することができる」ということは論理的に不可避ではないけれどもパラドックスの解決は、長期包括適合性を提供する無意識の DIRA1 が、しばしば短期的個人的な即時欲求を上書きする意識的 DIRA2 を生成するということである。同様、p130 のこの問題についての彼の議論のために-それは EP、RA、もし、S1 (進化心理学、相互利他主義、包摂的な適性、システム 1) の処分とそれに続く行動を ofS2。

p140 彼はなぜ我々が得ることができないのかを尋ねる deontics 生物学からしかし、もちろん、我々は他のオプションがないので、生物学からそれらを取得する必要がある、上記の説明は、これがどのように起こるかを示しています。彼の声明に反して、最強の傾斜は常に優先します(定義によって、それ以外の場合は最強ではありません)が、deonticsRA の自然なプログラミングと即時の個人をオーバーライドする場合のために動作します短期欲望。彼の自然の混乱と、S1 と S2 の育成は、p143 の結論2と3にまで及んでいます。エージェントは実際に DIRA2 の直接の理由を作成しますが、これらは、いくつかの例外、DIRA1 (究極の原因) の非常に制限された拡張機能だけではなく、何もありません。彼が本当に帰ことを意味するなら deontics 私たちの意識的な決定だけでは、彼はその名前の彼のクラシック紙に彼はとても美しく取り壊さ「現象学錯視」(TPI) を獲物にしています(PNC の私のレビューを参照してください)。上記のように、最近の研究の巨大な体があります暗黙認知について公開、私たちの人格を構成する認知錯覚。TPI は、単に無害な哲学的エラーではなく、私たちの生命と社会と世界を制御するという幻想を生み出す生物学への普遍的な obliviousness である、そして、結果は、次の150年の間に産業文明のほぼ一定の崩壊です。

彼は、人間の合理性が「ギャップ」なしには意味をなさないということを正しく指摘している(実際に3彼が何度も議論したギャップ)。それは、自由意志(すなわち、選択)なしに、些細な意味ではすべて無意味であるだろう、そして、彼は、進

化論が不必要な遺伝的でエネルギー的に高いシャレードを作成し維持することができるかと想像であるということを正しく指摘した。しかし、他のほとんどの人のように、彼は彼の方法を見ることができないので、再び彼は (p133) 選択は幻想かもしれないことを示唆しています。逆に、次の W は、選択が私たちの公理的 S1 真のみの再帰的な行動の一部であり、S1 が尋問のための基礎であるとして矛盾せずに尋問することができないことは非常に明白です。できません通常の場合あなたはそれのあなたの認識が疑うための基礎であるとして、このページを読んでいる疑い。

今、私たちは簡単にサールの最新の本をレビューすることができます、「物事を見て As 彼らは「(STATA-2015) です。詳細なコメントについては、レビューを参照してください。

いずれかの哲学から期待されているように、我々はすぐに深いトラブルにあり、4 ページには「知覚」と「オブジェクト」という用語が使われているかのように見えます。n いくつかの正常な意味、しかし、私たちは哲学をやっている、だから我々は、言語のゲームの間で前後に起伏されるつもりですと私たちの日常のゲームを様々な哲学的ものと区別するチャンスはありません。再び、ベネットとハッカーの「神経科学と哲学」または「神経科学の哲学的基礎」のいくつかを読んで、これを感じてもらうことができます。残念ながら、ほぼすべての哲学者のように、サール (S) はまだ 2 つのシステムを採用していないフレームワーク、だから、必要以上に物事をまっすぐに保つことははるかに困難です。

p6 では、信じてアサートすることは、言語、審議、遅い、正確な出現時間がないシステム 2 の一部です。、そして、「雨が降っている」というのは、彼らの満足 (COS2) の公共の状態 (ウィトゲンシュタインの他動詞) であり、すなわち、それは命題であり、表象的であり、精神状態ではなく、我々は、視覚的経験 (VisExp) はシステム 1 なので、雨が降っている (COS1 である) こと、および発生の確定時間があること (明瞭度、正気のために) を必要とするので (通常は 500msec 以下)、nontestable (ウィトゲンシュタインの真のみまたは自)、および非パブリック、自動、および言語ではありません、すなわち、命題および表現ではなく、精神状態の原因の点でのみ記述である。にもかかわらずのこれは、恐ろしい (しかし、まだ非常に人気のある) 用語「命題態度」を破砕した後、p7 に、彼は知覚が命題コンテンツを持っていると言うが、私は S1 が真のみであり、したがって S2 の感覚のようなもので命題することはできません W に同意します命題は公共の駈tements (COS) が真または False。

p12 では、彼はシステム 1 (S1) の自動性を記述していることに注意してください、そして、彼は世界を説明するために、我々は唯一の説明を繰り返すことができることに注意してください、どの W が言語の限界を示していると指摘した。p13 の段落の真ん中の最後の文は、(哲学のほとんどのように) 翻訳を必要とするので、「

主観的な経験は、哲学者が意図的なコンテンツを呼び出すコンテンツを持っており、意図的なコンテンツの仕様は同じです意図的な内容があなたに提示する事務の状態の説明など」私は、「知覚はシステム2の公開言語でしか記述できないシステム1の精神状態である」と言います。そして、彼は私たちの知覚の記述のそれと信じるの記述の等価性を再び言及することによって終了すると、彼は何を繰り返している W は、長い前に指摘,そして、これは S1 が頼るであるという事実によるものであり、それを記述すること、信じること、知ること、期待することなどは、同じ言葉で演奏されるすべての異なる心理的または意図的なモードまたは言語ゲームです。

p23 では、彼は個人的な「経験」を指しますが、言葉は S2 であり、公共のイベントを記述するので、「私的な経験」(すなわち、S1)のための単語の使用を保証するものは、彼らの公的な症状 (S2)、すなわち、我々はすべての公的行為を記述するために使用する,自分にとっても、私は内部の何かに言語を添付する方法はありません。これはもちろん、プライベート言語の可能性に対する W の議論です。彼はまた、X の幻覚が X を見るのと同じであることを数回言及しました,しかし、我々は同じ言葉を使用する傾向があることを除いて、これのためのテストすることができますか?この場合,彼らは定義によって同じ,だからこの引数は中空になります。

p35 上では、彼は再び正しく、文に対する態度ではなく、その公 COS への態度(処分)である「命題態度」の使用を攻撃する、すなわち、事実またはtruthmaker。「例えば、私の目の前に男がいたら、その中身は、私の前に男がいるということです。その目的は、その人自身である。私に対応する幻覚を持っている場合、知覚体験にはコンテンツがありますが、オブジェクトはありません。コンテンツは、まったく同じ2つのケースでは、コンテンツの存在は、オブジェクトの存在を意味するものではありません。私が見る方法は、「オブジェクト」は、通常、世界であり、精神状態 (S1)を作成し、我々は言葉でこれを置く場合、それは COS2 と S2 になります (すなわち、公共truthmaker) そして、これはパブリックオブジェクトを伴いますが、幻覚 (または直接脳刺激など)のために、「オブジェクト」は、脳の活性化に起因する同様の精神状態です。

W が私たちに示したように、大きな間違いは知覚を理解することではなく、言語を理解することであり、哲学のすべての問題はまったく同じ—明確な COS を生成するために、特定のコンテキストでの言語の動作を注意深く見ることができません。

p61 の真ん中に我々は、我々は S1 と S2 を別々に保つために失敗したときにここで、どこでも発生する混乱を参照してください。我々は S1 の表現を参照してはならないか、少なくとも R1 を呼び出し、彼らは公 COS を持っていないことを実現する必要があります-COS2.

p63 nondetachability では、S1 の自動機能が原因であり、S2 の推論された自発的な機能ではないことを意味します。この議論は次のページに続きますが、もちろん、本全体と哲学のすべてに関連しており、サールと行動科学のほぼすべてが21世紀に入り、2つのシステム用語を使用することができないのは残念です。非常に多くの不透明な問題をレンダリングする非常に cI 耳。同様に、それは常にそれが科学的であるかどうかの問題であることを把握するための失敗と問題または哲学的なものとして哲学的であれば、どの言語のゲームが再生されるつもりであり、どのような COS は、問題の文脈にあります。

p64 では、彼は '経験' は彼の頭の中にあるが、それはちょうど問題である-W は、プライベート言語がないように明確にしたように、ベネットとハッカーがタスクに全体の神経科学コミュニティを取るように、通常の使用で「経験」は、私たちが共有するための公共の現象ですe の基準は、私の頭の中で経験を持っている私のためのテストは何ですか?少なくとも、ここにはあいまいさがあり、他の人にもつながります。多く考えるこれらは関係ありません、多くは彼らが行うと思います。何かは脳で起こるが、それは科学的な神経生理学的問題であり、確かに「経験」または「私はウサギを見た」1は、神経生理学を意味することはありません。明らかにこれは問題ではない科学調査が、単語分かりやすく使用しての一つ。

p65 indexical、nondetachable、および表現は、2つのシステムを採用していない人々によってシステム1の代わりに使用される、より哲学的な専門用語ですフレームワーク動作を記述するために(すなわち、ほとんどすべての人)。同様に、以下のページでは、「物と状態」、「視覚体験」、「完全に確定」などということを理解していれば、COS が何であるかを決定しなければならない言語ゲームであり、S1 と S2 のプロパティをすべて終了するという念頭に置いているだけです明らかにし、サールと他の誰もが'に苦勞を停止することができますエクスプレスそれ。したがって、(p69)「現実には確定的である」というのは、認識が S1 であり、精神的な状態であることを意味します、ここで今、自動、因果、検査不能(真のみ、すなわち、公共テスト)など信念は、すべての処分のように S2 であり、精神状態ではないので、明確な時間を持っていない、理由を持っていない原因は、COS などでテスト可能です。

p70 では、知覚の行動の意図(私の用語では IA1)は、再帰的になっている S2 行為(私の用語では S2A)に由来する可能性がある S1 (私の用語では A1)の再帰行為の一部であることに注意してください。

p75 の上に p74 の底に、500ミリ秒は、多くの場合、見ている S1 と as (S2) の間の近似分割線として取られます、つまり、S1 は S2 の高次皮質センターに知覚を渡し、そこでは言語で熟考して表現することができます。

p100-101 では、「主観的視野」は S2 で、「客観視野」は S1 であり、S2 では「何も見られない」ということは、S1 と実際の哲学と科学の良いチャンクと同じ感覚で見ている言語ゲームをプレイしないことを意味します (例えば、物理学) は、彼らが言語ゲームをプレイしていて、科学をしていないことに気づいた場合、異なるでしょう。

p107 の「知覚は透明である」言語は S2 であり、S1 には言語がないため、自動および再帰的なので、だから私が見たものを言うとき、または私が見たものを説明する、私は「猫を見た」としか言えません。もう一度、W は、言語の限界を示すように、これをずっと前に指摘しました。

P110 ミドルは翻訳する必要があります SearleSpeak に TwoSystemsSpeak だから、「表現ビジュアル志向性は表現の亜種であり、すべての表現は、側面の下にあるので、視覚的なプレゼンテーションは、常にいくつかの側面の下で、他の人ではなく、満足の条件を提示します。「S1 の知覚は、パブリック COS を持っている S2 に自分のデータを提示するので、我々はそれがまた、パブリック COS を持っているかのように S1 の話をすることができます。p111 において、「条件」とは S2 の公 COS を指し、すなわち、ステートメントを真または偽とするイベント、および「より低い順序」と「高次の順序」は S1 と S2 を指す。

p112 モビルでは、S1 に筋肉を収縮させ、低レベルの知覚に戻すことによるのみ行動を起こすことができる S2 にデータを供給するので、基本的な行動と基本的な知覚は同一である P1 としてより高いレベル知覚 P2S1 と S2 を記述する言語は 1 つだけであるため、同じ用語でのみ記述できます。彼は 2 つのシステムを採用する場合 p117 底にそれははるかに少ない神秘的であろうフレームワーク、だから、満足の条件 (私の COS1) との「内部接続」の代わりに、知覚はちょうど S1 の自動性として注目されます精神状態を引き起こす。

p120 では、「因果鎖」には説明力がないという点があります。の言語ゲーム'原因'のみ S1 や自然の他の非心理的な現象で意味を作る、セマンティクスは S2 であり、我々は唯一のより高いオードの理由を話すことができます分かりやすく er 人間の行動。片道これマニフェスト他の言語のゲームで私たちを enmeshes 「意味は頭の中ではありません」です。

p121 では、それが COS1 (「経験」) を持っている知覚に不可欠だと言うことは、単に知覚の言語ゲームの条件を記述している-それは、自動因果精神状態であります (P1) システム 1 といえは。

p 122 私は「最初に、幻灯客観的な世界で何かが赤になるためには、このように、それは幻灯の主観的視覚体験を引き起こすことができるようにするためであると思います。「これ」を参照できるものは何もないので、コヒーレントではありません

せん。それは「まず、赤になるためには、それが「赤」と呼ぶために私を傾けているためだけのものですよ。いつものように、専門用語はまったく役に立ちませんし、段落の残りの部分も不要です。

p123 では、「バックグラウンドディスポジション」は、S1 の自動、因果、精神状態です、私としては、W との契約で、DMS と他の人は何度も言っている、これらは、無意識に前提の基礎である「ヒンジ」を活性化しているので、「前提」と分かります。

セクション VII と VIII (または全体の本またはより高い順序の行動のほとんどまたは狭い意味での哲学のほとんど) は、「因果の相互作用を記述する言語ゲーム、自動、頼るの一過性の精神状態を推論し、「S2 の意識的、持続的な言語的思考」と背景は推量ではなく、当然のことである。しかし、それはすべての仮定の根底にある公理的の真のみの心理学 (「ヒンジ」または「確実に」の「行動の仕方」) です。私のコメントから明らかのように、私は、2つのシステムフレームワークと OC での W の洞察力を欠いている全体のセクションは、それが最高のどのように知覚の言語が様々に動作するかを記述することができます知覚の「説明」を提示した場合に混乱していると思いますコンテキスト。「red」という単語がどのように使用されているかを記述することができ、それが終わりであり、このセクションの最後の文については、「red apple」になるためには、通常、同じ単語がすべての人によって使用されているということになります。

ヒンジといえば、それは悲しいとサールは何を組み込まれていないことを少し奇妙です多く ((例: DMS(ダニエル Moyal-Sharrock (24) 著名な現代哲学者とリーディング W エキスパート)) 現代哲学における最大の発見として、W の「確実性」における認識論の革命、誰も時代遅れを見ずに、もはや古い方法で哲学や心理学を行うことができますようにそして混乱している。そして、サールはほぼ完全に「確実に」彼の全経歴を無視しましたが、2009 (すなわち、本書の出版の6年前) に、彼は英国のウィトゲンシュタイン協会が主催し、DMS によって開催されたシンポジウムで話しました、従って、彼は確かに公転を持っている見解を知っています彼は非常に話題を tionized ここで議論。私はこの会議が公開されたとは思わないが、彼の講義は Vimeo からダウンロードすることができます。新しいトリックを学ぶことができない古い犬のケースのようです。彼はおそらくウィトゲンシュタイン以来誰よりも高次の行動の記述心理学でより新しい領土を開拓してきたが、(おそらくピーターハッカーを除いて、その文章はかなり密であるそして彼の3冊の人間の本性は非常に最近)、一度彼が学んだことパス私たちのすべてのように、彼はそれにとどまる傾向があります。みんなのように、彼はフランス語を使っている レポートリーここでは発音しやすいですそして、英語の単語「レポートリー」と厄介な「彼/彼女」または逆性差別は、1つが常に「彼ら」または「それら」を使用することができたときに「彼女」を綴る。それにもかかわらず彼らの高い知性と教育、学者はあまりにも羊ですそして、彼らはほとんどすべての下位クラスのセミ literates

は悪い英語にだけでなく、になります、にNeomarxist第三世界至上主義者ファシズム

章の最後のセクション IX は、S1 の特性 (すなわち、「主な資質」を記述するために使用される言語ゲームをプレイするために) を記述しようとするときに強制される非常に不透明で厄介な言語ゲームを再び示しています、これらの fe のデータを S2 (すなわち、二次品質) に変換してから、S1 にフィードバックしてアクションを生成します。また、「確実に」で提示された「ヒンジ認識論」のウィトゲンシュタインのユニークな見解を把握するために失敗することによって1コミットエラーを示しています。デュアルシステムの用語でこれがどれほど明確であるかを示すために、章全体 (および本の大部分) を書き直しなければなりません。私はここ数回のセクションを書き直したので、しばしばサールの他の本のレビューで、私はいくつかの簡単な例を与えるでしょう。

p129 の文 "現実を経験に依存していません、しかし、逆に、問題の現実の概念は、すでに特定の種類の経験を作り出す因果能力を伴います。だから、これらの経験が赤い物体を提示する理由は赤いオブジェクトであるという事実は、この種の経験を作り出す能力を伴うということです。直線であることは、経験のこの他の種類を生成する能力を伴います。結論は、彼らが赤い物体や直線を見ているように見えることなく、生物はこれらの経験を持つことができないということです、そして、「それらに見えます」知覚体験の本質的な志向性をマークします。「S1 は S2 の入力を提供し、「red」はそれが各文脈で COS であるという命令を使用するので、特定の 방법으로これらの単語を使用することは、赤を見ることを意味します。通常のケースでは、それは我々が赤を参照してください私たちには見えません、我々はちょうど赤を参照してください、私たちは「私たちが疑問になっているケースを記述するように見える」を使用しています。

「今の私たちの質問は、世界のモノの性格と経験の性格との間には、本質的なつながりがあるのか」と、「知覚の記述において、私たちの公共の言語ゲーム (S2) は役に立つ (一貫している)」と翻訳することができますか」と p130 は説明します。

セクション X '後方の道' の最初の段落は、おそらく本の中で最も重要なものであり、それはすべての哲学のために重要であることを理解するためには、正確な1:1 接続または S2 の S1 への減少は、lang で記述する多くの方法のために才は、特定のイベント (精神状態、すなわち、知覚、メモリなど) を提供します。したがって、行動を捕捉することの明白な不可能 (言語、思考) 完全にアルゴリズム (「強い AI」の絶望) または脳内の所与の神経パターンからの外挿しの巨大化行為への (言語ゲーム-すなわち、無限の文脈における言葉) 我々はそれを記述するために使用します。「後方道路」は S1 を記述するために使用される S2 の言語 (COS) です。再び、私は、2つのシステムフレームワークを使用する彼の失敗は、不透明でない場合、

これは非常に混乱をレンダリングすると思います。もちろんです、彼はほとんどすべての人とこの失敗を共有します。サールはこれについてこれまでにコメントしており、他の人（例えば、ハッカー、W 様々な文脈で）しかし、それはほとんどの哲学者とほとんどすべての学者を免れたようです。

再び、サールは、XI と X12 の宗派でポイントを逃す-我々はしないと '見て' 赤または 'のように思える' メモリを持っているか、経験と単語の関係を仮定するが、すべての知覚と同様に、自然な公理的の真の精神状態を構成する記憶としてシステム1の s, 我々はちょうど経験を持っていると、「それは「赤」などになります, システム2によってこの文脈で、この単語とパブリック言語で記述された場合. 私たちは、これがヒンジであることを知っています-私たちの自動行動である私たちの心理学の公理であり、仮定や判断や前提の基礎であり、判断、テストまたは変更することはできません分かりやすく。As W は何度も指摘し、S1 の間違いは S2 の1つと全く異なる種類です。説明することはできません-我々はそれがどのように動作するかを記述することができるので、我々の重要な「説明」を取得する可能性はありません高次心理学。彼がいつも持っているように、サールはウィトゲンシュタインよりも行動（言語）をよく理解しているという共通の、そして致命的な過ちを犯す。W、S、他の多くのものを読んで10年後、私は W の「明快の例」、格言と trialogues は、通常、冗長なよりも大きな照明を提供していることがわかります他の誰の disquisitions

「我々は、not はあらゆる種類の理論を前進させる、tここでは、私たちの考慮事項で何か仮説であってはなりません。私たちはすべての説明を捨てなければならず、説明だけでもそれ場所。(PI 109)。

p135 では、知覚を記述する1つの方法は、イベントまたはオブジェクトが自己再帰的な COS1 が我々の目の前に赤いバラを見るということであり、通常の英語圏の人のための適切な文脈で、それが私たちを導くニューロン活性化 (精神状態) のパターンを引き起こすということです「私は赤いバラを参照してください」という言葉を生成する筋肉の収縮を有効にします COS2 はそこに赤いバラがあるということです。または単純に、S1 は適切なコンテキストで S2 を生成します。だから ,p136 では、S1 は、我々は、「スムーズ」の言語ゲームは、この文脈で動作し、我々が翻訳することができますどのように記述した「スムーズ」という言葉でこの文脈で表現 S2 につながると言うことができます基本的な行動と基本的な認識意図的な内容は私internally を特徴としているにもかかわらず、満足の条件に関連するintentionalistically、特徴 F が知覚されるのは、そのタイプの経験を引き起こす能力にあるからである。そして、行動の場合、eそのタイプの xperiences はそのような身体運動を引き起こす能力においては、基本的知覚 (S1) は、基本的な反射作用 (A1) に自動的に (内部的に) 導くことができる (すなわち、指を燃やして腕を引き出すことにつながる) だけで、それが認識されるように意識に入る。と言語 (S2) で説明されています。

p150 において、推論とは、知ること、判断すること、考えていることのように、知覚は非情報である一方で、情報 (真または偽) である公 COS と言語で表現された S2 気質である (ハッの私のレビューを参照してください。ミャーのまずは本) S1 の自動応答と S1 で推論の言語ゲームをプレイする意味のある方法はありません。私たちが見る木とすべては数百のための S1 です。ミリ秒または、その後、通常、彼らは (アスペクト形状またはとして見て) 接続された言語を取得 S2 を入力します。

p151 et seq に関して、サールは、後の W に対する彼の注意の欠如の一部として、おそらく W の中の色の言葉の最も浸透した分析であるものを参照するようには思えないという悲しいことです。'備考色', これは、私が見てきた主題のほぼすべての議論から欠けています。唯一の問題は、どのように我々は、色の単語と「同じ」、「異なる」でゲームをプレイするのですか経験,このような公共の言語の文脈 (真または偽の文-COS2) では、プライベートのものに言語と意味がないので (S1)。だから,それは (神経科学者を除いて) S1 の精神状態で何が起こるかは問題ではありませんが、彼らは S2 に入るとき、我々は彼らについて言うものだけ。それはすべての日としてクリア 7.8地球上の10億は、神経活動のわずかに異なるパターンを持っているすべての時間彼らは赤を参照してください、S1 と S2 の間の完全な相関関係のための可能性はありません。上で述べたように、それは絶対的に重要これを明確にするために、すべての哲学者と学者のために。

vat (p157) の脳に関しては、我々は、S1 と S2 の正常な関係を混乱または排除する限り、我々は志向性の言語ゲームを失います。同じことがインテリジェントマシンに適用され、W は80年前に決定的にこの状況を説明しました。

「生きている人と、生きている人間のように似た (振る舞う) ものだけが、言う：それは感覚を持っています。それは見る;は盲目です。聞く聴覚障害者です。意識や無意識である。(PI 281)

第6章: はいdisjunctivism(ほぼすべての哲学的な論文のように) 一貫性がなく、このと他の不条理が彼自身の部門で繁栄し、彼の心の哲学でトップマークを得た彼の元学生の何人かの間でさえ、ほとんどのように、彼はあまりにも停止したことを示していますすぐに彼のウィトゲンシュタイン研究で。

p188 では、はいveridical 見て、「知っている」 (すなわち、K1) は、S1 が真のみであるので、同じです-すなわち、それは、S2 の遅い、審議の公共言語ゲームでのみ記述することができ、高速、公理的、因果関係自己再帰、自動精神状態です。

p204 について-5,表現は、思考のように、知られているように、それは無限に可変であるパブリック COS と S2 の性質であるため、常に側面の下にあります。

もう 1 回お願いします,私は2つのシステムの使用を考えるフレームワークディスカッションが大幅に簡素化されます。S1 の「プレゼンテーション」のために「表現」を使用することを主張するならば、R1 には一過性の神経生理学的精神状態である COS1 があり、COS2 (アスペクト形状) が公開されている R2 とは全く異なる应该说すべきである、言語的言語ゲームは明確な意味を欠いているので、表現の状態と無意識の精神状態の概念は違法です。

悲しいことに、p211 サール,多分彼の執筆の10回目(そして延々と彼の講義で),「自由意志」は幻想かもしれないが、注意して30からの W として、一つは、私たちの選択を持っているような「蝶番」を否定したり、判断したりすることはできません、または、我々が見る、聞く、眠る、手を持っている、というように、これらの言葉は行動の基礎となる自動行動心理学。

p219 下と222ページのトップへそれは彼の仕事で W だった,その行動は証拠の基礎を持つことができないことを指摘し、その基礎が私たちの動物の確実性または疑いと確実性の基礎であり、疑うことができません (S1 のヒンジ) であるということであることを、「確実に」で最高潮に達しました。彼はまた、私たちの基本的な認識 (S1) では、それがメジャーまたは持続している場合には、(S2 のものとは異なり) テストすることはできませんが、それ以上のテストではなく、狂気につながることを、私たちの基本知覚の「ミス」ということを何度も指摘。

Phenomenalism p227 トップ:「新世紀の哲学」の私のレビューでサールの優れたエッセイ「現象学的錯覚」に関する私の広範なコメントを参照してください。自分の私的な経験を「現象」、「見る」、または何か他のものとして言及するための令状すらありません。W が私たちに示したように、言語は公開テスト可能なアクティビティ(プライベート言語なし)にしかありません。そして、p230 の問題は、「理論」が不十分であると思われるのではなく、(ほとんどの場合、すべての哲学的理論ではないように)それがコヒーレントであるということではありません。それは明確な COS を持っていない言語を使用しています。W は、私たちができることは、理論を作ることができる科学者であると述べていると主張しています。

一番下の行は、これは古典的なサールであるということですから—素晴らしいとおそらく少なくとも他の人が作り出すことができるとして、しかし、後のウィトゲンシュタインの基本的な洞察の理解を欠いていると、思考フレームワークの2つのシステムを把握していない、華麗にしました。

Iまた、W は、いくつかの「精神現象」(すなわち、公共行為に通じる性質)が脳内のカオス的な過程で発生し、それに対応するものがないことを示唆することによって、これらの「パズル」のいくつかに興味深い解決策を提起したことに注意してくださいメモリトレースに、また、単一の意図または行動として識別可能な単一の脳プロセスに、因果鎖がトレースなしで終了すること、および原因「イベント

」と「時間」は適用されなくなります (有用なのは、明確な COS を持つことです)。その後、多くは物理学と複雑さと混沌の科学に基づいて同様の提案をしてきました。しかし、現代の意味での「混沌とした」ということは、法律によって決まるのではなく、予測できないものであり、混沌の科学は彼の死後には存在しなかったということを思い出しなければならない。そして再びカオス理論は、決定不能と不完全の両方であることが証明されていることに注意してください (ゲーデルのセンス)。

すべての私たちの行動 (またはあなたが望むなら脳機能) は、その起源を持っています私たちの生来の心理学したがって、哲学、社会学、人類学、政治学、心理学、歴史、文学、宗教などの「人間科学」そして「ハード物理学、数学、バイオの科学ロジーは、ミックスの言語ゲームの質問ここで説明したように、経験的事実が何であるかについての実際の科学的なもの。経済学は今まで存在そして私は何を繰り返すウィトゲンシュタインずっと前に話してくれた

「哲学者は常に彼らの目の前に科学の方法を見て、たまらなくは科学が行う方法で質問し、答えるために誘惑されています。この傾向は、形而上学の本当の源であり、完全な暗闇に哲学者を導きます。(BBB p18)

ここで目立つ特徴を持つ志向性 (合理性、心、思想、言語、人格など) の表は、より正確に、または少なくともヒューリスティックとして機能し、我々が考え、行動する方法であり、そうでないことを包含するという私の主張です単に哲学と心理学だけでなく、他のすべて (歴史、文学、数学、政治など)。

キーを社会は生物学であり、それに **obliviousness**世界の大部分をリードしている支持自殺ユートピア理想リード地球上で地獄に容赦なく。私はこれを私の本の中で詳しく説明します。自殺ユートピア妄想21^{世紀}第4版 (2019) と「民主主義による自殺:、アメリカと世界のための破損通知' 2ndエド (2019)。